

第20期 2013年度  
ハピネスあだち事業計画



「施設サービスの地域化」  
地域の情報発信とサービスの還元

## 2013 年度ハピネスあだち事業計画目次

部署区分	部門テーマ	目次
ハピネスあだち 施設長	「施設サービスの地域化」 地域の情報発信とサービスの還元	P1～P8
<b>特別養護老人ホーム部門</b>		
特養マネージャー	特養 150 室 稼働率 95.7%の確保 —地域文化の発展と発信—	P9～P25
2F 生活援助部門	707目標：地域に根ざした住みやすい環境づくり Aユニット：入居者と家族が繋がる環境 Bユニット：ありのままに暮らす Cユニット：その方らしい暮らしが出来るユニット Dユニット：生活を豊かにするユニット Eユニット：食事ケアの向上	P26～P31
3F 生活援助部門	707目標：心と人生の統合を目指し、満たされた生活を送る ～その人らしく生きる～ Aユニット：過ごしやすく、季節を感じられるユニット Bユニット：表に出ない訴えに気付き、安心して暮らせるユニット Cユニット：1. 季節を感じられる行事の実施 2. ユニット内の談話スペースの活用 Dユニット：一期一会 ～家族の一員としての気付きを大切に～ Eユニット：安心して暮らせる家をつくる	P32～P37
4F 生活援助部門	最期の時まで尊厳を守るケア Aユニット：居心地の良いユニット作り Bユニット：落ち着いて過ごせる居室作り Cユニット：季節を感じるユニット創り Dユニット：環境整備 Eユニット：入居者様と楽しく会話出来るユニット創り	P38～P43
<b>医療サービス部門</b>		
医務看護部門	重度者を受け入れて看取り援助で尊厳を回復させる	P44～P48
機能訓練部門	Education ～教育～	P49～P52

<b>センターオフィス部門</b>		
事務部門	関東エリアの事務拠点と認知症ケアの充実と地域への 拡充を目指して	P 53～P 58
食事サービス部門	食を通して地域を健康に	P 59～P 62
<b>在宅施設部門</b>		
在宅施設部門 マネージャー	施設と地域を結ぶ	P 63～P 66
ショートステイ	地域の中のショートステイ	P 67～P 71
デイサービス 一般型	「在宅と施設をつなぐ」 コミュニティ、コーディネーター	P 72～P 80
デイサービス 認知症専用型	「家族の負担軽減、地域の認知症ケアを担う」 リスペクト・オブ・リビング	P 81～P 86
<b>ケアステーション部門</b>		
ケアステーション部門 マネージャー	在宅生活継続への支援「地域居住を目指して」	P 87～P 92
居宅介護支援事業	在宅生活継続への支援「地域居住を目指して」	P 93～P 100
訪問介護事業	笑顔で在宅生活が続けられるお手伝い 「地域居住を目指して」	P 101～P 105
<b>地域包括支援センター江北</b>		
	「地域を紡ぐ」 ～孤独に寄り添う地域を目指して～	P 106～P 113

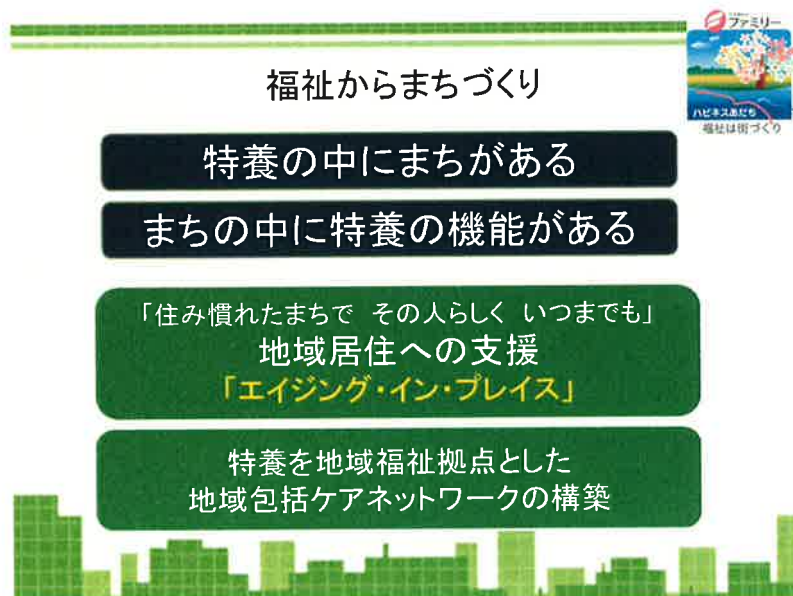
2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	第20期（2013年度）ハピネスあだち施設長方針		
作成者	部署名		役職名 施設長
	氏名	小川 利久	
年度目標 テーマ	「施設サービスの地域化」 地域の情報発信とサービスの還元		

2013年度、ハピネスあだちは8年目の運営に入ります。混乱の立上げ期から、職員や各サービスの育成期を経て、様々な活動は成熟期に入ってきました。特養の重度化を支える看取り援助も100人の事例を超えるに至り、また昨年度からスタートしてきた家族との看取り援助勉強会を通してさらに充実し各施設や団体からも研修・セミナーなどの情報提供を求められる機会が増えてきました。その看取り援助までのプロセスとして行ってきた口腔リハビリテーション活動における摂食機能評価も効果を引き出し、根拠をもって適正に看取り援助を実現する大きな役割を果たしてきました。

また重度化対応のひとつとして認知症ケアとして取り組んできた学習療法も効果を継続できる段階となりました。2012年11月には地域住民向けに「脳の健康教室」を開設し、同年12月2日には地域貢献事業オープン講座の地域化として取り組んだ「学習療法シンポジウム in 足立」において地域へ情報提供する機会となりました。

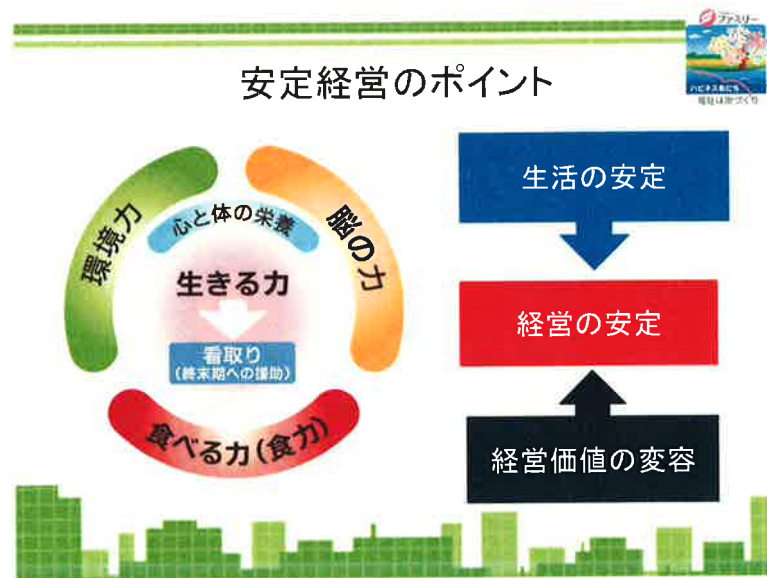
私たちはハピネスあだちで取組み、高齢者福祉の新たなサービスとして台頭してきた「学習療法（脳のか）」、「口腔リハビリテーション（食べる力）」、「看取り援助（生き切る力）」などを、在宅サービスを通して地域へ還元することによって、「施設サービスの地域化」をはかり、福祉からまちづくりの貢献してまいります。



私たちはユニット型特養を中心に施設の中に「小さなまち」をつくり、ハピネスあだちでの生活が地域から逸脱したものにならないような環境と生活支援に取り組んできました。それが、本来ユニットケアがめざす環境の力であり、個別ケアへの道です。

またそのことによって、認知症高齢者のこれまでの地域生活における長期記憶とつなげ、施設に引っ越しても安定した生活の継続を保障してきました。2013年度は、その取組みを地域に広げ、「まちの中に特養の機能がある」をテーマに、このまちに暮らし続けることができる「地域居住」を実現してまいります。

これらの取組みは高齢者の生活の安定を支え、施設経営の安定につながります。さらにわたしたちの経営価値を向上させるとともに、職員の労働価値も向上させていきます。



### 1. 2013年度ハピネスあだち組織体制

開設7年間の歩みにより、職員ひとり一人の能力が向上し、チームワークが安定の基盤となりました。施設運営は成熟期段階にあります。それに見合った効率の良い組織体制で臨みます。

以下の5部門制として運用します。

#### (1) センターオフィス部門

従来の事務部門に栄養サービス部門を統合します。

事務部門は労務担当、会計担当、利用者管理担当、一般事務担当の4担当制とします。

前年度同様、栄養部門は従来の食事を通した「身体の栄養」担当と、「頭の栄養」担当に区分し、併設した学習療センター機能をさらに充実させていきます。

具体的目標としては

- 1) 学習療法見学施設として導入希望施設への支援活動を行うこと

2) ハピネスあだちが幹事施設となって2011年9月に設立した「足立区学習療法実践研究会」を軌道に乗せ、足立区内の導入施設を増やし事例数を増やし学習療法の効果を理論化する道を構築すること。さらにはその活動を関東広域から全国規模へ広げていくために情報発信し先陣をつとめます。それによって我々の利用者、地域住民の生活の質を向上させていきます。

3) 学習療法普及を地域住民へ拡充していくこと

2012年11月1日に開設した「HAC (Happiness Aging Community) 脳のいきいき健康」(木曜午前のみ)をさらに開催曜日を増やし、地域住民への参加機会を増やしていきます。

(2) 特養部門

特養マネージャー(生活相談員兼ケアマネージャー)の下、各フロアリーダー(3名中3名がケアマネージャー)が生活相談員業務を担い、フロアリーダーの下でユニットリーダーがケアプラン業務を担う業務分担をさらに充実させます。ただし専任生活相談員、ケアマネージャーは継続的に配置し、フォロー体制を組んだ組織をシステム化していきます。また聴覚障がい者専用ユニットである4Aユニットの機能見直しをはかりあらためて聴覚障がいの受け入れを積極的に増やしてまいります。(2012年度末時点、聴覚障がいは3名)

併せて足立区ろう協会との連携をめざし施設内の手話ボランティアの受け入れから、在宅サービス、地域サービスへその輪を広げていきます。

(3) 医療サービス部門

医療サービス部門マネージャーの異動に伴い、新たな組織編成を行い、外部研修や「向日葵の会」などの活用、ハピネス都筑と連携するシステムなど、教育手法や連携手法を構築していきます。特養部門の口腔リハビリテーション、看取り援助の水準を保持しながらさらなる向上をめざします。

医療サービス部門の下に看護部門と機能訓練部門を配置します。看護部門はショートステイとともに、デイサービス看護もフォローする体制とします。さらに配置医師、協力病院との連携の責任窓口とします。前年度同様、単独部署であった機能訓練部門を医療サービス分野として統合し、専門職分野の連携をさらに継続し強化します。

(4) デイサービス、ショートステイ部門

2012年度から取組んだデイサービス、ショートステイの二事業を統括し、専任マネージャーを配置し、ショートステイ、デイサービスの一体的運営の本格的稼働をめざします。本来の目的である在宅高齢者の連携したケアマネジメントをはかり具体策をもって利用者の一元的サービス提供を実現してまいります。

(5) ケアステーション(居宅介護支援事業所、訪問介護事業所)部門

ケアステーション（居宅介護支援事業所、訪問介護事業所）の2部門を統括できるマネージャー体制を継続していきます。専任ケアマネージャー5名体制を整え、地域ニーズにこたえるサービス量の拡大をはかります。そのために風通しの良いケアステーション部門の組織マネジメントを強化し、高齢化の進む地域ニーズに対応していきます。

(5) 地域包括部門

主任ケアマネージャー、保健師、社会福祉士の三専門職相談員体制とし、介護予防支援員2名に加えてさらに高齢化率30%を超える地域ニーズに応えます。また介護予防プラン増加、地域支援事業の充実など地域ニーズに応えるために主任ケアマネージャー有資格者をさらに1名増員し組織の強化をはかることよって「地域居住」をめざす高齢者への情報発信と相談業務を充実させていきます。また本年度からスタートする「閉じこもり予防策」にも専任職員を配置し対応していきます。

2. 各事業運営方針

(1) 特別養護老人ホーム

1) 重度者の受入れ（前述）

要介護度4、5⇒70%以上

認知症高齢者の生活自立度Ⅲ以上の重度者の受入れ⇒65%以上

胃ろう・吸引の医療行為が必要な方の受入れ⇒15%以上

待機者受入れに速やかに応え稼働率96%

(SS空室利用含む、特養のみ95%)を維持

2) 経管栄養者の受入れを増やす→看護職と生活援助員の連携をシステム化

医療行為連携委員会の運用により、胃ろう、吸引ができることをハピネスあだちのスタンダード技術とし、生活援助員（介護職員）の育成の充実とシステム化をはかります。

3) 介護福祉士の育成・資格取得支援

4) 看取り介護技術の熟成をはかり、さらに看取りニーズに応える

5) 嘱託医との連携

6) 協力病院との連携

7) 地域医療機関との関係づくり

⇒在宅高齢者の口腔介護リハビリ、看取り援助にも寄与

8) 各介護保険事業所への情報発信と連携

9) 入院者への的確なフォロー体制づくり

(2) 在宅ケアサービスの質の向上

1) ショートステイの利用サービスの向上

①稼働率95%（特養空室利用含む稼働率102.5%）

- ②事故の軽減
- ②重度者の受入れ
- ③緊急利用者の受入れ（新規制度ニーズへの対応）
- ④リピーターニーズへ応える
- ⑤特養空室の有効利用

2) デイサービス

重度者ニーズに対応できるデイサービスの再構築を行う

曜日ごとのカルチャー教室のメニュー選択制の導入

- ①稼働率 90%
- ②利用ニーズの再確認とサービスの質の向上
- ③一般型、認知症専用型、介護予防型の各ニーズを明確化し、サービス区分をはかりそれぞれ専門性をめざす
- ④利用者対象地域の再設定（江北、堀の内エリアのシェア増大）
- ⑤職員教育によるサービスの質の向上  
→主に準職員の質の向上と役割分担の見直し（再活用）
- ⑥7-9時間サービス提供体制の構築（新制度対応）

3) 居宅介護支援事業

- ①第一優先エリア（江北、堀の内地区）の地域ニーズに合わせた活動
- ②第二優先エリア（新田、宮城、鹿浜、扇、西新井本町）のニーズ開発
- ③独立採算体制の確立  
（ケアマネジャー1人介護給付35+介護予防8件プラン体制）
- ④特定事業所体制の継続
- ⑤地域ケアマネジメント拠点としての機能強化

4) 訪問介護事業

- ①サービス提供量の増大→目標  
居宅介護支援事業所と密接な連動をした活動  
エリア展開⇒チーム制  
第一優先エリア（江北、堀の内地区）の地域ニーズに合わせた活動  
第二優先エリア（新田、宮城、鹿浜、扇、西新井本町）のニーズ開発
- ②介護予防支援、生活援助から身体介護までのサービス提供
- ③サービス提供責任者体制の強化
- ④常勤ヘルパーフル稼働によるサービスの均質化をはかる
- ⑤登録ヘルパーの増員と教育体制の確立

(3) 地域包括支援センターとの連携

- ①介護予防プラン増大への対応・・・介護予防支援員（ケアマネジャー）の2名配置



により高齢化率31%を超える地域ニーズへこたえる

- ② 特定高齢者へのサービス提供支援
- ③ 一般高齢者へのサービス提供支援

#### ■ 予算統制への対応策

戦略的な予算編成と執行管理から適正な施設経営をめざす

収支差額目標 22.8% (本部会計繰入れ1.5%後)

##### 1. 予算統制に基づく施設経営を行います

法人方針、施設方針に基づき、事業ごと(会計区分)に事業計画を作成します。特養はさらにユニットリーダーがユニット事業計画を作成し、フロアリーダーがフロア事業計画、特養マネージャーが特養全体事業計画を策定する。

その各事業計画を目標に置き、目標達成に向けた適正な運用および予算統制を行い、収支バランスを保ち経営の健全化を保持します。

##### 2. 事業リーダー別予算統制体制の確立

- (1) テーマを簡潔な言葉で提示
- (2) 稼働率、収入目標設定  
入院日数管理、予測
- (3) 年間月別スケジュール表
- (4) 支出削減目標(特に業務費削減)
- (5) 2012年度分析・評価からみた方針
- (6) 介護保険制度改正について  
各加算項目についての対応とその根拠、計画
- (7) 各目標設定については理論性を求め、数値的根拠を示すこと
- (8) 職員研修、人事考課推進計画を示すこと
- (9) 業務課題、改善計画の職員参加策と対応方法
- (10) エコ対策方針
- (11) 行事計画(月次)
- (12) 各種会議の区分設定と実施計画
- (13) 地域貢献および地域参画のための計画案
- (14) 各委員会の運用
- (15) コンプライアンス「法令遵守規程」への取組み計画
- (16) その他

##### 3. 介護報酬各加算項目への対応します

第5期介護報酬改正2年目における各加算項目のさらなる充実した運用を行います。利用者への付加サービスから質の向上へも大きく貢献します。

その評価として収入の確保は実施サービスの経費の捻出根拠となり、さらには健全経営へつなげます。

わたしたちは以上の考え方のに基づき、法人全施設において加算項目のサービスの実施に積極的にチャレンジしています。

### ■具体的な取組み目標

#### 1. ホーム家族会との連携体制の強化

(1) ホーム家族会〇B会の設立

(2) ケアプラン作成カンファレンスへの家族の参加働きかけとシステム構築

#### 2. 各研究機関、学会等との連携による介入研究等から社会貢献

(1) 職員研修システムの確立（にじ色ノートの再構築と適正な運用）

(2) 口腔リハビリ；摂食機能障害の地域化推進（NPO日本医療交流協会、日本歯科大学との共同）・・・食力実践研究会の見直しと活用

(3) 看取り援助を在宅ケアサービスを通して地域への情報提供

家族看取り援助勉強会の参加対象者を家族、地域事業所、地域住民へと拡大する。

(4) 東京都社会福祉協議会ユニット型特養情報連絡会への参画と情報支援

(5) ユニットケア（ネットワーク拡大による質の向上）

(6) 学習療法による認知症ケアの確立

くもん学習療法センターと連携し、関東広域実践研究会ネットワーク体制の確立。

事例検討の幅を拡げ地域への情報発信。

「足立区学習療法実践研究会」の活性化、「脳の健康教室」の拡大（週1回から3回へ）

(7) 介護施設経営、介護事業経営研究会への貢献（日本介護経営学会へ情報提供と連携）

(8) ファミリーエイジング研究所機能の確立、高齢者サポート実践研究会、新たな特養役割を考える会の参画を通して質の向上と地域への情報提供。

#### 3. 職員教育・・・特にリーダー層の教育強化

★施設長および外部講師による定期的な施設内研修会を実施する

(1) 外部対応力

(2) 連携・補完力

(3) コーディネート力

(4) コーチ力

(5) マーケティング力

- (6) 分析力
- (7) 企画力
- (8) 提案力

4. 雇用創造への貢献

介護雇用プログラム支援事業（東京都、足立区）への取組み

- (1) 介護福祉士養成 Max 3名（東京都事業）
- (2) ヘルパー2級養成コース 3名程度（足立区事業）

5. 聴覚障がい者向けサービスの見直し

足立区ろう協会との連携強化、実習生の受入れ、手話教室（職員向け、地域住民向け）

6. 職員労務環境の整備

- (1) 職員のための学習室（5F研究室活用）の有効活用
- (2) 資格試験合格講座の開設  
介護福祉士資格取得、介護支援専門員

7. ハピネスあだち地域貢献事業

- (1) ハピネスあだち開設6周年事業「オープン講座」  
前述の学習療法
- (2) ボランティア感謝の集い

8. コンプライアンスへの取組み

法人本部連携 業務管理（法令遵守）体制に準じる  
施設連携会議による情報伝達と管理を実施する。

9. 実習生の受入れ

- (1) 東京家政大学（社会福祉士コース）
- (2) 千住介護福祉専門学校
- (3) 浦和大学短期学部（介護福祉科）
- (4) 帝京平成大学（理学療法学科）
- (5) 東京福祉大学（社会福祉士コース）
- (6) 西新井看護学校（地域包括）

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	2013 年度ハピネスあだち特養部門事業計画 (案)			
作成者	部署名	特別養護老人ホーム	役職名	特養マネージャー
	氏名	内山 彰吾		
年度目標 テーマ	特養 150 室 稼働率 95.7%の確保 —地域文化の発展と発信—			
<p>ハピネスあだちが開設してからこれまで、特養部門は各ユニットを地域として捉え、ユニットリーダーを中心に入居者が安心して生活できる環境を整えてまいりました。開設から 8 年目を迎えるにあたり、独自の個性あふれる地域文化がユニット毎に生まれつつあります。2013 年度は更なる地域文化の発展を目標とし、これまで以上に住環境をはじめとするユニットケアに重点を置き取り組めます。</p> <p>具体的には次のように取り組めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員の目標管理と育成           <p>質の高い地域（ユニット）を作るには職員の育成が欠かせません。特にユニットリーダーはユニットを形成するにあたり、中心的な役割を担うべき存在です。ユニットリーダーとフロアリーダーにて事業計画を立てることにより、ユニットリーダーが目指す目標を明確にします。</p> <p>その目標に向かって確実に取り組みを行えるよう支援を行います。また、各種研修を通じ、ユニットリーダー及び職員の質の向上を目指します。</p> </li> <li>○ 住環境整備           <p>住環境を整えることで入居者の暮らしは安定します。ユニットリーダーを中心に住環境の整備に力を入れて取り組めます。</p> <p>また、入居前に自宅を訪問し、入居者の居室について検討。居室の充実を目指します。</p> </li> <li>○ 個性あふれるユニット作り           <p>1 ユニット年間 20 万円を目安としたユニット費を予算に計上します。ユニット費を有効に活用し環境整備、行事等を充実させます。</p> </li> <li>○ 情報の発信           <p>ハピネスあだち特養部門の取り組みを以下の方法で発信、地域への還元を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 家族会役員会の継続</li> <li>◆ 家族会 OB 会の設立（2013 年度 6 月）</li> <li>◆ 家族を呼んでのカンファレンスの開催</li> <li>◆ 「家族看取り援助勉強会」の継続的実施</li> </ul> </li> </ul>				

2013 ハピネスあだち事業計画

- ◆ 見学者の積極的な受け入れ
- ◆ ボランティア（聴覚障がい者含む）の受け入れ
- ◆ 実習生の受け入れ
- ◆ 「特養の新たな役割を实践する研究会」の発展

以上を踏まえ、特養部門の現状と事業計画を以下にまとめます。

1. 適正な施設運営の継続

1) 各種加算への対応

2013 年度も引き続き、重度者の受け入れや口腔リハビリテーション及び看取り援助等の取り組みを通し、各種加算の適正な取得を目指し取り組みます。

2) 稼働率

表 1. 2013 年度稼働率計画

	特養日数	入院日	空室	特養稼働率	SS空室利用	合計日数	合計稼働率
4月	4,324	137	39	96.1	40	4,364	97.0
5月	4,441	167	42	95.5	40	4,481	96.4
6月	4,317	144	39	95.9	44	4,361	96.9
7月	4,444	164	42	95.6	47	4,491	96.6
8月	4,451	160	39	95.7	45	4,496	96.7
9月	4,334	127	39	96.3	40	4,374	97.2
10月	4,414	194	42	94.9	50	4,464	96.0
11月	4,350	111	39	96.7	37	4,387	97.5
12月	4,477	131	42	96.3	40	4,517	97.1
1月	4,389	219	42	94.9	70	4,459	95.9
2月	4,023	141	36	95.8	47	4,070	96.9
3月	4,432	179	39	95.3	47	4,479	96.3
計	52,396	1,874	480		547	52,947	
平均				95.7			96.7

※単位：特養稼働率、合計稼働率は%、その他は日

入居者や家族に安心して生活していただくためには適正な施設運営が必要不可欠です。2013 年度は特養単体で 95.7%の稼働率を達成するため取り組みます。月別稼働率計画は表 1 の通りです。

3) 入居受け入れ手順

2013 ハピネスあだち事業計画

2013 年度も以下の通りご入居者の受け入れを行います。

- ①声かけ …ハピネスあだちへの入居を希望されている方を対象に足立区の「特別養護老人ホーム入所選考者名簿」に基づいて声かけを行います。
- ②見学 …契約者（身元引受人）を含む家族に来訪していただき、ハピネスあだちの説明を行います。
- ③面接 …入居希望者が生活されている場へ出向き状態、状況を確認します。主に生活相談員が行いますが、必要に応じてフロアリーダーや看護職員も同席します。またこの際、健康診断書を手渡します。
- ④入居判定会議・面談と健康診断書の結果を元に入居判定会議を行います。
- ⑤重要事項の説明・施設内にて契約者（身元引受人）と行います。
- ⑥事前訪問 …可能な限りフロアの生活援助員と生活相談員にて自宅を訪問し、入居前の状況を確認します。その際ハピネスあだちでの居室作りを本人、家族と共に考えます。
- ⑦入居 …入居日当日は生活援助員、看護職員、生活相談員立会いのもと、ご家族に意向調査を行ない、安全な施設生活が営めるよう配慮します。

入居前に施設全般についての説明をします。また、中でも以下の項目については重点的に説明を行い、本人及び家族と施設の間でずれがないよう配慮します。

- ①個人に合わせた車椅子の導入
- ②身体拘束は行わない
- ③看取り援助
- ④学習療法
- ⑤嘱託医の役割

4) 平均要介護度目標

表 2 2012 年度平均要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9		3.8
女	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1		4.1
平均	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0		4.1

2月末現在

表 2 は 2012 年度の平均要介護度の表です。2013 年度も引き続き要介護度 4 または 5 の方（もしくは認知症自立度Ⅲ-a 以上の方）を受け入れの基本とし、概ね 2012 年度と同様の平均要介護度を維持することを目標とします。

2013 ハピネスあだち事業計画

5) 男女比の目安

2013年2月末時点で男性が26名、女性が124名となっています。2013年度も同様の比率になることが予想されます。

6) 平均年齢の目安

表3 2012年度平均年齢の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	80.87	80.50	81.35	81.83	81.95	82.19	81.85	82.53	82.65	82.74	83.02		82.06
女	86.19	86.04	86.21	86.53	86.46	86.47	86.54	86.49	86.62	86.75	86.91		86.52
平均	85.31	85.11	85.39	85.72	85.71	85.73	85.76	85.80	85.91	86.03	86.22		85.75

単位：歳

2012年度は85歳～87歳の間で推移しています。2013年度も同様かもしくは少し高くなるのが予想されます。

7) 前居の見込み

表4 入居前の居住形態

	自宅	老健	病院	有料老人ホーム	グループホーム	計
男	3	3	0	0	0	6
女	9	4	1	2	3	19
計	12	7	1	2	3	25

単位：人

表4は2012年度2月末時点での入居前の居住形態です。2013年度も2012年度と同様、足立区の「特別養護老人ホーム入所選考者名簿」に沿って声かけを行い、所定の手続きを経て入居を受け入れていきます。

2012年度は40件の入居を見込みます。

8) 医療枠入居者の受け入れ見込み

表5 医療枠入居者

	胃ろう	吸引	在宅酸素
人数	21	44	3

単位：人

2012年2月末時点での医療枠入居者は上記の通りです。上記胃ろう者の数字には胃ろうを造設しているものの、経口摂取している入居者3名を含んでいます。2013年度も引き続き、新規の医療行為者受け入れ及び、入居中の医療行為発生者における入居の継続を目標に、多職種協働のもと、取り組めます。

2013 ハピネスあだち事業計画

毎月開催される医療行為連係委員会にて定期研修を行う等、安全な医療行為が行えるよう取り組みます。

9) 聴覚障がい者の受け入れについて

2013年2月末時点での聴覚障害者は3名となっています。2013年度も引き続き聴覚障がい者の受け入れを行います。

10) 退居者の見込み

表6 2012年度退居理由

	永眠(施設内)	永眠(病院)	入院	在宅復帰	計
男	3	1	2	0	6
女	16	0	2	1	19
計	19(76.0%)	1(4.0%)	4(16.0%)	1(4.0%)	25(100%)

単位：人

退居者のうち76%の入居者が看取り援助にてご逝去されました。2013年度は入居者の高齢化、重度化が更に進むことが予想され、退居者40名を予想しています。看取り援助の更なる拡充を目指すとともに、家族会OB会の設立等、退居後のグリーフケアにも努めていきます。

11) 入退居者の見込み

表7 2012年度入退居の動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	2	2	2	4	4	1	2	2	1	4	1		25
退居	3	2	4	4	1	2	3	0	3	2	1		25

2月末現在 単位：件

2012年度は2月末現在にて入居が25件、退居が25件ありました。2013年度は入居者の重度化対応に取り組んでいきます。入居退居いずれも40件を予想します。

12) 退居から入居までの期間

表8 退居から入居までの期間

	上半期	下半期	通年
2012年度	16.66日	9.8日	13.92日
2013年度	12日	12日	12日

単位：日

2012年度は退居から入居までの期間が平均13.92日となっております。介護と看護、生活相談員が連携し、平均12日間で入居できるよう取り組みます。

13) 入院日数計画



2013 ハピネスあだち事業計画

表 9 入院日数の実績と計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2012年度	65	62	76	4	0	0	7	32	60	110	137		553
2013年度	169	189	176	198	194	161	238	144	163	241	173	211	2,157

2012年度は2月末現在 単位：日

2013年度は2012年度に引き続き入居者の重度化に対応していきます。入居前からの意向確認や口腔介護リハビリ等により不必要な入院を減少させるよう取り組みます。

14) 空室利用の拡充

表 10 空室利用の実績と計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2012年度	14	15	32	20	4	0	0	0	0	3	12		100
2013年度	39	42	39	42	39	39	42	39	42	42	36	39	547

2012年度は2月末まで 単位：日

2012年度に引き続き、空室利用にて1%の上乗せを目指します。2012年度は入院者居室を含めた空室が少なく、ショートステイの空室利用が進みませんでした。2013年度は特養待機者のショートステイ利用を行う等、ショートステイと特養の更なる連携を図り計画を達成できるよう取り組みます。

15) 稼働率計画

表 11 特別養護老人ホーム単体稼働率の実績と計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
12年	98.1	96.9	97.3	97.5	99.1	99.7	99.3	99.2	98.1	96.8	96.6		98.1
13年	96.1	95.5	95.9	95.6	95.7	96.3	94.9	96.7	96.3	94.9	95.8	95.3	95.7

2011年度は2月末まで 単位：%

2012年度は2月までではありませんが、いずれの月も稼働率目標である95%を上回っています。2013年度も入院日数の減少と安定した待機人数の確保を目指して取り組みます。

表 12 特別養護老人ホーム+ショートステイ稼働率の実績と計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
12年	98.4	97.3	98.0	97.9	99.2	99.7	99.3	99.2	98.1	96.7	96.9		98.3
13年	97.0	96.4	96.9	96.6	96.7	97.2	96.0	97.5	97.1	95.9	96.9	96.3	96.7

2012年度は2月末まで 単位：%

2013年度も引き続きショートステイの空室利用の積極的な受け入れを行います。

以上の取り組みを行うことにより、特別養護老人ホームで95.7%、

ショートステイの空室利用を含めて96.7%の稼働率を目標とします。

2. サービス内容の拡充

1) サービス（ケア）コンセプト（目標）

①職員配置

各階ともに入居者2に対し職員1（2：1）の人員を配置します（4,000時間／30日が目安）。特養部門全体にて年間で147,600時間の配置を行います。フロアリーダーがシフトを管理し、その下に職員を配置します。ユニットリーダーを中心に入居者それぞれに対し、責任を持って生活援助に当たります。

②ケアプラン

各入居者に担当ケアマネジャーを配置します。フロアリーダー（ケアマネジャー）とユニットリーダーが中心となりケアプランを作成。入居者の意向を反映し、ダイレクトに生活援助につなげられるよう取り組みます。

③予算の明確化

2013年度は各階に予算を計上します。事業計画に沿って運用を行います。各ユニットにユニット費として年間20万円を計上し、それぞれの事業計画に沿ってユニットを築きます。

2) 事故件数

表13 2012年度事故件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
転倒	3	3	3	8	5	2	5	6	2	5	3	45
転落	7	8	6	9	15	6	3	3	5	2	4	68
ずり落ち	1	1	1	8	0	0	3	1	3	2	2	22
誤薬	0	2	1	0	1	2	1	1	0	0	1	9
服薬忘れ	0	6	5	4	3	3	2	3	0	3	2	31
異食誤飲	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4
外傷剥離	0	3	3	1	1	2	4	1	2	4	2	23
所在不明	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	0	5	3	2	4	2	1	0	18
計	11	25	21	30	31	18	21	19	14	17	14	221

2011年2月末現在 単位：件

2012年度の事故総数は2月末時点にて221件です。2012年度も引き続き職員の事故に関する意識を高め、事故の減少を目指し取り組みます。また不用意な事故を減らすとともに、事故が起きた際はしっかりと原因分析を行い再発防止に努めます。

3) 保険者への事故報告件数

2013 ハピネスあだち事業計画

表 14 保険者への事故報告件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
件数	1	0	1	0	1	1	3	3	2	2	1	15

2012年2月末現在 単位：件

足立区への報告は2月末時点で15件ありました。うち骨折が12件を占めており、2013年度は数を減らせるよう取り組みます。

4) ヒヤリ・ハットの件数

表 15 2012年度のヒヤリ・ハット件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
件数	23	34	20	33	20	15	20	21	20	14	1	221

2012年2月末現在 単位：件

2012年度のヒヤリ・ハット件数は221件となっております。2013年度も強化月間などの取り組みを行うことにより、各職員が「気づきの目」を持ちながら業務を行えるよう取り組みます。

5) 苦情処理状況

表 16 2012年度苦情処理件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0		3

単位：件

2012年度の苦情件数は3件でした。ときおり苦情もあがりましたが、多職種で協働し対応することにより解決できました。2013年度においても、同様の取り組みを行い、苦情の早期の解決を目指します。また、日頃より入居者や家族と信頼関係を築き、家族や入居者が不安にならないよう取り組みます。

6) 排泄援助サービスコンセプト

表 17 各階の入居者排泄形態

フロア	自立	昼：トイレ 夜：トイレ	昼：トイレ 夜：オムツ	昼：オムツ 夜：オムツ
2F	7人	10人	12人	21人
3F	3人	3人	28人	16人
4F	10人	1人	14人	25人
計	20人	14人	54人	62人

2013年2月末現在

重度入居者の受け入れや、入居者の重度化に伴い、自立であった方がトイレ誘導等に変わる傾向が見られています。

2013年度は、昼夜におけるトイレ誘導を積極的に行っており、昼夜オムツ対応者当の減少を目標とします。

表 18 ポータブルトイレ使用者数

フロア	使用者数
2F	2名
3F	3名
4F	2名
計	7名

7名とも日中はトイレ誘導、夜間でポータブルトイレを使用しています。ポータブルトイレを使用することにより自立とまではいかないものの、見守りでの対応が可能となっている事例もあり、また立位が取れない方の誘導も行える等の効果が見られる場合もありました。今後は個別ケアの中、使用の継続を図っていきます。

#### ① テーナ使用方針と目標設定

個別排泄ケアを進め、個々にあった排泄形態の支援や、排便コントロール、トイレトレーニングを進めていき、排泄ケアの質を高めます。テナコンセプトをしっかりと周知させ、入居者ひとりひとりの排泄パターンや尿量等の見直しを行い、必要外のパッド使用を無くします。

2013年度では、毎月のパッド費用100万円以内を目指し、年間の使用金額1200万円以内を目標として取り組みます。

#### ② コストダウンへの取組み

2013年度も引き続き排泄委員からユニットリーダーに、入居者ひとりひとりの排泄ケアの管理の移行を進めています。入居者の排泄ケアは居室担当が責任を持ち、より個別化を進めていくことでコストダウンへ繋がります。

また年2回の尿測でのパッドの見直しはもちろんのこと、個別排泄ケアを進めて行く中でトイレ誘導等を積極的に取り入れます。

個別排泄ケアについては隔月での勉強会の開催し、排泄に関する正しい知識をつける場を創出します。

#### ③ 排泄コンセプト定着のための取り組み方針

排泄コンセプト＝TENAコンセプトであると考えます。TENAアドバイザーのもと、年2回の勉強会を開催し、新入職員の参加を促します。また日常のケアにおいても、排泄委員会を中心とした指導等を積極的に行っており、当方等を含めて同一のケアが統一できるよう体

制を整えます。

④看護職員等との連携体制

現在行っている排便コントロールにおいては、下剤の調整や食品の検討等、看護職員や栄養士と連携が必要となる場面が多くみられます。またトイレ誘導に際しては、機能訓練指導員の協力等も必要です。排泄委員会での情報交換を主としながらも、ケア方法等については随時情報交換を行い対応します。

⑤排泄委員会の運用

排泄委員会は、排泄ケアを指導していく中心の存在となり、ユニットリーダー・居室担当が排泄についての問題を抱えた際の相談窓口としての機能を担う立場として活動します。適切に委員会を運用することにより職員が戸惑うことなく取り組めるよう支援します。

7) 食事援助サービスコンセプト

①食事援助方針とサービス向上のための計画

2013 年度も個別ケアに取り組み、入居者の意向に沿った食事の提供を継続します。日々の生活を送っていただく中で、食事は楽しみのひとつでもあります。入居者が安心して食事を楽しめるよう取り組みます。

②個別ケアのための取り組み

居室担当を中心に、入居者の意向や状態を把握します。管理栄養士や医務と連携し、変更が必要な場合は迅速に変更を行います。また、機能訓練指導員と連携し、入居者に合わせた車いすの導入を継続します。入居者の目線に合わせたテーブルの導入も継続します。

③口腔機能維持管理体制加算への取り組み計画

口腔機能維持管理委員会を中心に歯科医師と連携を強化します。引き続き口腔機能維持管理体制加算の算定へとつなげます。

④ユニットにおける食事援助の手順と方針

厨房にてクックチル形式で作られた食事をユニットにて生活援助員が再加熱をします。炊飯器でご飯や粥の調理もユニットにて行います。味噌汁は、昼食分と夕食分は厨房職員が厨房の鍋からユニットの鍋に分け配ります。同じく朝食分は前日の晩に汁物も真空パックの状態でご飯が炊ける匂いや、出来立ての温かさ、食器を洗う音などで生活感を味わっていただけるよう配慮します。

食事援助を要する方には、目線を合わせて食事の内容を説明しながら安全に介助を行うようにしています。入居者に食事を楽しんでいただけるよう配慮し、援助にあたっています。

状態にもよりますが、経管栄養の方も1日1回は離床を促し食事を摂っていただきます。口から食べたいという意欲が見られる入居者には口腔リハビリテーション等を通じて安全に食べていただけるにはどのようにすればよいかを検討します。摂食機能評価を適切に行い、家族にも協力を仰ぎながら食事を召し上がっていただくなどの取り組みを行っていま

す。

## 8) 入浴援助サービスコンセプト

### ①入浴装置別使用方針

個室（リフト無） ・・歩行、立位、座位共に遠位見守り程度で入浴動作が自立されている入居者を1人の生活援助員が見守りを中心に援助します。

一般浴（大浴場） ・・行事等にて使用します。

個室（リフト有） ・・立位保持可能で座位姿勢が安定している入居者に生活援助員がユニット内にてマンツーマンで入浴援助を行います。

チェリー・・・座位保持可能であるが、立位困難な入居者に対し、各Bユニットにて2人の生活援助員が入浴援助を行います。

特浴（2.3階ーロベリア、4階ーラベンダー）

・・・座位や立位を保持することが不可能な入居者に対し、2人の生活援助員が入浴援助を行います。

### ②入浴援助サービスの手順と方針

2013年度も個別に浴槽を選定し、個人のADLに合わせた入浴援助を行います。湯温や入浴時間はなるべく入居者の希望に合わせます。意向に沿った入浴援助に努め、安心して入浴を楽しむことのできる入浴援助を提供します。

また体調不良の方を除き、週2回の入浴援助を行います。疥癬など皮膚疾患がある方に対しては医師の指示のもと、毎日の入浴援助も行います。体調不良の方に対しては清拭にて対応します。

入浴時は各ユニットから浴槽への移動を含め、職員がマンツーマン対応を行います。事前に浴槽を温め、入居者が寒くないよう取り組みます。

## 9) 個別ケアプランの活用と運用方針

### 作成手順

各ユニット別に担当ケアマネジャーを配置し、ケアプランを作成します。以下の行程にて作成します。

①入居時に1カ月程度のケアプランを作成します。

②1カ月を目安にカンファレンスを開催。ケアプランを作成します。

カンファレンス参加者：ケアマネジャー、生活援助員、看護職員、管理栄養士、機能訓練指導員、生活相談員

参加希望の家族にも参加いただきます。

③3カ月を目安にモニタリング、半年を目安にカンファレンスを行い、状態を把握しながらケアプランを更新します。

④看取りケア移行時や退院時等状態変化があれば、必要に応じてカンファレンスを開催し、

## 2013 ハピネスあだち事業計画

入居者の状態に即したケアプランに変更します。

### 10) 年間行事

- 2013年7月 夏祭り 実行委員長：津波幸太  
2013年9月 敬老会 実行委員長：未定  
2014年1月 新年会 実行委員長：荻原陽和

上記のハピネスあだち3大イベントを行うと共に、各フロア各ユニットで行事を行います。ユニットでの行事はユニットリーダーを中心に計画、ユニットの入居者の意向を反映した行事を実施します。また、江北小学校や神社、保育園などとも行事を通じて地域との交流も深めます。「ハピネス Bar」についても継続して行います。

### 11) 身体拘束ゼロへの取り組み結果

2013年度も2012年度に引き続き身体拘束を行った入居者は2月末時点でおりません。2013年度も身体拘束・虐待防止委員会を中心に、身体拘束をしないケアを継続して実施します。

### 12) 会議実施計画

表 12 2013 年度会議計画

施設連携会議	毎月第1月曜日
ホーム連携会議	毎月第1火曜日
フロアリーダー会議	毎月第2第4金曜日
フロア会議	毎月1回
ユニット会議	毎月1回
入居判定会議	適宜開催
各種委員会	適宜開催

上記の会議を通じ、理念や取り組み内容の統一を図ります。それぞれの会議で連携、情報を共有しつつ、今年度の計画達成に向けて取り組みます。

また、看取り委員会や医療行為関係委員会、リスクマネジメント委員会等の委員会も定期的に開催します。

### 13) 研修計画

2013年度もリスクマネジメント研修、看取り援助研修、感染症研修など、各指針に基づき定められた研修を行います。それと共に接遇研修等必要に応じて研修を行い、職員の質の向上につなげます。

また、新入職職員については定期的な面接と2012年度下半期に業務標準化研修を通じて改良しました「にじ色ノート」を活用し、育成します。

14) ボランティアの受け入れ

2012 年度は行事ごとに多数のボランティアに来訪いただきました。クラブ活動においてもボランティアの協力のもと、折り紙クラブや書道クラブ、音楽クラブ、詩吟クラブを月に1回ずつ開催しています。草木を手入れしていただくボランティアも受け入れを行っております。

2013 年度も引き続き多くのボランティアを受け入れ入居者及び家族に楽しんでいただき、そしてボランティア自身にやりがいを感じていただけるような環境作りを進めます。

また、NPO 足立区ろう者福祉推進合同委員会とも連携し、手話通訳のボランティアの受け入れも積極的に行います。

15) 第三者評価事業計画

客観的に施設を見つめなおすことのできる取組みであり、地域へ正しい情報を提供する場でもあります。2013 年度も引き続き実施します。

16) 家族会運営状況

2013 年 2 月末時点で 149 家族が所属しています。

毎月 1 回のペースで役員会を開いています。5 月に家族会総会を開催します。また 7 月の夏祭り、9 月の敬老会、1 月の新年会等、施設の大きな行事もボランティアとしてお手伝いいただく予定です。12 月には家族会主催にて大掃除、1 月下旬からユニット懇親会を開催、予定です。ユニット内での懇親会を終えたあと役員・家族・施設職員で座談会を設け、施設への要望などを遠慮なく話して頂く場も提供します。

17) 地域との連携や地域貢献活動計画

2013 年度も以下の行事や取組みを中心に地域との連携を行います。

① 江北小学校運動会

5 月ごろに参加予定です。

② ブラスバンド演奏会

12 月ごろに江北小学校ブラスバンドクラブによる演奏会を計画します。

③ 地域の防災訓練への参加

職員が上沼田中学校を訪問し地域の防災訓練に参加します。

④ 豆まきへの参加

2014 年 2 月 3 日に北野神社に訪問し、豆まきに参加予定です。

⑤ 地域貢献事業オープン講座の開催

2013 年も引き続き開催予定です。

⑥ ボランティア感謝の集いの開催

2013 年も引き続きボランティアの方々及び地域住民を対象に開催予定です。

18) 虐待防止策の実施と評価



3ヶ月に1度開催される身体拘束・虐待防止委員会にて虐待についても予防策を話し合います。2013年度も虐待件数0件を目指します。

19) コンプライアンス「法令遵守規定」への取り組み計画

- ・国、都道府県、保険者の定める制度に沿って業務を行います。
- ・社会福祉法人ファミリーが定める法令遵守規程に沿い、入居者や家族の人権に配慮しながら業務を行います。
- ・区に対する事故報告など、事故の影響により受診した際の報告書提出など行政の定める規則に沿い、行います。
- ・職員に対し計画的に研修を行うことにより、法令順守の心構えなどを含めた知識、技術の指導を行い、成長を促します。

20) 空室のショートステイ利用の促進策

2013年度は空室利用日数547日を目標に以下の取り組みを行います。

① ショートステイ部門と連携を強化します。

特養部門とショートステイ部門で入院者等の情報を共有し、空室が出た際、すみやかにショートステイの利用をできるよう取り組みます。

② 待機者のショートステイ空室利用

待機者に積極的にショートステイ利用を奨励します。特養の退居者ができるまでショートステイを利用していただき、特養の退居者が出た際は、すみやかに特養入居へとつなげます。

21) 環境整備実施状況と評価

2013年度は各フロアに予算を割り振り、環境整備を行います。各ユニットには年間にて20万円を計上、ユニット内の環境整備費等に使用し、個性豊かなユニットを築きます。

各フロアの共用部についても、家具の購入を計画します。パブリックスペース、セミパブリックスペース等、それぞれの場所に意味を持たせた環境整備を実施します。

また新規入居者に対しては入居前の見学時に他の入居者の居室を見ていただき、必要に応じて事前訪問を行い入居後の生活を本人、家族と話し合い計画を立て取り組みました。その結果、入居前に自宅にて使用されていた家具や写真を持ち込む方が増加、入居者の生活の安定に繋がりました。今後もこの取り組みを進めます。

22) 各種記録の整備と記入方法などの取り組みと評価

2012年度に引き続き食事情報、排泄情報、入浴情報、個人記録などを1枚にまとめ記入する書式を採用します。希望のある家族には記録を郵送する取り組みも行っています。

記録の書き方について研修を開催し、ケアの統一を図ります。

## 23) クラブ活動実施計画

2013 年度は以下のクラブ活動を行います。

表 20 2013 年度クラブ活動一覧

クラブ名	開催日	参加者	講師
音楽クラブ	毎月第 3 火曜日	45 名	ボランティア
書道クラブ	毎月第 1 水曜日	9 名	ボランティア
生け花クラブ	毎月第 3 金曜日	15 名	職員
詩吟クラブ	毎月第 4 木曜日	9 名	ボランティア
折り紙クラブ	毎月第 2 水曜日	8 名	ボランティア
料理クラブ	毎月第 4 日曜日	6 名	職員
お元気クラブ	毎月第 4 火曜日	15 名	職員
ハピネス Bar	毎月第 2、4 金曜日	10 名	職員

入居者が楽しめるよう配慮したクラブ活動を行います。ボランティアとの連携も強化し、質の高いクラブを目指します。

## 24) 介護医療関係体制の確立

特別養護老人ホームにおいて、介護と医療の連携なくしては、入居者に安心して生活していただくことはできません。それぞれの役割を明確にし、お互いに依頼をしながら取り組みます。

## 25) 学習療法の取り組み

学習療法の参加者を増やします。また入居者が楽しみながら行えるよう配慮します。学習療法を通じて現れる入居者の変化等にも注目し、今後の取組みにつなげていきます。オープン講座等を通じて地域へも情報提供を行います。

## 26) エコ対策方針

2012 年度もエコに努め節電を心がけてまいりました。引き続き unnecessary な暖房や、電気は使用しないよう努めてまいります。

## 27) 収入計画

2013 年度の特養部門収入計画は、最終ページ「2013 年度特養部門収入計画表」をご参照ください。

以上の計画を 2013 年度ハピネスあだち事業計画と位置づけ、取り組みます。

ハピネスあだちに地域を築き、そして他の地域と結んでいく。最後まで地域で生活できる環境を作るため活動していきます。

2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度特養部門収入計画表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数(日)	4,324	4,441	4,317	4,444	4,451	4,334	4,414	4,350	4,477	4,389	4,023	4,432	52,396
居住費	¥8,868,524	¥9,108,491	¥8,854,167	¥9,114,644	¥9,129,001	¥8,889,034	¥9,053,114	¥8,921,850	¥9,182,327	¥9,001,839	¥8,251,173	¥9,090,032	¥107,464,196
食費	¥5,967,120	¥6,128,580	¥5,957,460	¥6,132,720	¥6,142,380	¥5,980,920	¥6,091,320	¥6,003,000	¥6,178,260	¥6,058,820	¥5,551,740	¥6,116,160	¥72,306,480
入院外泊時居室代	¥223,100	¥292,100	¥230,000	¥269,100	¥264,500	¥200,100	¥331,200	¥170,200	¥209,300	¥342,700	¥216,200	¥303,600	¥3,052,100
基本サービス費	¥40,765,807	¥41,868,860	¥40,699,813	¥41,897,143	¥41,963,138	¥40,860,085	¥41,614,309	¥41,010,930	¥42,208,261	¥41,378,614	¥37,928,039	¥41,784,010	¥493,979,009
療養食加算	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
看取り加算Ⅰ	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥38,915	¥466,980
看取り加算Ⅱ	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥24,501	¥294,012
看取り加算Ⅲ	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥23,060	¥276,720
初期加算	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥32,400	¥388,800
入院外泊加算	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥62,043	¥744,516
経口移行加算	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
経口維持加算Ⅰ	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥137,787	¥1,653,444
経口維持加算Ⅱ	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥1,642	¥19,704
個別機能訓練加算	¥557,796	¥572,889	¥556,893	¥573,276	¥574,179	¥559,086	¥569,406	¥561,150	¥577,533	¥566,181	¥519,967	¥571,728	¥6,759,084
栄養ケアマネジメント	¥652,924	¥670,591	¥651,867	¥671,044	¥672,101	¥654,434	¥666,514	¥656,850	¥676,027	¥662,739	¥607,473	¥669,232	¥7,911,796
看護体制加算Ⅰ口	¥185,932	¥190,963	¥185,631	¥191,092	¥191,393	¥186,362	¥189,802	¥187,050	¥192,511	¥188,727	¥172,989	¥190,576	¥2,253,028
看護体制加算Ⅱ口	¥371,864	¥381,926	¥371,262	¥382,184	¥382,786	¥372,724	¥379,604	¥374,100	¥385,022	¥377,454	¥345,978	¥381,152	¥4,506,056
夜勤職員配置加算Ⅱ口	¥838,856	¥861,554	¥837,498	¥862,136	¥863,494	¥840,796	¥856,316	¥843,900	¥868,538	¥851,466	¥780,462	¥859,808	¥10,164,824
口腔機能維持管理体制加算	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥47,628	¥571,536
口腔機能維持管理加算	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
日常生活継続支援加算	¥1,072,352	¥1,101,368	¥1,070,616	¥1,102,112	¥1,103,848	¥1,074,832	¥1,094,672	¥1,078,800	¥1,110,236	¥1,098,472	¥997,704	¥1,099,136	¥12,994,208
精神科医配置	¥233,496	¥239,814	¥233,118	¥239,976	¥240,354	¥234,036	¥238,356	¥234,900	¥241,738	¥237,006	¥217,242	¥239,328	¥2,829,384
認知症行動・心理症状緊急対応加算	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
月別計	¥60,105,747	¥61,785,112	¥60,016,301	¥61,803,403	¥61,895,150	¥60,220,385	¥61,452,589	¥60,410,706	¥62,197,809	¥61,119,994	¥55,955,943	¥61,672,738	¥728,635,877

2013 ハピネスあだち事業計画

基本日程	2013年度【ハピネスあだちホーム 特養部門】施設月別年間スケジュール表											
	2013上半期			2013下半期			第4四半期			第3四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入職式(1日) 新人職員指導 にじ色ノートを使い OJT指導開始	江北小学校運動会への参加 家族会総会	夏祭り 敬老会 お買い物会	夏祭り 敬老会 お買い物会	夏祭り 敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会	敬老会 お買い物会
特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め	特別単体 SS空室含め
施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 フロアミーティング ユニット会議 フロア会議 家族会役員会
委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会	委員会 委員会 委員会
人事管理(採用・研修・評価)	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修
その他外部研修等受入れ等	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会	新人職員研修 記録の書き方研修 ユニットリーダー 事業計画発表会 生活相談員 研修会

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	2013 年度ハピネスあだち 特養 2階 事業計画 (案)																																																																																																																											
作成者	部署名	特養2階	役職名	フロアリーダー																																																																																																																								
	氏名	小比類巻 隆																																																																																																																										
年度目標 テーマ	「地域に根ざした住みやすい環境づくり」																																																																																																																											
<p>2013 年度は環境に視点をおいて取り組んでいきたいと思ひます。まずはユニットの環境に関して、入居者の暮らしぶりを知り、その方にあつた機能的で暮らしやすい生活空間を提供して行きます。その為には職員のケアに対する意欲の向上を促し、研修を通じて知識や技術を身に付けて行きます。それぞれのユニットが独自性を持ち、人の温もりがあり住みやすく、地域を感じられる空間を意識し構築して行きます。ハピネスあだちが日々研鑽に努めている看取り援助・口腔リハビリ・学習療法などの施設事業についても、協力頂いている提携機関や地域資源を積極的に活用し、入居者、家族、職員が世界に誇れるオンリーワンの施設を目標に活動します。</p> <p>上記の目標を達成するため、以下に事業計画をまとめます。</p> <p>1. 稼働率目標 平均 95.7%</p> <p>特養目標の 95.7%の確保を目指します。またショートステイの空室利用を積極的に受け、空室利用として1%の稼働を目指します。</p> <p>2013 年度 稼働率目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>特養日数</th> <th>入院日</th> <th>空室</th> <th>特養稼働率</th> <th>SS空室利用</th> <th>合計日数</th> <th>合計稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>1,426</td><td>61</td><td>13</td><td>95.1</td><td>15</td><td>1,441</td><td>96.1</td></tr> <tr><td>5月</td><td>1,466</td><td>70</td><td>14</td><td>94.6</td><td>15</td><td>1,481</td><td>95.5</td></tr> <tr><td>6月</td><td>1,435</td><td>52</td><td>13</td><td>95.7</td><td>14</td><td>1,449</td><td>96.6</td></tr> <tr><td>7月</td><td>1,492</td><td>44</td><td>14</td><td>96.3</td><td>15</td><td>1,507</td><td>97.2</td></tr> <tr><td>8月</td><td>1,469</td><td>68</td><td>13</td><td>94.8</td><td>17</td><td>1,486</td><td>95.9</td></tr> <tr><td>9月</td><td>1,425</td><td>62</td><td>13</td><td>95.0</td><td>15</td><td>1,440</td><td>96.0</td></tr> <tr><td>10月</td><td>1,451</td><td>85</td><td>14</td><td>93.6</td><td>20</td><td>1,471</td><td>94.9</td></tr> <tr><td>11月</td><td>1,449</td><td>38</td><td>13</td><td>96.7</td><td>15</td><td>1,464</td><td>97.6</td></tr> <tr><td>12月</td><td>1,508</td><td>28</td><td>14</td><td>97.3</td><td>15</td><td>1,523</td><td>98.3</td></tr> <tr><td>1月</td><td>1,502</td><td>34</td><td>14</td><td>96.9</td><td>15</td><td>1,517</td><td>97.9</td></tr> <tr><td>2月</td><td>1,369</td><td>19</td><td>12</td><td>97.8</td><td>12</td><td>1,381</td><td>98.6</td></tr> <tr><td>3月</td><td>1,473</td><td>64</td><td>13</td><td>95.0</td><td>15</td><td>1,488</td><td>96.0</td></tr> <tr><td>計</td><td>17,465</td><td>625</td><td>160</td><td></td><td>183</td><td>17,648</td><td></td></tr> <tr><td>平均</td><td></td><td></td><td></td><td>95.7</td><td></td><td></td><td>96.7</td></tr> </tbody> </table> <p>2012 年度は、看取り援助のもと退居された入居者は 4 名でした。看取り援助や口腔リハビリ</p>						特養日数	入院日	空室	特養稼働率	SS空室利用	合計日数	合計稼働率	4月	1,426	61	13	95.1	15	1,441	96.1	5月	1,466	70	14	94.6	15	1,481	95.5	6月	1,435	52	13	95.7	14	1,449	96.6	7月	1,492	44	14	96.3	15	1,507	97.2	8月	1,469	68	13	94.8	17	1,486	95.9	9月	1,425	62	13	95.0	15	1,440	96.0	10月	1,451	85	14	93.6	20	1,471	94.9	11月	1,449	38	13	96.7	15	1,464	97.6	12月	1,508	28	14	97.3	15	1,523	98.3	1月	1,502	34	14	96.9	15	1,517	97.9	2月	1,369	19	12	97.8	12	1,381	98.6	3月	1,473	64	13	95.0	15	1,488	96.0	計	17,465	625	160		183	17,648		平均				95.7			96.7
	特養日数	入院日	空室	特養稼働率	SS空室利用	合計日数	合計稼働率																																																																																																																					
4月	1,426	61	13	95.1	15	1,441	96.1																																																																																																																					
5月	1,466	70	14	94.6	15	1,481	95.5																																																																																																																					
6月	1,435	52	13	95.7	14	1,449	96.6																																																																																																																					
7月	1,492	44	14	96.3	15	1,507	97.2																																																																																																																					
8月	1,469	68	13	94.8	17	1,486	95.9																																																																																																																					
9月	1,425	62	13	95.0	15	1,440	96.0																																																																																																																					
10月	1,451	85	14	93.6	20	1,471	94.9																																																																																																																					
11月	1,449	38	13	96.7	15	1,464	97.6																																																																																																																					
12月	1,508	28	14	97.3	15	1,523	98.3																																																																																																																					
1月	1,502	34	14	96.9	15	1,517	97.9																																																																																																																					
2月	1,369	19	12	97.8	12	1,381	98.6																																																																																																																					
3月	1,473	64	13	95.0	15	1,488	96.0																																																																																																																					
計	17,465	625	160		183	17,648																																																																																																																						
平均				95.7			96.7																																																																																																																					

テーション等の取り組みにより、入院や退居が少なく安定した稼働率を保事する事が出来ました。今後もより入居者に沿ったケアを提供し高い稼働率を目指していきます。

1) ショートステイ受け入れ

空室利用を安定させるため、ショートステイとの連携を強化し、共に協力しあいながら受け入れを行います。申し送り事項の徹底を図り、責任を持ち高いケアを提供します。

2) 感染症対策

インフルエンザ、ノロウイルス等、例年流行ると考えられる感染に対しては、早期に職員に注意喚起を行います。また感染症対策研修を開催し、感染症に対する知識や技術を身に付けていきます。対応策を周知徹底する事により感染症の発生拡大を防ぎます。

2. 看取り援助

2012年2月現在で看取り援助の方が17名おります。施設と職員を信頼し、命を託して下さっている本人や家族にとって、悔いのない最期を迎えて頂きたいと考えています。それには本人、家族の協力が不可欠となりますので、普段から交流を深め信頼を構築していきます。ハピネスあだちが「家」だと感じ、安寧のなか最期を迎えて頂けるように、看取り援助に対する理解と知識を深め今後も邁進していきます。

3. 排泄援助コンセプト

オムツパット予算

	月平均	年間総額
2011年度	29.6万円	357万円(2月末)
2012年度	33.1万円	396万円(1月末)

排泄援助の個別化を目標に、その方の生活習慣や疾患を把握し、残存機能を生かして取り組んでいきます。プライバシーに配慮し自尊心を傷つけない対応を心掛け、信頼関係を守ります。また下剤を使用せずに自然に排便出来るように生活環境を改善します。

- ①年2回・状態変化に伴う尿測の実施をします。
- ②個々に合ったパットの選定をします。
- ③褥瘡の発生を未然に予防し、悪化の軽減に努めます。

4. 入浴コンセプト

入浴マニュアルに沿いマンツーマン入浴を実践します。ユニットごとに入浴を行う個別浴を実践していますが、身体状況に合わせた入浴も併せて行っています。一般浴に関しては、現在個別浴で対応しているため使用していません。入浴は清潔保持という面だけではなく、生活の中の楽しみの一つである事を認識し援助にあたります。今後は重度化に伴い特浴の使用も増えてくると

予想されますので、職員の入浴援助技術の向上も図っていきます。

#### 5. 食事ケア

入居者の趣向を理解しその方に合った食事を提供します。口腔リハビリを積極的に活用し、より楽しく、おいしく、入居者の状態に合った安全な食事の保障を目指し環境を整えていきます。食べるという事を通じ日々の生きがいや生きる自信に繋げていきたいと考えています。胃ろうを造設する前に援助者が出来る事を模索し努力を重ねます。口腔内のケアに関しては、訪問歯科のチカデンタルクリニックと連携して行っています。

#### 6. ケアプラン

フロアリーダーがケアマネージャーとして、ケアプランの管理を行います。各居室担当は、アセスメントやモニタリングを実施し、フロアリーダーと共に評価します。入居者の要望や課題を協議し、日々の暮らしを重視したプランを構築します。

#### 7. フロア整備計画

2012年度に引き続きフロア内の緑化に力を入れます。1ユニット年間20万円を目安にユニット費を計上します。この中からフロア内やユニット内にて植物を栽培したり、季節に合わせた行事や飾りを施したりと施設にいながらにして世間や地域を感じて頂ける様に工夫します。職員が主体になるのではなく、入居者自身が環境を作り上げて行けるように支援します。

#### 8. 職員教育

2013年度は、質の高い地域（ユニット）を形成するにあたり、特にユニットリーダーの育成に力を注いでいきます。ユニットリーダーが中心となり、他職員にユニットの理念や目標を伝え共有し、共に協力しながらユニットを築きます。その為にユニットリーダー研修や各種外部研修なども積極的に参加します。また重度化に伴い、高まる医療ニーズに応えるため、たんの吸引等の研修や医療連携に関する研修にも取り組みます。新人職員の育成について、現在編集中の「にじ色シート」を活用し、介護知識や技術の向上を図り専門職として業務に従事します。また悩みや不安を相談できるような職員関係を築き、精神的なフォローにも努め離職を無くしていきます。

#### 9. 情報の発信

以下の方法で情報の発信を行います。

- ・ 家族会役員会
- ・ ユニット懇親会

- ・ 家族参加のカンファレンス
- ・ 看取り援助勉強会の継続的实施
- ・ 見学者の受け入れ
- ・ ボランティア（聴覚障害者含む）の受け入れ
- ・ 実習生の受け入れ
- ・ 「特養の新たな役割を実践する研究会」の発展

#### 10. 各ユニットの年間事業目標

##### Aユニット ユニットリーダー 加藤 貴士

###### 「入居者と家族が繋がる環境」

ケアが職員の自己満足で終わるのではなく、入居者に心から満足して頂けるような支援を心掛け、一人々の趣味や要望の沿った行事や楽しみを見つけていきます。また家族も巻き込んで色々な催しを実施していきます。日々の生活や特別な行事などを納めた個人アルバムを作成し、好きな時に閲覧出来るようにします。これはプライバシーにも配慮した記録の残し方として考えました。2013年度は入居者と家族の交流に視点を置いて取り組んでいきます。

##### Bユニット ユニットリーダー 荻原 陽和

###### 「ありのままに暮らす」

入居者の暮らしぶりや趣向を理解し、「その方らしく」を大切に、ご自宅で過ごされていた頃のような暮らしを再現していきます。リビングや居室のしつらえもハピにネスあだち2階Bユニットが自分の「家」だと感じて頂けるように整えます。温かみや懐かしさを感じられる空間を目指し取り組んでいきます。現在、6名の方が看取り援助対応中です。本人、家族が施設と職員を信頼し、命を託して下さっている事を誇りに思う一方で重い責任を感じています。後悔の無い最期を迎えて頂く為に、施設全体として取り組み、地域資源も活用していきます。

##### Cユニット ユニットリーダー 村松 剛

###### 「その方らしい暮らしが出来るユニット」

入居者の意見や要望を取り入れながら、共に環境を構築していきます。入居者、職員にとって安全で住みやすい住環境を協議し共存共栄を図ります。行事もその方らしい趣向を取り入れて開催し、日々の楽しみや生きがいに繋げていけるように頑張ります。Cユニットは自立されている方が多く、入居者それぞれに多様です。一つ一つはバラバラでもそれをチェーンのように繋げ一つの大きな輪にしたいと思います。ストレングスをエンパワメント出来るように努めます。

##### Dユニット ユニットリーダー 森 理美

###### 「生活を豊かにするユニット」



その時の季節や世間を感じて頂けるような行事を開催していきたい。地域資源を活用しここでしか出来ない何かを考え、しっかりと計画を立てて実践します。入居者の立場に立ち何に悩み何を想っているのかを担当職員と共に悩み解決していきます。入居者同士が皆仲良く暮らし、自然と会話が生まれる様な関係を築けるように努めます。看取り援助もその方らしく、素敵な最期を迎えて頂けるように家族と協力して取り組みます。

Eユニット ユニットリーダー 秋元 俊一

「食事ケアの向上」

入居者に「おいしい」この一言を言って頂ける為に、とことん頑張ります。旬の食材を使った料理や昔なつかしい食事の行事を計画し、その方の嗜好に合ったものを振る舞います。食具も入居者にとって使いやすく、おしゃれな物を揃え食事が楽しいと感じて頂けるように工夫します。口腔リハビリを積極的に活用し、入居者の状態を把握し適切な援助を提供します。食事を通じて生きがいや意欲を向上して頂きたいと考えています。看取り援助の方については、最期までその方らしい暮らしが送れるように、家族と協力して取り組んでいきます。自分はまだまだ若輩者で未熟ですが、死生観を養いより豊かな感性を持ってケアに従事し、今自分におかれている責任を果たしたいと強く決心しています。

2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度【ハピネスあだち 特養部 2階】施設月別年間スケジュール表

	2013 下半期											
	2013 上半期						2013 下半期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程	入職式(2日) 新人職員指導 にじ色ノートを使い OJT指導開始 お花見外出	江北小学校運動会 映画上映会 にじ色ノート評価 カラオケ大会	夏祭り 相模部屋見学	スイカ割り 介護サービス情報 公開調査	敬老会 防災訓練 にじ色ノート評価	ハロウィン パーティー ドライブ外出 花火大会	ボランティア感謝の 集い 第三者評価	江北小学校 プラスハンド演義会 ユニット懇親会 クリスマス会 事業者交流会	新年会 ピアコンサート ユニット懇親会	研分 ユニット懇親会	ひな祭り ユニット懇親会 にじ色ノート評価	
稼働率目標	特養単体 94.40% SS空室含め 95.40%	特養単体 94.60% SS空室含め 95.50%	特養単体 95.00% SS空室含め 95.90%	特養単体 95.50% SS空室含め 96.50%	特養単体 94.00% SS空室含め 95.10%	特養単体 94.20% SS空室含め 95.20%	特養単体 92.20% SS空室含め 93.50%	特養単体 95.80% SS空室含め 96.80%	特養単体 96.50% SS空室含め 97.50%	特養単体 96.80% SS空室含め 97.70%	特養単体 96.90% SS空室含め 97.80%	特養単体 94.30% SS空室含め 95.20%
各種会議・委員会	職員会議 家族会総会	職員会議 家族会総会	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 投動開始
人事管理(採用・研修・評価)	新人職員研修 記録の書き方 ユニット專業計画 発表	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修 健康管理基礎研修	看取り援助研修 排泄研修	看取り援助研修 排泄研修	接遇研修 (身体拘束、虐待) 入浴研修	住環境研修 医療行為研修	身体観察・高齢者 に多い症状 研修 ユニット專業計画 発表	感染症研修 在宅の取り組み	看取り援助研修 車椅子研修	緊急時対応研修	接遇研修 学習療法研修	ケアプラン研修 医療行為研修
その他外部研修等受入れ等		浦和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	ハピネスあだち特別養護老人ホーム3階事業計画(案)			
作成者	部署名	特養3階	役職名	フロアリーダー
	氏名	井上 禎久		
年度目標 テーマ	心と人生の統合を目指し、満たされた生活を送る ～その人らしく生きる～			

人間は誰しも、自分はこうありたい、こう見られたいという願望を持っています。自ら自分の人格を形成し、その人格に見合うような選択や生き方をし、人から見た自分と自分の描いた人格の統合をさせたいという願望です。

高齢者である入居者は様々な喪失をしてハピネスあだちに入居しています。社会性の喪失、身近な人間や友達の喪失、身体機能の喪失などです。しかし喪失を繰り返しても、自分はこうありたい、こう見られたいという願望は残ります。病気、身体機能、社会という様々な障害が邪魔をしてそれを満たせずにいることが、“終の棲家”である特養にはあると感じます。

2013 年度特養部門 3 階は入居者に寄り添い、心と人生の統合を目指します。入居者がどのような生活を送りどのような人物であったのか、本人や家族から情報を引き出します。入居者が“その人らしい”生活を営めるよう、常に考え、行動します。

入居者の心が満ち、人生が満たされ、満足に生きることで満足に最期を迎えることができるよう、最善の行動をとります。

稼働率は特養単体にて 95.7%、ショートステイ空室利用を含めて 96.7%の確保を目指します。

1. 稼働率計画

表 1 2012 年度の稼働率計画

	特養日数	入院日	空室	特養稼働率	SS空室利用	合計日数	合計稼働率
4月	1,435	52	13	95.7	15	1,450	96.7
5月	1,499	37	14	96.7	10	1,509	97.4
6月	1,438	49	13	95.9	15	1,453	96.9
7月	1,484	52	14	95.7	15	1,499	96.7
8月	1,485	52	13	95.8	15	1,500	96.8
9月	1,440	47	13	96.0	15	1,455	97.0
10月	1,483	53	14	95.7	15	1,498	96.6
11月	1,450	37	13	96.7	10	1,460	97.3
12月	1,500	36	14	96.8	10	1,510	96.7
1月	1,436	100	14	92.6	30	1,466	94.6
2月	1,339	49	12	95.6	15	1,354	96.7
3月	1,476	61	13	95.2	17	1,493	96.3

2013 ハピネスあだち事業計画

計	17,465	625	160		182	17,647	
平均				95.7			96.7

※単位：特養稼働率、合計稼働率は%、その他は日

2012年度、2月現在で看取り対応者は27名です。高齢化や要介護度の重度化により、入居後すぐに看取りに関する情報を提供するケースや、入居時から看取り援助対応を行うようなケースがありました。今後も同じようなケースが増えていくと思われます。医療に対するニーズや看取り援助に関し、入居者や家族がどの程度受容できているかの把握に努め、適切な情報提供を行っていきます。

また、2012年度は転倒による骨折があり、入院が長引くようなケースがありました。転倒に至る可能性を予見し、転倒に至る前に対策が取れるよう努めます。

2. 支出削減計画

①TENAパッドの適切使用に伴うパッドの削減

TENAパッド金額

	2012年度使用金額(2月 末現在)
合計金額	4,137,756
月平均	344,813

単位：円

個別に適した排泄形態の提供により、使用パットの適正化を行います。適切な排泄サービスを提供することで入居者に快適な生活を送っていただきます。

在庫管理を徹底し、必要以上の使用がないよう尽力致します。

3. ユニット目標

各ユニットの2013年度目標を以下にまとめます。

Aユニット…「過ごしやすく、季節を感じられるユニット」

入居者が季節を感じられ、過ごしやすくなるよう、ユニットや居室作りを行います。そのために、写真や季節に合わせた装飾を行います。

Bユニット…「表に出ない訴えに気付き、安心して暮らせるユニット」

入居者の言葉やしぐさ、表情に着目し、入居者の思いに気付き、受け止めます。表に出るものだけでなく、背景までも理解できるよう努めます。また、明るいユニットをめざし環境を整え、楽しい行事なども増やしていきます。

Cユニット…「1. 季節を感じられる行事の実施

2. ユニット内の談話スペースの活用」

2012 年度に引き続き、季節ごとの行事を行うことで入居者に楽しんで生活していただきます。

ユニット内の談話スペースが活用できていないため、TV やラジカセ等を置いて自由に楽しめる空間づくりを行います。

D ユニット…「一期一会～家族の一員としての気付きを大切に～」

ユニット職員をユニットの家族として捉え、家族として入居者の変化に気づけるように、日々の観察を心がけます。気付きの目を養い、気付いたことを大切にします。

E ユニット…「安心して暮らせる家をつくる」

入居者が安心して生活できる居室、リビング作り、生活支援を行います。入居者、職員が共に笑顔で生活を営んでいけるユニットを目指します。

4. 行事

入居者が日常から非日常に触れ、生活に楽しみを見出せるのが行事です。行事を行うことで思い出づくりとなり、本人にも家族にも満足して頂きます。

ユニットでの行事を基本とし、誕生日などの機会をもって、居室担当が中心となり個別の行事も計画していきます。フロア全体での行事も、入居者のニーズに合わせて計画致します。

5. 排泄サービス

排泄形態の統計

自立	昼：トイレ 夜：トイレ	昼：トイレ 夜：オムツ	昼：オムツ 夜：オムツ	ポータブルトイレ使用
3人	3人	28人	16人	3人

(2013年2月末時点)

2012 年度と比較しても、排泄形態の変化はそれほど見られていません。認知症や身体機能の重症化により、自立が困難な方が増えています。排泄委員会を通じて適切な対応を行い、入居者が快適に生活出来るように支援していきます。

5. 入浴サービス

入浴形態別利用状況

リフトなし 個 浴	チェリー	個粋 (一人介助)	個粋 (二人介助)	特浴
4人	0人	19人	12人	11人

(2013年2月末時点)

入居者に負担がないよう、状態に適した入浴形態を目指します。状態は常に変化するので、ユニットリーダーが状態を確認し、サブフロアリーダーと連携し、随時変更していきます。サブフロアリーダーはフロアリーダーの指示のもと行動します。

6. 安全でおいしく食事できる支援

口腔リハビリを通して、嚥下状態に適合した食事形態の提供を行ないます。嚥下機能の低下が見られた際は、早期の対応が取れるよう努めます。頸部聴診等の検査を行い適切な訓練方法を指導していただき、嚥下機能の低下を未然に防げるように努めます。

7. 気付きの目を持つ職員教育

2012年度で行っている業務標準化研修を通して、虹色ノートを再編中です。現在の形態と比べ、より新入職員に適した『にじ色ノート』を使用することによって、新入職員が気付きの目を持って入居者と接することが出来るように教育を行ないます。OJTを行なう職員は新入職員に対し、介護に関する技術や知識を正確に伝え、社会性を養育し、新入職員と共に成長していけるように、指導にあたります。

また新入職員に対して定期的な面談を行っていきます。その他必要時には随時面談を行っていきます。

職員が気付きの目を持って入居者と接し、入居者が持っているニーズを引き出し、ケアプランとしてケアを提供出来るよう、支援していきます。

8. 個々のニーズを反映させたケアプランの作成

個々のニーズを抽出し反映させたケアプランの作成を行います。入居者の支援には家族の協力が不可欠であり、家族と協力することで、入居者の人生の統合に向けた、悔いのない最期を迎える事が出来ます。入居者の状態によって支援の仕方は変わりますが、家族を含めての施設での新年会やクリスマス会等の行事、行きたい場所や帰りたい場所への外出や一時帰宅、入居者が満足した人生を送れるように支援を行っていきます。また、ケアプランに反映させることにより、家族と目標を共有していきます。

ユニットリーダー、居室担当は、入居者のニーズの抽出に努め、ユニット職員が同じ目標に向

かってケアを行えるように指導していきます。また自らケアプランを立案できるよう、職員の教育を行っていきます。

## 9. 医療行為

### 医療行為対象者

	吸引	胃瘻
人数	15 人	3 人

(2013 年 2 月末時点)

胃瘻に関しては、高齢者に対する造設は推奨しないという最近の社会の風潮から家族の認識も変わり、増加は見られていません。吸引は、看取り援助を行うような重度化した入居者が増えているため、増加しています。今後も増加していくことが見込まれます。

厚生労働省の方針により介護職員が医療行為を行うことが必要となっています。今後は、今以上に医療ニーズのある高齢者を特養が受け入れていかなければなりません。

看護師を含む他職種と連携を取り、事故のない適切な医療行為が行えるような環境を整えていきます。

## 10. 看取り援助

2013 年 2 月 28 日現在にて 2012 年度に看取り援助を行いご逝去された入居者が 7 名、現在看取り対応中の入居者が 27 名います。

昨年と 2 月と比較すると 8 名増加し、フロアの看取り援助者は半数を越えています。今後も看取り援助者が極端に減ることはないと思われます。入浴、排泄といった基本的な介護技術のみならず、車椅子での座位姿勢、臥床時の体位など、必要な介護技術は多岐に渡ります。増加する看取り援助者に生活援助員の技術が追いつくよう、カンファレンスや研修を通して技術の向上を目指します。

ケアプランの項目でも書きましたが、本人のニーズを抽出し、家族と協力して人生の統合が行えるように支援します。外出やお食事会など、家族と協力して支援に努めます。

## 11. フロア整備計画

2013 年度はユニット費として年間で各ユニット 20 万円を計上します。ユニットリーダーを中心とし、フロアリーダーが介入しながら入居者が安心して快適に過ごせるようなユニット作りを目指します。

2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度【ハピネスあだち 特養部 3階】施設月別年間スケジュール表												
	2013上半期					2013下半期				第4四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程	入職式(2日) 新人職員指導 にじ色ノートを使い OUT指導開始 お花見外出 居室にてお花見会	江北小学校運動会 にじ色ノート評価	夏祭り	スカイ割り 介護サービス情報 公開調査	敬老会 防災訓練 にじ色ノート評価	ドライブ外出 花火大会	ボランティア感謝 集い 第三者評価	新年会 ピアノコンサート ユニット懇親会	節分 ユニット懇親会	ひな祭り ユニット懇親会 にじ色ノート評価		
稼働率目標	特養単体 94.90% SS空室含め 95.90%	特養単体 96.00% SS空室含め 96.60%	特養単体 95.10% SS空室含め 96.10%	特養単体 95.00% SS空室含め 96.00%	特養単体 95.30% SS空室含め 96.30%	特養単体 95.00% SS空室含め 95.90%	特養単体 96.00% SS空室含め 96.70%	特養単体 96.10% SS空室含め 96.70%	特養単体 92.00% SS空室含め 93.90%	特養単体 94.90% SS空室含め 96.00%	特養単体 94.60% SS空室含め 95.70%	
各理会議・委員会		職員会議 家庭会総会	職理安委会 身体拘束・虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 始動開始	職員会議	職員会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	
人事管理(採用・研修・評価)	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表	リスクマネジメント 研修 食卓サービス研修	感染症研修 収支関係研修 健康管理基礎研修	看取り援助研修 排泄研修	住環境研修 医療行為研修	身体観察・高齢者 に多い症状 研修 ユニット事業計画 発表	看取り援助研修 車椅子研修	緊急時対応研修	接遇研修 学習療法研修	ケアプラン研修 医療行為研修		
その他外部研修等受入れ等		浦和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程			千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程					千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学体験 学習		



2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	2013 年度 ハピネスあだち 特養 4 階			
作成者	部署名	特養 4 階	役職名	フロアリーダー
	氏名	安谷屋 里子		
年度目標 テーマ	最期の時まで尊厳を守るケア			

2013 年度の施設方針を受け特養 4 階は「最期の時まで尊厳を守るケア」を年度目標に掲げ取り組みを行います。

最期の時までその人らしく、地域の一員として生活していただくために、入居者一人ひとりの生き方に向き合い、人間らしい最期を迎える事が出来るよう支援していきます。

1 稼働率目標 95.7%

表 1) 2013 年度稼働率計画

	特養日数	入院日	空室	特養稼働率	SS空室利用	合計日数	合計稼働率
4 月	1,463	24	13	97.5	10	1,473	97.4
5 月	1,476	60	14	95.2	15	1,491	95.5
6 月	1,444	43	13	95.5	15	1,459	96.5
7 月	1,468	68	14	96.3	17	1,485	95.1
8 月	1,497	40	13	96.6	13	1,510	96.7
9 月	1,469	18	13	97.9	10	1,479	97.8
10 月	1,480	56	14	95.5	15	1,495	95.7
11 月	1,451	36	13	96.7	12	1,463	96.8
12 月	1,469	67	14	94.8	15	1,484	95.1
1 月	1,451	85	14	93.6	25	1,476	94.6
2 月	1,315	73	12	93.9	20	1,335	94.6
3 月	1,483	54	13	95.7	15	1,498	96.0
計	17,466	624	160		182	17,648	
平均				95.7			96.7

昨年度は入居者の重度化が進む中でも稼働率は安定していました。これはハピネスあだちで取り組んできたさまざまなことが功を奏し、看取り援助への理解が深まってきたものだと思います。昨年度退居者数は 9 名。そのうち看取り援助でご逝去された方は 7 名。その他は入院先でご逝去された方が 1 名でした。この数字から見ても職員のスキルが向上し、終末期であっても適切なケアが提供出来る環境が整ってきたと考えられます。また家族向けの勉強会やマスコミの報道等を通じ、家族が尊厳死とは何か、高齢期に必要な医療とは何か、など考える機会が多くなりま

した。それに伴う高齢者の最期を迎えるにあたってのニーズ変動により、特養の必要性が増してきていることも稼働率安定に繋がっています。課題としては入院ベッドのショートステイ利用です。2013 年度はショートステイ職員との連携を強化し、受け入れ数を増やしていくことを目標とします。

## 2 職員育成

尊厳を守るケアを提供するために、職員一人ひとりが根拠を持ってケアが提供出来るよう育成していきます。

### ① 介護技術の向上

移動、移乗の技術を向上し、入居者の生活の幅を広げます。まずは入居者一人ひとりに適した福祉用具の検討を行います。そのために機能訓練指導員と連携のもと福祉用具の活用方法を学び、外部及び内部での研修会に積極的に参加していきます。また摩擦や圧がかからなく、介助者側、介護者側にも負担の少ない移乗方法を学び、離床することによる両者のストレスを軽減していきます。

嚥下評価、嚥下のしくみを正しく理解するためにも、全職員が口腔リハビリテーションを見学し、学ぶことが出来るようにします。嚥下に対する理解を深め、個々のリスクを把握し、安全に食事をするにはどのようなケア方法があるか、チームで検討していきます。食欲低下や開口不良など入居者ひとりひとりの生活歴も配慮しながら、食べることが栄養摂取のみになることを避け、入居者にとって日々の楽しみに繋がるよう援助していきます。

排泄援助は定期的に排泄委員会主導のもとテナの正しい当て方を個別で指導していきます。正しい方法を理解していても、月日の経過とともに自己流になりがちな支援のため、定期的に排泄委員が技術をチェックするしくみをつくり、統一したケアが提供出来るよう支援していきます。

終末期まで安心してケア出来るよう医療知識を身に付けていきます。この目標に向かい、施設看護師や嘱託医、提携薬局薬剤師などに協力を仰ぎ、勉強会を開催します。高齢者に多い疾患や薬の副作用など医療的知識を深め、介護者として出来るケアを考え、高いアセスメント力を身に付けていきます。

## ②ユニットリーダーの育成

### ◆高いアセスメント力を身に着ける

定期的に事例検討会を行い、事例の中の入居者が、どのようなサービスを必要としているのかをグループにて検討することを予定しています。ユニットリーダーにアセスメント力が身につく、日々の業務の中でも、よりの確にニーズを把握出来るよう育成していきます。また、記録を月に1回見直す日を設け、記録の中から情報を引き出せる力を養います。

### ◆指導力の向上

ユニット職員を指導するため、まずは自分の行っているケアの根拠を理解することが必要です。根拠をもってケア内容を指導することにより理解が深まり、統一したケアを提供することが出来ます。また、ケアの評価が的確になり、質の高いサービスを提供出来るようになります。そのためには、高齢者の身体状態を正しく理解し、一人ひとりの入居者にどのようなケアが必要か判断する力を養っていきます。

### ◆ユニットケアへの理解

ユニットケアの利点を理解し最大限に生かすために、全フロアのユニットリーダーで定期的にミーティング、勉強会を開催します。事例発表やケアについて議論を交わす中で、ユニットケアの利点を見出し、活用方法をみんなで考えていきます。また、外部研修や同法人内のユニットリーダーとの交流の機会を持ち、ユニットケアへの理解を深めていきます。

### ◆介護保険制度への理解

介護支援専門員資格取得の施設内勉強会へユニットリーダーの参加呼びかけ、介護保険への理解を深めていきます。介護保険制度への理解をふかめることで、施設サービス計画書重要性を見直し、サービス計画書の作成に積極的に参加していけるよう目指していきます。

### ◆マネジメント力の向上

ユニット内のマネジメントはユニットリーダーを中心に行っていきます。家族との情報共有や暮らしの中の相談、多職種との連携、ユニット職員の調整などユニットリーダーが中心となってユニット運営が出来るよう目指していきます。

### 3 住環境を整える

#### ①リビング・ダイニング

入居者にとって安らげる空間を提供するために、住環境を整えます。

入居者が1日の大半を過ごす、ダイニングのテーブルと椅子を見直します。

まずは破損の修繕を行い、安心して使用出来るように整備します。食事を安全に楽しいものにするためにも、機能訓練指導員と連携のもと入居者にあった椅子とテーブルを摸索していきます。それにより自立支援を促し、入居者のQOLの向上を目指します。

食事を摂るスペースとしてだけでなく、入居者の交流の場所や余暇活動の場としても活用出来るよう工夫を凝らし、居室以外の居心地の良い場所として提供出来るよう整えていきます。

#### ②居室

入居者にとって安らげる空間を入居者、家族、居室担当で摸索していきます。

終の棲家として、家族が集える実家のような空間として提供出来るよう支援していきます。

#### ③パブリックスペース

パブリックスペースは季節感を演出し、職員や家族が入居者との会話のきっかけを提供出来るような空間作りを目指します。サロンを活用して、来訪者や他ユニット入居者と集えるような環境を作り、他者との交流の場としての提供を目指します。

### 4 個性あふれるユニット作り

聴覚障害者ユニットの役割を見直します。現在3名の聴覚障害者を受け入れている中で手話を活用出来るスタッフが2名おります。4階職員は手話を学び、聴覚障害者に対する理解を深めていきます。また、ユニット会議を通して、ユニット職員間でユニットの年間計画を話し合い、個性あふれるユニット作りを目指します。

### 5 情報の発信

#### ① 家族への情報発信

まずは、一番身近な存在である入居者家族へ情報の発信を行っていきます。ユニットごとに簡単な季刊誌を作り、ユニット内で行った行事やユニット職員の研修報告などを掲載し、今の福祉の流れに対する理解や家族の知らない入居者の一面などを共有出来るよう工夫していきます。また、カンファレンスには積極的に参加を呼びかけ、家族もケアの一員として家族様の役割を見出していきます。

#### ② 地域との交流

積極的に地域へ繰り出します。例えば、現在は行事の買物は職員のみで行っていますが、入居者も一緒に買物へ出掛けることで地域住民への理解に繋がり、入居者も地域の一員として社会生

活に参加出来るよう支援していきます。

③ 実習生の受け入れ

明日の福祉人を育成するために実習生を積極的に受け入れていきます。ハピネスあだちで取り組んでいること理解、学習していただくことで情報の発信を行ないます。

5 各ユニットの2013年度事業計画

A ユニット

「居心地の良いユニット作り」

年間行事を入居者と一緒に考えていきます。積極的にボランティアを受け入れ、地域と交流出来るユニットを目指します。

B ユニット

「落ち着いて過ごせる居室作り」

入居者が終の棲家として落ち着いて過ごせる居室作りに力を入れていきます。また、ユニット職員と連携して統一したケアが提供出来るよう、密な情報共有を図ります。

C ユニット

「季節を感じるユニット創り」

ユニット内の展示や植物、食べ物などで季節を感じていただく。入居者からもいろいろ提案し、行事の企画から入居者に関わっていただきます。

D ユニット

「環境整備」

入居者に終の棲家として安心して暮らしていける環境を提供していきます。ユニット職員の気配りの意識を高めてもらうために職員同士で声を掛け合いながら、報告・連絡・相談の意識を高めていきます。ユニット会議で決まった目標に対し達成するために工夫を凝らし、ユニット職員同士で協力し合います。

E ユニット

「入居者と楽しく会話出来るユニット創り」

ユニット内の装飾を季節ごとに変化させ、職員だけでなく家族やボランティア、地域の方々などの来訪の際、自然に会話が弾みユニットが親交を深める場となるようユニット創りを行なっていきます。

2013ハピネスあだち事業計画

基本日程	2013年度【ハピネスあだち 特養部 4階】施設月別年間スケジュール表											
	2013上半期						2013下半期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入職式 新人職員指導 にし色ノートを使い OJT指導開始 お花見外出	江北小学校運動会 嵐清湯	映画上映会 にし色ノート評価	夏祭り	スイカ割り 介護サービス情報 公開調査 流しそらめん	敬老会 防災訓練 にし色ノート評価	ハロウィン パーティー ドライブ外出	職業所交流会 ボランティア感謝の 集い 第三者評価	江北小学校 プラスハンド演奏会 ユニット懇親会 クリスマス会	新年会 ピアノコンサート ユニット懇親会 節分	ユニット懇親会	ひな祭り ユニット懇親会 にし色ノート評価	
特養単体 96.80% SS空室含め 97.40%	特養単体 94.50% SS空室含め 95.50%	特養単体 95.50% SS空室含め 96.50%	特養単体 94.00% SS空室含め 95.10%	特養単体 95.90% SS空室含め 96.70%	特養単体 97.20% SS空室含め 97.80%	特養単体 94.80% SS空室含め 95.70%	特養単体 96.00% SS空室含め 96.80%	特養単体 94.10% SS空室含め 95.10%	特養単体 93.00% SS空室含め 94.00%	特養単体 93.20% SS空室含め 94.80%	特養単体 95.00% SS空室含め 96.00%	
職員会議 家族会総会	職員会議 家族会総会	職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 夏祭り実行委員 活動開始	職員会議	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会	職員会議	職員会議	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会 新年会実行委員 活動開始	職員会議	職員会議	職員会議 職場安全委員会 身体拘束、虐待防 止委員会	
新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会	リスクマネジメント 研修 食事サービス研修	感染症研修 収支関係研修 健康管理基礎研修	看取り援助研修 排泄研修	接遇研修 (身体拘束・虐待) 入浴サービス研修	住環境研修 医療行為研修	身体観察、高齢者 多し症状 研修 ユニット事業計画 発表会	リスクマネジメント 研修 就業規則研修	職場安全研修 感染症研修 在宅の取り組み	看取り援助研修 車椅子(移乗) 研修	接遇(身体拘束 虐待) 研修 学習療法研修	ケアプラン研修 医療行為研修	
その他外部研修等受入れ等		浦和短科大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程			千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程					千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校 学習		

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	ハピネスあだち医療サービス部門 看護事業計画（案）			
作成者	部署名	医療サービス部門	役職名	マネージャー
	氏名	小林 悦子		
年度目標 テーマ	<p>重度者を受け入れて 看取り援助で尊厳を回復させる</p>			
<p>2013年度の法人方針及び施設方針を受け、社会のニーズと高齢者の尊厳を守るために看取り援助の質の向上を目指します。</p> <p>各部署の目標稼働率達成に貢献できるよう看護専門職として連携した事業計画を立案いたします。</p> <p>＝現状分析と課題設定＝</p> <p>ここ5年間でハピネスあだちの看取り援助は成長しました。</p> <p>かつては常に入居者の状態変化におびえ、救急車を要請し病院へ送り出す役目が看護でした。生活援助員・他部署との連携の中で、私たちは生活を支える特養ホームの看護職として育てられ、看取り援助ができる事が楽しくなりました。</p> <p>多くの入居者と、その家族から学んだ『特養ホームの暮らしの中で自然死を迎えられる幸せ』を大切にし、終の棲家として安定した生活の提供に努めます。</p> <p>2013年度は新たな組織編成となります。入居者の生活を医療面からサポートする力を育成するために、向日葵の会を活用し、他施設とも連携を広げ、情報を収集して研鑽してまいります。</p> <p>ショートステイ・ディサービスにおける重度者・医療行為者の援助は避けられません。安全に援助できるよう協働し、地域貢献に努めます。</p> <p>生活援助員の新しい医療行為技術習得への取り組みに対しても、皆が安心して歩み出せることを指導看護師が中心となって支援していきます。</p>				
<p><b>重度者の受け入れ</b> &lt;加算取得への貢献&gt;</p> <p>① 入居前からの話し合い参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・判定会議・事前訪問含め医療面のサポートに連携します。</li> <li>・看護師としての知識を持って、安心して生活できる終の棲家の提案をします。</li> </ul> <p>② 医療面のサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活援助しやすいケアを指導・提案します。</li> <li>・医療知識を学ぶ機会を増やし、生活援助員の不安軽減に役立ててもらいます。</li> </ul> <p>③ 経管栄養者の新入居受け入れに対しても入居前の情報だけにとらわれず、経口摂取へのトライを含めて正しい評価のもとで可能性を求めていきます。</p>				
<p><b>看取り援助</b> &lt;加算取得への貢献&gt;</p> <p>① 配置医師との連携</p>				

- ・施設方針をもって協力を要請し、適正な看取りを達成します。(2012年度の協議にて同意書を交わす前でも意向が明確となっている場合は臨時対応として検死回避の協議を取り付けました。)
- ・2012年度より看取り援助委員会にて加算取得に対する対応方法を検討続けています。今後医師との協議へと進めていきます。
- ・家族との情報共有など、看取り介護加算を適正管理できることに協働します。

② 専門職としての連携

- ・家族対応——生活援助員・相談員と協働し配置医師との媒介役を担います。
  - ・職員対応——「老化」「身体機能の変化」などの学びの場を発信していきます。  
職員の気づきを大切に受け止め、対応する事で不安解消に努めます。
- ※看取り援助の勉強会を提案、協働します。

口腔リハビリテーション <加算取得への貢献>

① 経口維持加算・経口移行加算の管理

- ・日本歯科大学附属病院口腔リハビリセンターとの窓口役を担います。
  - ・適正な加算取得のため、計画的管理を担当します。
  - ・本人・家族・職員が受診(検査)を希望しない場合も加算対象者が適正に評価を受けられるよう勧めていきます。
  - ・評価件数の増加を図ります。
- ※2013年度は往診日を毎月2回に増やします。(2012年度までは月に1回でした。)

② 口腔リハビリテーション評価を全ての方の援助に役立てる

- ・ケアプランが適正に継続できるように協働します。
- ※安全に食べるために食具の再考をいたします。

日本歯科大学附属病院口腔リハビリセンター指導のもと食具の購入を計画します。

安全カップ	Uコップ	900円×40ケ=36,000円
	ほのぼの湯呑	1,300円×6ケ=7,800円
	らくらくゴックン	4,000円×6ケ=24,000円
スプーン		800円×20ケ=32,000円
		約100,000円

口腔機能維持管理 <加算取得への貢献>

- ・生活援助員の口腔ケア力向上に歯科医師・歯科衛生士と共に連携します。
- ※口腔ケアにおける衛生物品の購入を計画します。(2012年度参考)

スポンジブラシ	300本	6,000円×12ヵ月
(往診医と連携中)		計 72,000円/年間
ハイゼガーゼ		約120,000円/年間



**医療行為連携**

- ① 医療行為研修における技術習得を中心に生活援助員の胃ろう・吸引技術の育成に協力します。
- ② 医療的ケアの増加により生活援助員のスキルアップが求められます。  
適正な援助を行う為に、安全性のもとで援助しやすいプログラム提案に努めます。
- ③ 衛生物品の節約と安価な物品検討に努めます。

※2012年度参考に購入計画します。

吸引物品	{	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養カテーテル</li> <li>・消毒</li> <li>・グローブ など</li> </ul>	約 70,000円/年間
経管栄養物品	{	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カテーテルチップ</li> <li>・栄養チューブ など</li> </ul>	約 80,000円/年間
衛生材料	{	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーゼ</li> <li>・包帯 など</li> </ul>	約 120,000円/年間
医療機器	{	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸引器 など</li> </ul>	約 200,000円/年間
感染対応	{	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク</li> <li>・ガウン</li> <li>・消毒 など</li> </ul>	約 50,000円/年間

**配置医師との連携**

- ① 日頃からの信頼関係構築に努め、入居者の負担軽減のために無意味な病院受診を減らし施設内対応をしていただけるよう調整に努めます。
- ② 入居者健康診断を実施します。
  - ・身体状況を把握し、配置医師のもとで健康管理を行います。
  - ・老化を含めた現状を把握し、根拠を持って家族と協議できる資料として役立てます。

※医療法人社団 東京白報会にて計画中です。

日時) 2013年10月

対象者) 在籍入居者全員

予算) 入居者1名につき7,500円

7,500円×150名 = 1,125,000円

- ③ 処方薬管理の責任者として、日本調剤竹ノ塚薬局と連携し、生活援助しやすいプラン提示に努めます。

#### 病院との医療連携

- ① 適切な情報提供で、受診時の本人・家族負担の軽減に努めます。  
② 病院との電話連絡を有効に利用します。  
③ 相談員との連携を図り、入居者に有益な相談ができる関係を構築します。

※医療関係者懇親会を計画します。

毎年1月に開催。第5回目を迎えます。

顔を合わせての懇親により、連携がスムーズになりました。

今年度も協力体制の強化を図り、地域貢献にも役立てます。

日時) 2014年1月

来賓)	配置医師	4名
	往診医師	6名
	地域協力病院関係者	10名
職員)		15名
予算)	8,000円 × 35名 = 280,000円	

#### 看護職員教育計画

- ① 外部研修への参加で新しい制度、知識を習得します。  
研修計画) 40回 (2012年度と同様)  
予算) 約150,000円
- ② 認知症施策推進に積極的に参加し、医療と介護の架け橋の役目を担います。  
必要な知識を習得して、学習療法との連携を図ります。
- ③ 「向日葵の会」の充実と、関東地域として、ハピネス都筑との連携を強化し、互いを高め合っていけるように努めます。

#### 地域包括ケア

- ① システム構築に向けた協議に、看護専門職として参加していきます。  
② 特養を拠点に、地域へ活動を拡げるための人材確保と育成を視野に入れます。  
③ ショートステイ・デイサービス利用者の在宅生活への助言などにも協働します。

2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度【ハピネスあだち医療サービス部門看護】施設月別年間スケジュール表	2013下半年期											
	第3四半期						第4四半期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 新人職員指導	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 家族協会	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 夏祭り	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 防災訓練 敬老会	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 健康診断 ボランティア感謝の集い	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 インフルエンザ予防接種	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 事業者交流会	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理 新年会 ピアコンサート	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理	□腔介護リハビリ □腔機能維持管理
稼働率目標	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献	各部署に貢献
各種会議・委員会	施設運営会議 ホーム運営会議 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会	職員会議 施設運営会議 ホーム運営会議 感染委員会 医療行為連携委員会 看取り委員会 褥瘡委員会
人事管理（採用・研修・評価）	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習	看護のスキルアップ研修 医療行為連携研修 実習
その他外部研修等												
感染症対策												
加温器設置開始 温度コントロール 40%以上目標												
加温器設置 温度コントロール 40%以上目標												
加温器終了 温度コントロール 40%以上目標												
健康管理アンケート 第5回医療関係者懇話会												

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	機能訓練部門 事業計画（案）			
作成者	部署名	機能訓練	役職名	マネージャー
	氏名	遠藤 大知		
年度目標 テーマ	Education～教育～			
<p>2013 年度法人方針および施設方針を受け、機能訓練部門では本年度の年度目標を『Education～教育～』とし、機能訓練指導員が持っている知識や技術を介護現場で活かせるようにします。特に、拘縮予防のためのポジショニングや潜在力を引き出すトランスファー等の技術支援を適切に行ない、入居者の重度化に対応していきたいと思えます。そして、機能訓練指導員と生活援助員等、多職種連携を図り、入居者の生活の質の向上させる事業計画を立案します。</p> <p>(1) 個別機能訓練計画 個人個人の生活・能力を踏まえ、個々に合った機能訓練計画を立案し、実行していきます。</p> <p>(2) ハピネス体操の目的と参加方針 体力の向上・維持を目的としています。2009 年度に開始した“ハピネス体操その2”も混合して行なっていきます。</p> <p>(3) 機能訓練指導員配置計画 機能訓練サービス部門は理学療法士とマッサージ師の2名体制です。理学療法士は身体評価を中心に入居者様をまわり、マッサージ師が機能訓練を担います。ハピネス体操・書類整理・カンファレンスの参加等は情報を共有し、分担して行なっていきます。</p> <p>(4) 車いす等の生活補助具導入計画 介護の重度化が進み、普通型車いすで対応できない入居者も増加しています。また、入居時から既にティルト・リクライニング型の車いすを必要としている入居者もいます。そこで、ハピネスあだちでは“標準”の車いすをティルト・リクライニング型とし、重度な入居者でも安楽な姿勢がとれるようにしていきます。</p> <p>2013 年度も継続して移乗用リフトを使用していきます。</p> <p>重度化する入所者の増加に伴い、マットレスのリースも法人全体を対象に開始しています。法人内でのケアの統一を図り、マットレスも消耗費として毎年予算に組み込むように検討します。同時にリネン類の見直しを行ない、削減できるところは削減し、より使いやすいリネン類を検討し、契約更新に備えたいと思えます。</p>				

(5) 個別対応の車いすの導入目標

初年度から行っている車いす個人購入も家族からの理解が増え、スムーズに進みつつあります。クッションも防水タイプ等、様々なニーズに応えられるような新商品が発売され、職員・入居者・家族の3者が快適と感じるようになっていきます。座位バランスが不良で市販されているモノでは座位保持困難な症例もありますが、特注・オーダーメイドという形で喜ばれているケースも多いです。様々なカラーも車いすのイメージを大きく変化させています。個別で自費購入となるメリットや金額についての説明を行ない、納得して頂けるように対応します。

(6) 事故への対応・協力

原因・対応策を考えるカンファレンスに参加し、同一入居者の同一事故は無くし、同じような事故のリスクのある入居者の事故も減少させていきたいと思っております。2012年度は骨折が多かったので、原因究明に努め、入院者数を減らしていきます。

(7) 苦情対応

2012年度は車いす購入時に説明不足での苦情があったので、車いす業者と連携を取りながら対応していきます。

(8) 研修参加計画

①日本シーティング・コンサルタント協会

- ・座位保持装置セミナー

日程：5月18-19日 会場：長野県鹿教湯

- ・北陸セミナー

日程：7月または8月 会場：富山県

- ・HCR終了後セミナー

日程：9月21日 会場：東京

- ・多職種摂食嚥下シーティング・セミナー

日程：10月 会場：千葉県

- ・JSCシンポジウム

11月30日-12月1日 会場：東京

②田中義行理学療法士セミナー

- ・機能訓練指導員スキルアップセミナー

日程：8月1-2日 横浜市・かなふくセミナー主催

- ・拘縮予防・改善を実現する正しいポジショニングと評価のコツ

日程：4月20日 日総研セミナー

- ・リハ職員のための効果ある認知症アプローチの実践

日程：5月25日 日総研セミナー

③あだちPTOTネットワーク

年4回程度開催 日程・テーマ未定

④北区リハネット・シーティング勉強会

年4回程度開催 日程・テーマ未定

⑤HCR2013

日程：9月18-20日 会場：東京ビッグサイト

⑥東京都社会福祉協議会主催の個別機能訓練研修

年2回程度開催 日程・テーマ未定

(9) 生活援助員への研修指導計画

4-6月 入居者のポジショニング指導

7-9月 職員のトランスファー指導

10-12月 入居者のポジショニング指導

田中義行先生に受けたポジショニングやトランスファーの指導を生活援助員と共に実施し、入居者の安楽な姿勢を目指します。

年24回の施設研修の中で生活援助員への研修を行ないます。

購入したリフトを100%活用できるようにし、職員の腰痛を減少させます。

(10) コンプライアンス「業務管理（法令遵守）体制」への取り組み計画

機能訓練の部門は2人体制なので業務を分担し、他部署との連携を図ります。更に、医療サービス部門の中のセクションなので、看護職員と医療の専門家という立場で生活援助員と協力していきます。2009年度に試みた座位能力の評価も毎年取るようにします。

(11) 実習生の受け入れ

帝京平成大学（理学療法学科）

(12) その他

2013年度は法人内の理学療法士と連携を取り合い、機能訓練部門の思考の統一を考えていきたいと思えます。ハピネス全体の福祉用具の使用のレベルアップを図り、看取り援助をバックアップします。新たに発足する機能訓練委員会で苦痛のない姿勢・安楽な姿勢で快適な生活を入居者に送って頂き、チームとしての役割を果たしていきます。

首都圏の特養でも理学療法士や作業療法士が増えているので連携し、ハピネスあだちでの実践を報告していきたいと思えます。

2013 ハピネスあだち事業計画

		2012年間スケジュール表											
		2012上半期						2012下半期					
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		入職式 新入職員指導	2012年度事業計画作成		夏祭り		敬老会		ボクシング感懐集い	オープン講座	新年会		2014年度事業計画作成
基本日程	稼働率目標	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ	生け花クラブ
各種会議・委員会		ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会 身体拘束・虐待防止委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会	ホーム運営会議 看取り委員会 医療行為連携委員会 看護対策委員会 リスクマネジメント委員会 機能訓練委員会 身体拘束・虐待防止委員会
人事管理（採用・研修評価）		田中健行理学療法士 西島千恵、徳島愛実、山下、リハ福祉のための事業ある はなやんぐん、エンジェル、エンジェル	日本SC協会 産後療育指導センター 5/18-9	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会	田中健行理学療法士 北区リハネット シーティング勉強会
その他外部研修等受入れ等													

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	事務部門			
作成者	部署名	事務	役職名	マネージャー
	氏名	佐藤 康一郎		
年度目標 テーマ	関東エリアの事務拠点と認知症ケアの充実と地域への拡充を目指して			
<p>2013年度は重度化対応のひとつである「認知症ケア」に焦点を置き、地域の現状・環境変化・ニーズを把握し、他職種連携のもと次の点を目標に取り組みたいと思います。</p> <p>また、脳の健康教室では、地域へさらなる拡充を目指し、説明会やシンポジウムを開催し、学習者を増やしたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習療法見学施設として導入希望施設への支援活動の骨格を構築。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→学習療法の体制の確立（正職学習者の配置）</li> </ul> </li> <li>・学習療法の効果を地域へ拡充すること。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→第2回足立区学習療法実践研究会シンポジウムの実施等</li> </ul> </li> <li>・脳の健康教室を軌道に乗せ、地域住民の生活の質を向上させること。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→地域包括支援センターと協力のもと、説明会の実施</li> </ul> </li> <li>・地域との災害訓練の連携をとること。</li> </ul> <p>また新たな施設整備に向け、事務として以下の点にも取り組んでいき、関東エリアの中心的存在となれるようまい進したいと思います。</p> <p><u>(1) 人事管理計画</u></p> <p>各部署と連携を図りながら入職・退職・休職者等の最情報を把握し人事管理システムの充実化を図る。また適材適所への職員配置を行うためにハローワークのWEB 求人広告の更新をする。研修参加、資格取得の奨励、労働災害や職員のモチベーション低下防止のための労働環境の見直しや工夫に務め職員定着率向上に繋げていく。</p> <p><u>(2) 職員募集計画・活動方針</u></p> <p>都・区の補助金・助成金を活用し、募集広告費の削減を図る。</p> <p>①介護人材雇用創出事業の活用 ※定員5名 株式会社ツクイを通じて、就業し試用期間3カ月間の人件費は区が負担。</p> <p>②その他ハローワーク等による、介護労働者雇用管理改善助成金・奨励金の活用。</p> <p><u>(3) 防災訓練及び地域連携</u></p> <p>防災委員会を中心に、職員と地域住民向けにあらゆる災害時の訓練・勉強会を実施する。</p> <p>①西新井消防署と地域防災団と連携し、共同防災訓練を実施する。</p>				



②地域住民・職員対象の普通救命講習の実施

③災害対策に関する講演の実施（区災害対策課若しくは消防職員）

防災委員会・消防署のもと、年2回以上の避難訓練または防災訓練を行い、日頃から防災知識の習得に努める。

- ・ 日中震災想定避難訓練
- ・ 夜間想定避難訓練
- ・ 消火器訓
- ・ 通報訓練
- ・ 自動火災報知機操作訓練

また訓練の後、マニュアルが有効に活用できたかどうかを委員会にて検証し、改善すべき個所は早急に見直す。

地域との連携

高年齢世帯者や独居の方等、近隣住民の実態把握に努め、施設での訓練への参加をしていただくと共に、必要な指導・助言及び支援を行う。

また、消防署・警察署・地元災害協力隊と相互に協力し、災害時の混乱防止に努める。

(4) 建物管理

8年目を迎え、償却期間が過ぎる備品（パソコン等（予算計上8台分））・修繕箇所の増加が見込まれることが想定されるため、適宜予算範囲内にて買い替え・修繕を実施する。

(5) 当直管理

夜間当直者への接客心及び防災心をさらに意識付け、相手に不快感を与えない、電話対応・来客対応の研修を行う。

(6) 各種申請等

人員配置や加算等に伴い各種規程等の変更があった際は速やかに行う。

(7) 業者対応への取組み

前年度に引き続き、法人による資材一括購入を可能にする調達ラインを再度構築し、調達コストの低減を目指します。また、資器材の「効率的な調達」と共に経費削減を実現のため、再度次の調達方針に基づき取り組む。

取引関係

- ・ あらゆる取引を定期的に見直し。（入札含む）
- ・ 常時、新規取引先に参入機会を提供。（入札含む）
- ・ 取引先の選定にあたっては、価格・品質・安全性・アフターサービス等を総合的に評価。

環境への配慮

- ・ 環境負荷の少ない資材調達に努める。
- ・ 定期的に光熱水量を管理し、節水・節電・節ガスに取り組む。
- ・ リサイクル可能材料への転換を行う。
- ・ 廃棄物の分別を徹底。

(8) 会計全般

適正な会計処理を行い、また新会計基準についての知識を深めていく。

(9) 週次・月次・決算

経理規定に沿い日々の業務を進め、常に最新の経営状況を把握できる体制を整える。  
特に、月次において未収金・立替金・未払金・預かり金の明細を把握し、請求不備等があった際もすぐに対応できる体制に努める。

(10) 予算管理

事業所毎に月次予算管理表を作成し、それに基づき、毎月予算の執行状態を管理する。  
また、日々の収支をその日で完結させ、タイムリーな経営状況を常に把握する。

(11) フロント業務向上への取組み

情報の窓口として、常に気づきの姿勢で業務に取り組み、正確な情報を的確かつすみやかにひきつぐ。

ご利用者、来訪者、職員とのコミュニケーションを円滑にすべく笑顔や挨拶、声掛けを心がける。

(12) 利用者管理業務

個人情報管理を徹底するとともに、請求業務の管理と確認を徹底する。  
また他部署との連携を図り、入居者様やその家族様の情報の共有に努める。

(13) 消耗品管理計画

経費削減実現のため、次の事項に取り組む

- ・ 取引先の定期的な見直し。
- ・ 購入前に複数の業者より見積りを取り、安価な業者で購入できるようにする。
- ・ 各部署で発注・購入している消耗品等をセンターオフィスで一括して発注・購入することにより、どの部署がどれだけ消耗品等を購入しているか把握し、管理していく

(14) 掲示物管理計画

常に最新の情報を掲示し、内容によっては掲示期限を設け、適切に管理する。  
また、視線にうつったときに気持ちがよく印象に残る掲示をする。

(15) 寄附金管理

適正な寄附金処理を全事務員が行えるよう体制整備する。

(16) 諸規定の管理

就業規則・経理規程等、法令に基づき適正に見直しし適宜変更運営する。

(17) 各種職員の届出、伺い、起案書管理

勤怠関連の書式の見直しを行い、業務の効率化に努める。  
また、伺い・起案書等の管理については部署ごとおよび内容別に保管する形での整備を行う。

(18) 環境整備

事務所内クリーン活動・書類、ファイルの整理

(18) 学習療法

<特養・DS>

・学習支援者の配置

産休明け（勤務時間制限有）職員の活用 + 週2～3日の準職員

・学習者の拡充

家族への再説明・取組の案内を実施し、学習療法の効果を周知する。

特養35人 → 上半期50人 → 下半期60人

デイ10人 → 上半期15人 → 上半期30人

・目標シートの活用

・看取り、口腔リハビリとの連携

事例数を増やす

・写真や動画での記録をし、事例検討に役立てる

<脳健康教室>

・学習者の確保およびサポーターの安定・スキルアップ

・地域での認識度を向上する

・学習者の拡充

地域包括との合同説明会の実施・ポスティング

現在学習者12名 → 目標学習者20名

※現在週1回の教室を週2回に増やす。

<足立区学習療法実践研究会>

- ・ 活動内容の充実
- ・ 他エリア研究会との連携
- ・ 第2回足立区学習療法実践研究会シンポジウムの実施（夏～秋）

2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度【ハピネスあだち 事務部門】施設月別年間スケジュール表												
	2013 上半期				2013 下半期				2013 四半期			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程	入職式 消防設備点検	消防訓練	夏期賞与	夏祭り 富虫駆除	敬老会	消防設備点検	ホランチア合唱団の夏い	消防訓練 忘れ年会 年末調整 オアファン講座	新年会			
稼働目標		決算報告 事業報告作成 理事会・評議員会		第一四半期報告		上半期報告			第三四半期報告			予算作成 事業計画作成 理事会・評議員会
各種会議・委員会	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議	施設運営会議 感染症委員会 身体拘束委員会 リスクマネジメント 機関紙委員会 防災委員会 事務会議
人事管理（採用・研修・評価）				全評研修								決算研修
その他外部研修等受入れ等												

接遇研修  
電話応対研修  
労務研修

求人募集(新卒・ハローワーク等)・新卒採用試験

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	食事サービス部門			
作成者	部署名	食事サービス	役職名	リーダー
	氏名	遠矢 悦子		
年度目標 テーマ	食を通して地域を健康に			
<p>施設長方針である“地域への情報発信とサービスの還元“を受け、2013 年度もセンターオフィス体制のもと、施設内外における食を通じた貢献を目指します。</p> <p>地域包括と連携して栄養教室等を開催し、地域に対して情報発信します。2012 年度に実施した江北6丁目団地への出張栄養教室や介護予防教室の継続実施の他、各自治会への呼びかけや、広報誌での情報提供などを行います。</p> <p>また、在宅サービス（ショートステイ・デイサービス）の食事内容の充実を目指し、利用者ニーズの反映に努めます。</p> <p>(1) 厨房委託について          厨房委託会社との契約内容の見直し・再選定、入札の実施を計画的に実施していく。          ・メニュー内容          ・嚥下困難者への対応（ソフト食導入等）          ・個別対応への柔軟性          ・在宅サービスや地域へのサービス提供          といったことを重点的に検討してすすめていきたいと考えます。</p> <p>(2) メニュー内容          生活の楽しみである食事の内容を充実させるため、以下の内容を実施していきます。          ・残渣量からご入居者の嗜好を把握し、残渣量の多い献立の見直しを行う。          ・現在のサイクルメニューを組み直し、新しいメニューを取り入れ献立内容を充実させる。          ・入居者が参加出来る食事サービスのイベントを定期的実施する。</p> <p>(3) 経口維持加算（Ⅰ・Ⅱ）、経口移行加算（口腔リハビリ）および口腔機能維持管理体制加算への取り組み          2012 年度は水分トロミ濃度の％化の実施や、多職種連携体制の強化を行うことができました。</p>				

2013年度は、発語訓練としての学習療法の提案や、重度化する嚥下障害に対応できるような補助食品・食事形態の再検討・工夫など、他取り組みや給食委託会社との連携を強化し、適正な算定を実施していきます。

(4) 地域包括支援センターとの連携

介護予防教室などにおける栄養教室の開催などを通じた情報発信・地域貢献を行います。

- ・出張栄養教室の実施
- ・介護予防教室の実施
- ・各自治体への呼びかけ
- ・広報誌での情報提供

(4) 在宅サービス（デイサービス・ショートステイ）における食事の充実

在宅サービス利用者の満足度向上や、利用率向上に貢献するために、食事内容を再検討するとともに、イベントの開催等にて他事業所との差別化を目指します。

- ・献立内容および提供方法の検討
- ・バイキング等、イベントの開催

(5) カフェの営業方針と計画

地域住民の交流の場になるよう、カフェのメニュー内容の検討や環境整備を行いたいと考えます。

また、入居者、家族、地域住民、職員が参加出来るようなイベントを実施し情報交換の場とすることで地域と施設との距離を縮めたいと考えます。

(6) 備蓄食管理

適正な備蓄量の管理を行います。

(7) 学習療法

「頭の栄養」について、学習療法を通じた貢献を行います。

特に、2012年度より開始したHAC脳健康教室について、学習者の確保やサポーターの安定・スキルアップ等、地域の認知症予防に貢献できるような教室づくりを目指します。

(8) その他

- ・他部署・多職種との連携

センターオフィス内での事務部門との連携はもとより、特養・医務・ケアステ・

在宅施設各部門との部門間連携・職種間連携の強化に努めます。

特に、在宅部門に関しては、ニーズに合った食事提供や、イベントの立案が出来るよう、相互に意見を出し合いやすい関係づくりに努めます。

・職員イベントの開催

センターオフィス部門として、職員への食に関するイベント提供を定期的に開催したいと考えます。

- ・スイーツフェア
- ・カレーフェア
- ・うどんフェア
- ・ベジタブルフェア



2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度【ハピネスあだち 食事サービス部門】施設月別年間スケジュール表															
基本日程	稼働率目標	各種会議・委員会	2013上半期					2013下半期							
			第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		第4四半期				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			事業報告作成	事業報告作成	事業管理報告書作成	夏祭り					元日おせち提供			事業計画作成	
			食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	食事サービス委員会 保健委員会 食事会議 ホーム連携会議	
			キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート	キャリアシート
			外部研修は 研修内容により 検討しながら随 時対応												
			その他外部研修等受入孔等												人間総合科学大学 実習生受入

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	2013 年度ハピネスあだち在宅施設サービス部門事業計画（案）			
作成者	部署名	在宅施設部門	役職名	マネージャー
	氏名	安田 雅俊		
年度目標 テーマ	施設と地域を結ぶ			
<p>2013 年度、在宅施設部門は施設方針「施設サービスの地域化」を受け、「施設と地域を結ぶ」をテーマに取り組んでいきたいと考えます。ショートステイ、デイサービスは在宅で生活されている方が施設へ来られる事業であり、在宅サービスの中では比較的施設サービスを感じていただきやすい空間であると言えます。</p> <p>昨年度までは行事には一緒に参加する機会こそありましたが、看取りのお別れ会など、特養の取り組みには積極的には関わっていなかった面が反省点でもあります。今年度はこうした取り組みにも一丸となり関わっていくことで、特養での取り組みを、利用者を通じて地域へ広げていくことを目標としていきます。</p> <p>今年度においては、「看取り援助」と「学習療法」をいかに地域へ発信していけるかが在宅施設部門としての課題だと言えます。ショートステイ、デイサービスは施設での「看取り援助」を肌で感じてもらえるサービスです。「看取り援助」という取り組みからの学びが地域の中でどの様に活かしていけるのかを、その経験を今度は地域の方への情報提供し、地域貢献へと繋げていきたいと考えます。</p> <p>(1) 稼働率目標</p> <p>ショートステイ部門においては、ショートステイ単体で 97.5%、特養の空室利用を含め、102.5%の稼働率を目指します。平均介護度 3.5 を目指します。</p> <p>デイサービス部門においては、一般型は 90%、認知症対応型は 80%の稼働率を目指します。</p> <p>(2) 昨年度を踏まえて</p> <p>①ショートステイ</p> <p>2012 年度は介護報酬の引き下げや、食費負担の在り方が見直され、結果として減収となる見込みです。制度の流れを適正に見極めながら、緊急の受け入れをショートステイには求められていますので、積極的な受け入れを行っていきたいと考えています。</p> <p>②デイサービス</p> <p>2012 年の制度改正により、運営時間を 7-9 時間のサービスへと移行していくことで、基本報酬についてはやや増加となる見込みです。ただし、予定していた個別機能訓練加算(Ⅱ)の算定要件が非常に厳しく、計画の半分程度しか実施出来ていないのが現状でもあります。</p> <p>2013 年度は個別機能訓練加算Ⅱの算定するために、利用者の機能訓練ニーズを把握し、収支と</p>				

の兼ね合いを見ながら機能訓練指導員の増員を視野に入れ、算定者の増加を目標としていきます。

(3) 学習療法について

学習療法については2012年11月から開校の脳の健康教室や、12月のセミナーの成果もあり、ニーズが高まっていることを実感しています。デイサービスでも人数を徐々にではありますが、増やしていくことができます。しかし、人数の増加に伴い、現状の職員体制の中で行くには十分とは言えない状況でもあります。

しかしニーズのある中で、学習療法に取り組んで行くことは必須であると考えており、ボランティアの運用も視野に入れながら、学習療法をショートステイ、デイサービスの利用者が積極的に行える体制を作っていきたいと考えています。具体的に、ショートステイ、デイサービスの利用者には、利用日以外であっても送迎等を行いながら脳の健康教室等で学習療法が受けられる環境を整えることで利用者の増員ができるのではないかと考えます。

(4) 在宅施設部門の一体的運用について

昨年度より、ショートステイ、デイサービスは在宅施設部門として一体的な運用を始めています。昨年度においては、利用者確保のために相談員間での連携というものは行えてきましたが、現場レベルでの一体化ということについては十分な動きは取れずにいました。本年度においては、現場レベルでの一体化という部分で、レクリエーションの共催などを行いながら、一体的運営を行っていききたいと考えています。

在宅施設部門会議を定期的開催し、ショートステイリーダー、デイサービスリーダーとマネージャーとが入りながら、情報の共有を図っていきます。

(5) 職員教育について

ショートステイでは職員の定着という部分について大きな問題を抱えています。特にリーダーがなかなか定着していないのが現状です。2013年度4月より、新たなリーダーを迎えるにあたり、リーダーに負荷がかかり過ぎないように現場の職員や、支えるマネージャーのスキルアップは必須と考えます。デイサービスは、職員こそ安定していますが、現場職員のスキルアップは必須と考えています。どちらの部署においても、現場職員がもっとリーダーシップを発揮する力が必要と考えています。

昨年度からは在宅施設部門という枠組みで運営できる強みを活かし、互いに支え合いながらも、牽制できる体制づくりや、一緒に行うことができる研修システムの構築を今年度は目指していきたいと考えています。とくに取り組んでいきたいものの一つに業務介入があります。デイサービスの職員にはショートステイの実務に入っただき、逆にショートステイの職員にもデイサービスの実務に入ってもらうことで、部外の目線からの実務評価と課題抽出を行い、それを互いの業務改善に反映してもらいたいと考えています。

また7月までにショートステイ、デイサービスのそれぞれから、「入浴」、「排泄」、「食事」、「移乗」、「レクリエーション」、「コミュニケーション」等の項目を指導していく為の主担当となる職員を選出し、在宅施設部門内の委員会を作ります。施設にある入浴委員会等と連携をしていきながら、在宅施設部門の委員会として月に一度の活動日を決め、日常業務や業務介入等から出てきた部分的な課題を抽出し解決方法について主担当の職員を中心に分析し、指導方法を検討していきます。デイサービス、ショートステイ職員のための委員会である為、在宅施設部門に見合った形での専門的な指導を行うことができ、個人の専門性のスキルアップへ繋げていきたいと考えています。

また昨年度もインフルエンザ等の発生による稼働率の低下がみられました。外部からの利用者を受け入れていく事業であり、遮断することは難しいと考えます。職員の感染症に対する知識と介助方法にまだまだ未熟な部分があったことも事実であり、今年度の課題と言えます。感染症が発生した場合においても、広めない、持ち込みのリスクを最小限に抑える力の習得が必須と考えます。感染症発生時期には家族や他事業所とも情報を共有し、持ち込みを抑える体制づくりや、スタンダードプレコーションの徹底、またサービス業種に努めるものとしての意識を高めていくために研修の機会等を積極的に作っていききたいと考えます。

#### (6) 他部門との連携

在宅施設部門は居宅のケアマネージャーや、特養部門、医療サービス部門と連携をしていくことで成り立つ事業でもあります。その為、関係部門との情報の共有は必須であると考えます。特養部門、医療サービス部門とはホーム連携会議を通じて情報の共有をしてきましたが、今年度からは居宅会議にも参加し、情報の共有やニーズの抽出、新規利用者の働きかけ等を行っていききたいと考えています。

2013 ハピネスあだち事業計画

基本日程	2012年度【在宅施設部門】施設月別年間スケジュール表											
	2012上半期						2012下半期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入職式(1日)				夏祭り					ホロンティア感謝の集い 第三者評価	新年会 ピアノコンサート		ひな祭り
稼働率目標	単体・95.0% 空室利用・102.0%	単体・96.0% 空室利用・102.0%	単体・97.0% 空室利用・104.0%	単体・96.0% 空室利用・101.0%	単体・96.0% 空室利用・103.0%	単体・95.0% 空室利用・102.0%	単体・94.0% 空室利用・102.0%	単体・95.0% 空室利用・101.0%	単体・95.0% 空室利用・105.0%	単体・94.0% 空室利用・105.0%	単体・93.0% 空室利用・101.0%	単体・95.0% 空室利用・102.0%
目標	一般・87.9% 認知・77.6%	一般・89.7% 認知・77.6%	一般・87.9% 認知・80.1%	一般・92.0% 認知・82.3%	一般・89.9% 認知・80.2%	一般・90.1% 認知・83.3%	一般・91.6% 認知・83.3%	一般・91.2% 認知・81.7%	一般・91.7% 認知・80.0%	一般・90.5% 認知・78.1%	一般・89.5% 認知・78.1%	一般・87.3% 認知・79.6%
各種会議・委員会	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議	ショートステイ会議 施設運営会議 ホーム連携会議 在宅連携会議
人事管理(採用・研修・評価)	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①
その他外部研修等受入れ等	湘和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	湘和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	湘和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	湘和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	湘和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	ショートステイハピネスあだち 事業計画 (案)																																																																									
作成者	部署名	ショートステイ	役職名	リーダー																																																																						
	氏名	黒田 直樹																																																																								
年度目標 テーマ	地域の中のショートステイ																																																																									
<p>2013 年度は、「施設サービスの地域化」という施設のテーマの下、利用者の地域居住を支えるための役割を果たすべく、「地域の中のショートステイ」をテーマに取り組んでいきます。</p> <p>利用者・家族だけでなく地域に愛され、認知された今まで以上に地域に根ざしたショートステイになるべく支援していきます。</p> <p>(1) 稼働率目標</p> <p>ショートステイ単体で 95%</p> <p>特養の空室利用を含め、102.5%の稼働率を目指します。</p> <p>平成25年度 月別稼働率目標 (空室利用含)</p> <p>昨年度の実績により、以下の表1の稼働率を目指します。</p> <p>(表1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>延利用日数</th> <th>空室利用延日数</th> <th>稼働率</th> <th>稼働率 (空室利用含)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>570</td><td>40</td><td>95%</td><td>102%</td></tr> <tr><td>5月</td><td>595</td><td>40</td><td>96%</td><td>102%</td></tr> <tr><td>6月</td><td>582</td><td>44</td><td>97%</td><td>104%</td></tr> <tr><td>7月</td><td>595</td><td>47</td><td>96%</td><td>104%</td></tr> <tr><td>8月</td><td>595</td><td>45</td><td>96%</td><td>103%</td></tr> <tr><td>9月</td><td>570</td><td>40</td><td>95%</td><td>102%</td></tr> <tr><td>10月</td><td>585</td><td>50</td><td>94%</td><td>102%</td></tr> <tr><td>11月</td><td>570</td><td>37</td><td>95%</td><td>101%</td></tr> <tr><td>12月</td><td>589</td><td>40</td><td>95%</td><td>101%</td></tr> <tr><td>1月</td><td>583</td><td>70</td><td>94%</td><td>105%</td></tr> <tr><td>2月</td><td>521</td><td>47</td><td>93%</td><td>101%</td></tr> <tr><td>3月</td><td>583</td><td>47</td><td>94%</td><td>102%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>6936</td><td>547</td><td>95%</td><td>102.5%</td></tr> </tbody> </table>						延利用日数	空室利用延日数	稼働率	稼働率 (空室利用含)	4月	570	40	95%	102%	5月	595	40	96%	102%	6月	582	44	97%	104%	7月	595	47	96%	104%	8月	595	45	96%	103%	9月	570	40	95%	102%	10月	585	50	94%	102%	11月	570	37	95%	101%	12月	589	40	95%	101%	1月	583	70	94%	105%	2月	521	47	93%	101%	3月	583	47	94%	102%	合計	6936	547	95%	102.5%
	延利用日数	空室利用延日数	稼働率	稼働率 (空室利用含)																																																																						
4月	570	40	95%	102%																																																																						
5月	595	40	96%	102%																																																																						
6月	582	44	97%	104%																																																																						
7月	595	47	96%	104%																																																																						
8月	595	45	96%	103%																																																																						
9月	570	40	95%	102%																																																																						
10月	585	50	94%	102%																																																																						
11月	570	37	95%	101%																																																																						
12月	589	40	95%	101%																																																																						
1月	583	70	94%	105%																																																																						
2月	521	47	93%	101%																																																																						
3月	583	47	94%	102%																																																																						
合計	6936	547	95%	102.5%																																																																						

(2) 平均滞在日数の見込み

リピーターを中心に昨年度同様平均滞在中日数7日間を目標に運営を目指します。また新規利用者を積極的に取り入れ、長期利用のリピーターとなるよう働きかけをっていきます。長期のリピーターが安定することで、現場の安定化や、送迎の負担軽減にもつながり、稼働率が向上するものと考えられ、滞在日数が長期化するよう働きかけを行っていきたいと考えます。

(3) 平均介護度目標

リピーターの重度化、医療的ニーズの高い利用者の受け入れの増加に伴い、2011年度の平均介護度3.4から昨年度は平均介護度は3.5と増加しています。

2013年度も平均介護度3.5を目標に受け入れを行っていき、重度の利用者を受け入れる上での仕組みの整備や技術の向上をすすめていきます。

(4) 職員教育

① 医療行為

医療ニーズが高まっており、今後そのニーズに応える為にも医療の知識を習得すべく、研修等に積極的に参加します。また、医療行為が必要な方の受け入れを安定して行っていくべく職員の50時間研修にも参加していきたいと考えます。

② 基礎技術の向上

職員全体の介護技術のレベルの底上げを目指し、外部研修に積極的に参加し、また部署内の職員に学んだ事をミーティングにて伝えあい、部署全体の知識として還元していきます。

③ 感染症対策

昨年度末にインフルエンザの流行が職員・利用者共に感染の拡大が確認され、利用受け入れの制限を行うまでに至りました。ノロウイルスやインフルエンザの感染症予防、また症状があった際の対応策を部内研修等で全職員にて統一し、ショートステイ利用中に発症が確認されても、適切な対策をとれ、感染を拡大させずに予定通りの利用日程を過ごしていただける部署をつくりまします。

(5) 居宅介護支援事業所の区分

同法人の居宅介護支援事業所からの受け入れについては情報交換を行いながら積極的に受け入れを行っていきます。その際、集中減算の対象とならないためにも、居宅とは情報交換、連携をしっかりと行っていきます。法人内シェアは30%前後を目安として受け入れを行っていきます。

(6) 利用者獲得のための営業戦略

① 相談員の役割

今年度は情報提供を積極的に行っていきたいと考えています。事業所への随時の空室情報の他、月初に空き状況をカレンダー様式で各事業所にFAXを送付するなど常に最新の空室や利用状況の情報が得られるような環境を作っていきます。

また、「空き次第いつでも利用したい」といったケースを増やし、急なキャンセルが出た際に逐一入居の相談ができ、キャンセルの穴埋めを行えるようにします。

## ②現場の役割

『全室個室』や『個別入浴』といったハード面だけでなく、デイサービスとの連動した利用や、初回利用時や、状態の不安定な方に関してはご家族に利用中の様子をマメに報告するなどソフト面も含めた「ハピネスあだちのショートステイ」独自の強みを増やし、「他ではなくハピネスあだちを利用したい」と継続的な利用につながるサービスの体制を整えます。

### (7) 利用者のニーズ

昨年度のショートステイのリピーターの数は8~9割近くにのぼり、利用者から一定の評価を得ていると考えますが、退屈だとの言葉が聞かれることがあり、ショートステイ利用中での余暇活動については十分に行えていないのが現状です。デイサービスとの合同行事や、ショートステイ単体での午後の余暇活動のプログラムを作成し、余暇の時間の活用に努めます。

医療行為のある利用者からの依頼も昨年同様増加傾向にあります。現在はインスリン、在宅酸素使用者、胃ろう、バルーンカテーテルの方の受け入れを行っています。今後も医療行為者については可能な限り受け入れを行いつつ、受け入れ態勢については、医療サービス部門との連携のもと、利用していただく上での十分な情報を収集し安心して受け入れが出来る体制作りを進めていきます。

また、ショートステイとして受け入れ可能な範囲を事業所に伝え、スムーズな利用に繋がっていきます。

### (8) 家族の評価

リピーターが多いことは、家族からも一定の評価を得ていると考えます。家族からの要望として多いことは転倒などをさせないでほしい依頼が多く聞かれます。居室環境や部屋割りの配慮を通じてリスクマネジメントに努めております。合わせて転倒の可能性が絶えずゼロにならない旨もその都度説明していきます。

### (9) 苦情対応

事故の発生を予期し、事故が起きないように配慮していきます。また事故発生の際には速やかに原因の究明・分析を行い、再発がないよう対応していきます。

また荷物忘れ等が時折みられ、家族からの苦情につながりやすい事例となっています。荷物チェックの徹底の他、家族からのチェック表の記載を依頼していきます。

### (10) 緊急ショートを受け入れ目標

緊急ショートについては、ショート有空室がある際には積極的に受け入れを行っていきます。また満室であった際についても、事後の受け入れが可能である場合には情報提供をしておき、優



先的に利用できるよう配慮していきます。

(11) コンプライアンスへの取り組み計画

法令を順守し、意識を高く持ちサービスの提供に努めます。介護保険法や、車輛等がからむ道路交通法等の勉強会等を開催し、共通した認識が持てるよう努めていきます。

(12) 地域連携・地域貢献への取り組み

定期的に行なわれショートステイも参加している上沼田保育園や、江北保育園の園児の訪問行事の継続のほか、ショートステイから地域との関わりを持てる行事を設けていきます。

(13) 空室利用目標

表1参照。

昨年度も特養部門での入院数が減少傾向にあり、空室利用の機会が減少しておりました。これは特養部門の看取り援助体制の充実等、安定した運営の成果であります。今後空室利用の積極的な受け入れを目指し、特養部門・医療サービス部門との連携のもと、特養利用者の入院の際速やかに空室利用を受け入れられる体制の強化、情報共有の仕組みの整備をしていきます。

(14) 第三者評価受審事業計画

第三者評価にて、短期入所介護計画の実際のサービスとの連動に関して指導を受けました。計画書を見ればその方のサービスが統一され行なえるよう中身の濃い計画書にしていくべく作成までの流れの整備やカンファレンスの実施をしていきます。

また、ケアする上での過剰なサービスについて指摘を受けており、自立支援も目指したケアの視点を改めて確認していきます。

(15) その他

・予算活用

各ユニット費を環境整備や、余暇活動に向けての物品購入にあてていきたいと考えています。

2013 ハピネスあだち事業計画

		2012下半年期												
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
基本日程		入職式(2日) 新人職員指導 にじ色ノートを使い OJT指導開始 お花見ドライブ	上沼田保育園来訪 香人公園ドライブ (菜湯花見ドライブ)	夏祭り 江北保育園来訪	紅葉ドライブ	ポランテア感謝の 集い 第三者評価 上沼田保育園来訪	クリスマスパーティ イルミネーション鑑 賞ドライブ 江北小学校プラス バンド演奏会 オープン講座	新年会 ピアコンサート 初詣外出 江北保育園来訪	新分	ひな祭り 上沼田保育園来訪				
稼働率目標		95.0% 空室利用・・・102%	96.0% 空室利用・・・104%	97.0% 空室利用・・・104%	96.0% 空室利用・・・104%	96.0% 空室利用・・・103%	95.0% 空室利用・・・102%	94.0% 空室利用・・・102%	94.0% 空室利用・・・101%	95.0% 空室利用・・・101%	94.0% 空室利用・・・105%	93.0% 空室利用・・・101%	94.0% 空室利用・・・102%	
各種会議・委員会		施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 身体拘束・虐待防 止委員会 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	施設運営会議 ホーム運営会議 在宅運営会議 シヨーステイ会議 職員会議 シヨーステイ会議	
人事管理(採用・研修・評価)		新人職員研修 記録の書き方 ユニット事業計画 発表会①	リスクマネジメント 研修① 食事研修 発表会①	感染症研修① 看取り研修①	収支関係研修 排泄研修	接遇研修① (身体・拘束) 入浴研修	住環境 医療行為①	身体観察・高齢者 に多い症状研修 ユニット事業計画 発表会②	リスクマネジメント 研修② 就業規則研修	感染症研修② 看取り研修①	在宅の取り組み 車椅子研修	接遇研修② 学習療法	ケアプラン研修 医療行為②	
その他外部研修等受入れ等			湘和短期大学 介護福祉過程実習 東京福祉大学 社会福祉士過程	千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程					シヨーステイ部会			千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習	シヨーステイ部会	

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	デイサービスセンターハピネスあだち			
作成者	部署名	通所介護	役職名	リーダー相談員
	氏名	川島 愛子		
年度目標 テーマ	「在宅と施設をつなぐ」 コミュニティ、コーディネーター			
<p>&lt;2013年度基本方針&gt;</p> <p>2012度の介護報酬改定から1年が経過しました。</p> <p>デイサービスにとっては、サービス提供時間の改正があり、これまでの6-8時間から7-9時間のサービス提供時間へと変更しました。</p> <p>家族のレスパイトを促進する観点からの法改正ではありましたが、送迎時間の変更や、サービス内容の変更、職員の早番、遅番勤務による申し送りの不備などしばらく混乱が続きました。現在では、安定した体制をとり、充実したサービスの提供を行うことができるようになりました。介護保険制度は、在宅ヘシフトせざるをえません。すなわち、重度の方でも在宅で安心して生活できる受け皿が更に必要となります。デイサービスもその一角を担うサービスとして重要視されると思います。</p> <p>ハピネスあだちのデイサービスは開設から8年目を迎えますが、サービス対象地域の高齢化率が高いということもあり、デイサービスも近年多様化してきています。利用の延長、自費宿泊また、入浴のみのデイサービス、介護予防に特化したリハビリのデイサービスなどそれぞれのニーズに合わせたデイサービスが増えています。</p> <p>今後、ハピネスあだちはどのような立場で地域のニーズにこたえていくのか。</p> <p>それは、特養やショートステイなど併設の特徴を活かした切れ目のないサービスの提供だと思います。ハピネスあだちのデイサービスは施設とも在宅とも繋がりががあるため、どちらにも情報を提供できる立場にあります。将来特養を希望されている地域の方や、地域とともに暮らしていきたい施設に入所されている方との橋渡しとなれるように他の在宅サービスと連携を図りながら役割を担っていきます。</p> <p>また、施設で行っている「脳の健康教室」など地域の方が施設に来る機会も増えています。デイサービスを利用している方が、地域の方とカフェ等で交流することで小さいながらも一つのコミュニティが作れるように支援していきます。</p>				

2013 ハピネスあだち事業計画

(1) 稼働率目標

2013年度目標稼働率 90% 一日平均利用者数 32名

稼働率目標を達成するためにも、毎月の稼働率を安定させることが必要とされます。

35名定員に対して一日の定員が越えない範囲での利用登録を確保し一日32名の利用者確保を目標とします。

	登録人員 (人)	利用延べ人員 (人)	稼働率 (%)
4月	120人	801人	88.0%
5月	122人	816人	89.7%
6月	119人	800人	87.9%
7月	130人	805人	92.0%
8月	124人	850人	89.9%
9月	128人	820人	90.1%
10月	129人	834人	91.6%
11月	123人	830人	91.2%
12月	130人	802人	91.7%
1月	128人	760人	90.5%
2月	122人	752人	89.5%
3月	122人	825人	87.3%
平均	125人	818人	90.0%

登録者、稼働率確保のための取り組み

①登録者入れ替え時の迅速な対応

入院や長期休み等が出た場合早い段階で今後の再開の見通しを確認し、利用までの期間が長い場合などはすぐに新規の受け入れを行うなど、入れ替えを迅速に行い一人でも多くの利用者を受け入れられるようにしていきます。(キャンセル待ち期間の短縮)

②居宅介護支援事業者、家族との連携、連絡の徹底

昨年度月末にケアマネジャーに送っていた「利用状況報告書」を今後「モニタリング」の形式として行いサービスの達成状況などを報告していきます。

また、引き続きケアマネジャーとの積極的な利用者の情報交換、共有を行い連携を深めていきます。他のサービス事業者への報告や相談も積極的に行いチームワークで支援ができる体制に繋げて利用者確保していきます。

家族とも送迎時や連絡帳等でデイサービスでの利用者の状況を報告し、自宅の生活を施設においても継続するための支援ができるように努めていきます。

③医療行為の方の積極的な受け入れ

現在も数名の医療行為の方の受け入れを行っていますが、今後も引き続き、看護師との話し合いのもと医療行為（胃ろう、インスリン、在宅酸素など）の方の受け入れを検討していきます。また、介護職員による痰の吸引等も在宅サービスで徐々に行えるようになってきているため、研修に参加するなど体制づくりを行います。

④スポット利用や振り替利用積極的な受け入れ

私用や受診などで休まれる場合など、振り替利用の案内をして利用していただくように対応します。また、急な利用希望にも定員を超えない範囲で利用可能な旨の情報提供をしていきます。

(2) 2012年度の分析、評価

2012年度は介護保険改正でのスタートであったため、始めの頃は7-9時間へのサービス提供時間の体制作りへの対応に追われてしまいました。

また、それに伴い時間が延びた分どの様なサービスを行うかもその日の状況で対応していた様に思います。

また、新しく個別機能訓練加算がⅠとⅡへ分かれ、これまで以上に生活機能の向上を目的とした訓練が求められ自立支援の促進が更に求められています。

個別機能訓練加算Ⅱの取得に向けて準備し8月から加算の取得を行ってきましたが、算定の条件が厳しく、全体の2/3程度の取得しかできていない状況があります。

全員の加算取得に向けての取り組みとして、算定要件に機能訓練指導員が直接訓練を行うこと求められており、機能訓練指導員のサービスに関わる時間が利用人数を指導できる容量を超えているため、機能訓練の実施時間をもう一度見直し、それに伴い機能訓練指導員のサービス時間の見直しなども行います。

また、利用者ごとの目標が利用者のADL及びIADLの状況を把握し日常生活での維持向上に関する具体的な目標が必要なため利用者の目標を職員で共有し普段の生活援助の中でも訓練が行えるように毎日のミーティングの中で確認し状態の確認をします。

(3) 利用ニーズの確認、サービスの質の向上にむけて

昨年から急速に宿泊のデイサービスが増え本来のデイサービスに求める役割とはかけはなれた方向性が全体的には見えてきていますが、ハピネスあだちにおいての利用者のニーズとしては、例年と変わらず入浴（特に重度の方）やショートステイとの併用利用、社会参加の場、また、震災以降災害時にも強い充実したハード面を希望されて利用され

るというかたも多くいました。

社会参加と、心身の現状維持への期待です。個々の目標に沿った支援をしていけるように職員全体が個々の目標を把握しデイサービスで行うサービスの目的意識が統一できるように再度確認を行います。

#### (4) 送迎サービス計画

##### ①送迎マニュアルの活用

送迎マニュアルを活用し、職員によって送迎対応に差が出ないように努めサービスの標準化を図ります。送迎対応の変更に応じマニュアル改正も月1回のペースで行います。

##### ②個人のニーズに合わせた送迎

A D L等個々の身体状況に合わせた柔軟な送迎対応を行います。

##### ③車両の定期点検、車内清掃

車輛担当を配置し、車輛の点検（傷など）、車輛の清掃など定期的に行います。

##### ④ドライバー会議の実施

ドライバー会議を定期的に行い運転のマナーや交通ルールなど再確認します。

##### ⑤車両事故の減少

前年度、車輛事故の増加がみられており、車輛事故報告書を元に申し送りや会議にて職員へフィードバックし事故の減少を図ります。

##### ⑥送迎時の家族対応

送迎中は業務が施設外に及ぶ為、家族や地域住民との関わりが増え、挨拶や言葉遣い、態度やマナー、身だしなみ等に十分配慮します。

#### (5) 入浴サービス計画

##### ①「ゆったり」とした入浴の提供

サービス提供時間が増え、入浴時間を長く確保することが可能となり、ゆったりとした入浴サービスを提供します。又、プライバシー、個々の意思を尊重しその人のペースに合わせた入浴援助を実施します。

##### ②メンテナンスと環境整備

定期的にはリフトの点検、排水溝の清掃などメンテナンスを実施していきます。

また、脱衣所の環境整備も行い常に清潔な環境を保ちます。

昨年度から故障が目立つボイラーの点検も事務と協議を重ね、定期的に行います。

③入浴剤や季節湯などの実施

毎年同様、入浴剤や季節湯（ゆず湯、菖蒲湯など）を実施することで気分転換を図っていただきます。

④個浴の活用

現在個浴の使用頻度が少ない為、個人のADLやニーズを踏まえ個浴を活用します。

(6) 食事サービス計画

①食事の準備を利用者とともにに行い出来ることへの支援

お茶の準備、おしぼりの提供、味噌汁、ご飯の盛り付けなど職員のみで行うのではなく利用者とともに行いできることへの支援を実施します。

②口腔体操の実施

食事前に口腔体操を行い嚥下機能の低下防止に努め食事をおいしく召し上がっていただきます。

③個々の状態に合わせた自立支援への食事形態の徹底

食札等を使用し個々の食事形態に合わせて提供していきます。食事形態を変えることで少しでも自力摂取できるように、姿勢と関連させて支援していきます。

④家族、ケアマネジャー等関係職種との情報交換

要介護度の重度化に伴い、嚥下機能低下、食事量の減量等、低栄養状態にある特定の方に対して、家族、ケアマネジャー等の関係職種と情報交換の上、早急な対策と支援を実施します。

⑤選択食の実施

職員向けに行っているスイーツフェアなどを利用者向けにアレンジし実施できるようにします。

(7) 機能訓練サービス計画

①集団体操のメニューの多様化

集団で行う体操のメニューのバリエーションを増やし（セラバンドの導入、棒体操、リズム体操など）目的をもった体操を実施します。

②個別機能訓練加算Ⅱ算定の更なる体制作り

昨年8月より算定を行っている個別機能訓練加算Ⅱの算定に伴い、重要視されているのは生活機能の向上です。これまでの機能訓練ではなく、生活訓練と身体機能へのアプローチが重要とされています。日常生活の基本的動作に関する目標を念頭に入れ支援できるように、通所介護計画書と機能訓練計画書を一体化することで、職員と機能訓練士が同じ目的意識を持って支援をします。

(8) レクリエーション計画

①セルフレクリエーションへの支援

フロア内に棚を設置し物品を置いておくことで、自ら選択したレクリエーションを取りにきていただき自発的に取り組んでいただきます。

②ボランティア導入による定期的なクラブ活動

昨年度より導入した絵手紙と同様に専門的なボランティアを導入することで、書道や華道、折り紙などのクラブ活動を定期的開催し参加していただきます。

③当日の担当職員によるレクリエーション

サービス提供時間の延長に伴い、前年度より開始した日替わりの担当職員によるレクリエーションの実施、充実を図ります。

(9) 行事計画

2013年度は、サービス提供時間が長くなった分、外出行事を増やすことや、施設全体で行っている行事にデイサービスの利用者も参加していただけるように取り組みます。

\* 年間の行事計画は年間スケジュール表参照

(10) 職員教育

新人教育： 接遇研修、介護の基礎知識の取得

準職員： 目標の設定、個々の能力合わせての役割の明確化

正職員： 目標の設定、職員教育、業務の役割分担、責任を持った取り組み



(11) 7-9h サービス提供時間体制の構築に向けて

冒頭の部分でも挙げましたが、昨年度の法改正によってデイサービスのサービス提供時間が6-8hから5-7h、または7-9hへと変更となりました。時間をこれまでより減らすのか、それとも延ばすのか協議、検討を重ねた結果、職員の勤務時間をツーシフトへ変更するなど試行錯誤の中で7-9hのサービス提供時間でサービスを行いました。

レスパイトケアの促進のためと言われてはいますが、実際的に7-9hにシフトしても30分から1時間程度しか変わらず根本的には、給付の抑制や自費の宿泊デイなどが増えてきていることへの対応策のようにも思えます。

当施設のように通常のデイサービスを行っている事業所にとっては、延びた時間をどのように活用していくかを考えていくことが求められます。

特に、デイサービスで求められている「個別の心身の状況を重視し生活機能向上を目的とした訓練を行う場所」が提供できるように集団ではなく個別に合わせたプログラムが必要です。現在月1で行っている絵手紙教室のようなボランティアさんによるカルチャースクールの数を増やして定期的に開催し、自発的に参加できる活動作りをします。

(12) ショートステイとの一体化

在宅で長く生活を続けるためにデイサービスと併用してショートステイを利用される方が増えています。

特に認知症のある方は環境の変化に順応することが困難なため、同じ施設内のショートステイを希望される方が多く、情報の共有や連携が一層求められます。

家族にとっては、デイサービス、ショートステイという個々の事業所という概念はなく、「ハピネスあだち」という一つの施設として捉えている方が多いので、今年度からは組織として一体的な運用ができる体制づくりを行います。

まず、日勤帯の職員の入れ替えをすることで内部牽制を図ります。相談員会議も定期的に行い、利用者の情報共有を行うことでサービスの標準化をします。

また、在宅部門内に委員会を設置し、職員教育の場や、研修会の実施などを行い機能していきます。

更に、各部署で行われている会議を職員間の交流目的も含め1年に数回合同で行い一体的な運用がスムーズに行えるようにします。

(13) 地域連携計画、地域貢献計画

①災害拠点としての役割を担う

災害時に受け入れ施設としての役割があることを地域に情報発信し、災害時に中心とされるように日ごろから連絡体制の整備や、訓練を行います。

②地域の方との交流会の実施

保育園児との交流会の実施。また、江北学習センターとも連携し地域にあるサークル団体などの発表する場としても活用していただきます。

また、昨年度から交流のある足立区社会福祉協議会のボランティアセンターの方とも連携を図り、ボランティアの受け入れや相談を行います。

(14) コンプライアンスへの取り組み

デイサービスを運営するにあたって遵守すべ項目の徹底をしていきます

- ・ 人員配置の遵守
- ・ 通所介護計画書の作成、モニタリング、評価
- ・ 定員の遵守
- ・ 個別機能訓練加算Ⅱの計画書の作成、評価

(15) 認知症ケア・学習療法の取り組み

①学習療法の効果を数値化していく

学習療法の効果は普段の感覚ではわかっているにもかかわらず数値化で残すことができていないため、数値化できるように取り組んでいきます。

②学習支援者の育成

職員の入れ替えもあり学習療法を行える職員も限られてきているため、デイサービス全職員が学習支援者としての役割を担えるように、現在学習療法を行える職員が適宜研修会を開き、実施職員の育成をしていきます。また、月1回のデイサービス会議などで学習療法の実施経過についてフィードバックし、各職員への意識づけを図るとともに、意見を出し合い、向上を目指します。

③学習療法ボランティアの受け入れ

学習する時間を一定に確保するためにも学習支援者のボランティアを募り、学習時間をスケジュール化し学習者の新規獲得もしていきたいと思っております。

④「脳の健康教室」との連携

昨年度開設した「脳の健康教室」においては、デイサービスの利用者の方にも参加対象となる方も多いため、対象者向けにお知らせを配布したり、見学をしてもらったりして情報提供を行い、「脳の健康教室」へ自発的に参加できるように図っていきます。また、「脳の健康教室」に参加されている地域の方が、デイサービスを利用されるようになった際には、それと連動させて、学習療法へも取り組めるようにしていきます。

⑤他の導入施設との関わり

足立区内のデイサービスで学習療法を行っている施設と関わりを持ち情報共有ができるように、まずは、「足立区学習療法実践研究会」の中でデイサービスで行っている施設同士で集まり情報共有を行い、今後他のデイサービスと関わりを持つための方向性を一緒に考えていきます。

(16) その他

①震災への対策の整備

昨年度から引き続き、東日本大震災を受けて在宅での緊急時対応マニュアル作成し、役割分担を明確にします。また、利用者の緊急時連絡網を作成します。

②記録のフォーマット化

通所介護計画書をもとに、機能訓練計画書を連動し毎月のモニタリングがスムーズに行えるようにフォーマット化します。それに伴い利用者個々の情報もパソコン上で統一していきます。

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	デイサービスセンターハピネスあだち 認知症対応型			
作成者	部署名	通所介護	役職名	リーダー相談員
	氏名	川島 愛子		
年度目標 テーマ	「家族の負担軽減、地域の認知症ケアを担う」 リスペクト・オブ・リビング			
<p>&lt;2013年度基本方針&gt;</p> <p>2012年度は介護保険の改正があり、認知症対応型は更に重度化が見込まれ、介護報酬の単価が上がりサービス提供時間も7-9時間へと変更となりました。</p> <p>認知症を抱える方にとっては時間が伸びることは状況が変わることとなり混乱を招く原因となる場合があります。自宅の延長線上にデイサービスがあることもあり、デイサービスで過ごす時間はとても大切な時間となります。在宅で生活している認知症の方をデイサービスで支えていくことが重要な課題として捉え、信頼関係を構築し、個別ケアの徹底を図り対応します。昨年度は、介護度数自体は前年度とさほど変わりはありませんが、医療ニーズが求められる利用者、認知症状が進行している利用者が増えてきています。その為、家族の介護負担も大きくなっているのが実状です。</p> <p>地域化を目指すハピネスあだちとして、多少でも利用者家族の介護負担の軽減、利用者により快適な生活を送っていただく為の中核となる存在として、機能していかなければなりません。その為には、職員の認知症ケアについての知識の向上、より専門的知識を得て、スキルを磨いていかなければならないと考えます。認知症の方も人格をもった一人間であり、確かなコミュニケーション技法をもって、利用者個人として尊重し、当たり前「尊厳」を大切にし、利用者と正面から向かい合う姿勢を常に意識し、より密の濃い援助を形成していきます。</p>				

## (1) 稼働率目標

2013年度目標稼働率 80% 一日平均利用者数 9.6名

前年度、月～土、平均的に12名の定員に満たす月も多く見られましたが、金曜日の登録人数が少ない為、積極的に新規利用者の受け入れを実施していきます。また、その他の曜日では概ね、12名の定員を満たしていますが、長期のショートステイや入院による休みも日によって見られる為、新規利用者の開拓、現利用者の利用日追加や、緊急での利用にて対応し、今後も積極的に稼働率の向上を目指します。

	登録人員 (人)	利用延べ人員 (人)	稼働率 (%)
4月	25人	235人	75.3%
5月	26人	242人	77.6%
6月	28人	250人	80.1%
7月	28人	247人	82.3%
8月	29人	260人	80.2%
9月	30人	260人	83.3%
10月	30人	260人	83.3%
11月	29人	255人	81.7%
12月	29人	240人	80.0%
1月	27人	225人	78.1%
2月	27人	225人	78.1%
3月	28人	258人	79.6%
平均	28人	247人	80.0%

## (2) 2012年度の分析、評価

利用希望者の重度化傾向に伴い、褥瘡や様々な皮膚疾患を抱えた利用者や、吸引が緊急時必要な利用者等が増えてきました。利用者個々の認知症状も徐々にではありますが進行し複雑になってきています。また、ハピネスあだちショートステイを併せて利用される利用者が増えており極力環境の変化が生じないような対応が求められています。今後はさらに医療ニーズが求められると考えられます。利用問い合わせの電話も増え、定員12名に対し、ほぼ毎日定員数の利用者が来所されるようになり、利用者の増加がみられています。登録している利用者が長期入院等で利用できない場合は、新規利用者の開拓、現利用者の利用日追加や、緊急利用にて対応しています。

(3) 利用ニーズの確認、サービスの質の向上

前年度に比べ、利用者の重度化傾向に伴い、医療ニーズが求められるようになってきました。今後、経管栄養、吸引が必要な利用者が増えることが考えられるため、職員間で、吸引、経管栄養の勉強会を開き、職員のレベルアップを目指します。また、今後、積極的に経管栄養、吸引等の医療行為が必要な高齢者を積極的に受け入れる体制を作っていきます。認知症対応型フロア専従の職員は認知症についての知識を深めるためにも、勉強会を開き、個々の職員のスキルアップを目指していきます。

(4) 送迎サービス計画

一般型に準じ対応します。

(5) 入浴サービス計画

基本内容は一般型に準じますが、認知症による入浴拒否時等の適切な対応や、職員の対応統一・申し送り体制の強化をしていきます。

(6) 食事サービス計画

基本的内容は一般型に準じ対応しますが、個々の認知症に応じた対応をしていきます。利用者の自立度に応じ食事提供準備や食事の後片付け等を積極的に参加して頂けるよう対応します。

(7) 機能訓練サービス計画

基本的には一般型に準ずるが、個々の認知症の症状にあわせた対応をしていきます。

(8) レクリエーション計画

内容の固定など、利用者全員が共通したレクリエーションの実施ではなく、その日の個々の状況にあわせ、個々が選択出来、積極的に楽しく参加するレクリエーションの実施をします。

レクリエーション実施を促した際、拒否があった利用者も、次第に自然と輪に入り楽しめる事も多いため、輪に入りやすい環境を作った上で実施していきます。

(9) 行事計画 (月別)

一般型に準じ、利用者個々の状況をふまえ参加します。

(10) 職員教育

基本は一般型に準ずるが、認知症ケアや、吸引、経管栄養についての知識を深める為に勉強会等を開き、個々の職員のレベルアップを目指していきます。また、対応が困難な利用者に対し、快適な生活を送っていただくよう、個別カンファレンスを開き対応します。

(11) 7-9時間サービス提供体制の構築

介護報酬改正に伴い、7-9時間サービス提供体制へ変更となり、試行錯誤しながらも利用の流れが安定してきました。前年度に引き続き安心して過ごしていただくよう努めると共に、日常生活では行くことが困難な場所に出かけるなどして時間を有効活用していきます。

又、利用者の重度化が徐々に進行しているにあたり、家族の中には少しでも長く利用したい、もしくは年齢を考え出来るだけ短い時間で利用したいというニーズがある可能性を考慮し、7-9時間サービス提供の範囲でニーズに対応していきます。

(12) ショートステイ、デイサービスの一体的運営

現在、ハピネスあだちショートステイ、デイサービスを併せて利用される利用者が増えているため、より密の濃い援助を行えるよう、部署間で利用者の情報の共有を図ります。また、部署間の職員を混同し、部門間で同等の業務を行えるよう、職員のスキルアップを目指していきます。

(13) 地域連携計画、地域貢献計画

一般型に準ずる。

(14) コンプライアンス「法令厳守規程」への取込み計画

一般型に準ずる。

(15) 認知症ケア、学習療法への取り組み

介護度や認知症状の重度化、これまで実施していた方が入院されたり、利用終了となった事に伴い、学習療法実施者数が減少傾向にある為、学習療法についてのお知らせを作り、興味のある家族対象に見学会を開いたり、学習療法が必要だと考えられる利用者を職員が選定し、お試しとして無料で体験して頂き、新規の「学習療法」実施者の増加を図ります。また学習を実施する職員体制が不十分である為、研修などに参加し、実施可能職員増加を目指すと共に個々のスキルアップを図るなどして、職員体制を構築していきます。

#### (16) その他

##### ①認知症ケアへの取り組み

「パーソン・センタード・ケア」を念頭に置き、利用者の行動に対し、制限をかけず、その行動に対し、寄り添う体制を作り、「受容」「傾聴」「共感」の3点を念頭に置き、職員はより利用者に対し、快適な生活を送って頂く様な環境づくりを行なっていきます。



2013 ハピネスあだち事業計画

		2013年度【 デイサービス 】施設月別年間スケジュール表											
		2013上半期						2013下半期					
		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程		入職式(1日) (新人職員指導) OJT指導開始 デイ行事 お花見	上沼田保育園来訪 買い物	デイ行事 園芸	施設夏祭り(29日) 江北保育園来訪 流しそめん	デイ行事 夏祭り	施設敬老会(17日) 防災訓練 にし色ノート評価 上沼田保育園来訪 敬老会	デイ行事 運動会	ポランテア感謝の 集い(23日)	デイ行事 クリスマス会	施設新年会 江北保育園来訪	デイ行事 豆まき	上沼田保育園来訪 江北保育園来訪 にし色ノート評価 デイ行事 歌楽協会
稼働率目標		一般型 88%	一般型 89%	一般型 87%	一般型 92%	一般型 89%	一般型 90%	一般型 91%	一般型 91%	一般型 91%	一般型 90%	一般型 89%	一般型 87%
各種会議・委員会		認知症対応型 75%	認知症対応型 77%	認知症対応型 80%	認知症対応型 82%	認知症対応型 80%	認知症対応型 83%	認知症対応型 83%	認知症対応型 81%	認知症対応型 80%	認知症対応型 78%	認知症対応型 78%	認知症対応型 79%
人事管理(採用・研修・計画)		デイ会議 機能訓練会議 トライバー会議	デイ会議 正職員会議	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会	施設連携会議 在宅連携会議 職場安全委員会 身体拘束・虐待防 止委員会
その他外部研修等受入れ等		(新人職員研修)	入浴援助研修	ケアアラン研修 食事援助研修 (味下機能と認識) 健康管理基礎研修	リスクマネジメント 研修 食事援助研修 (食中毒の基礎知識)	接遇研修	介護保険、老人福 祉法研修 認知症介護研修	推進援助研修 健康管理研修 (インフルエンザ)	職員会議 トランスアワー研修	職員会議 緊急時対応研修	職員会議	施設契約事項研修	施設契約事項研修 身体拘束・虐待防 止研修
			浦和短期大学 介護福祉過程実習		千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程								千住介護福祉専門 学校 介護福祉過程実習 東京家政大学 社会福祉士過程 上沼田中学校体験 学習

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	ケアステーションハピネスあだち			
作成者	部署名	ケアステーション	役職名	マネージャー
	氏名	橋本飛鳥		
年度目標 テーマ	在宅生活継続への支援「地域居住を目指して」			
<p>2013年度施設方針を受け、ケアステーション部門では「在宅生活継続への支援」をテーマに運営していきます。また、医療介護サービスの需要の大幅な増大に対応するため、ケアマネジャーや登録ヘルパーの増員、定着、組織マネジメント力の強化に取り組みます。施設サービスの地域化というテーマを踏まえ、今後は地域包括ケアシステムの中心に、特別養護老人ホームハピネスあだちを拠点としたパッケージプランを確立していきます。</p> <p>またケアステーションハピネスあだちの管轄エリアである江北・堀之内地区の総人口は約2万人、うち高齢者数約6千人、高齢化率は30%を超えています。地域の実態を踏まえ、高齢者の孤立を防ぎ、地域で安心して生き生きと暮らし続けることができるよう、高齢者と関わる機会を作り、医療と介護の連携を強化し、在宅支援の推進を図ります。利用者が住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるよう、気軽に相談ができる地域居住、エイジング・イン・プレイス in 江北・堀之内を支えることのできるケアステーションハピネスあだちを目指します。</p>				
① 居宅介護支援事業所におけるケアプラン目標推移				
年/月	CM人数	要介護件数	要支援件数	合計件数
25/3	3.5人	90件	21件	111件
25/4	4.5人	90	21	111
25/5	4.5人	91	22	113
25/6	4.5人	92	22	114
25/7	4.5人	95	24	119
25/8	4.5人	96	26	122
25/9	4.5人	96	26	122
25/10	4.5人	97	27	124
25/11	4.5人	99	28	127
25/12	4.5人	100	28	128
26/1	4.5人	102	29	131
26/2	4.5人	105	30	135
26/3	4.5人	110	32	142

2013 ハピネスあだち事業計画

法人内在宅サービスの利用件数〈割合〉目標

年/月	ハピネス通所介護		ハピネス訪問介護			ハピネスSS	
	要介護者 他事業所との 割合	要支援者	要介護者 他事業所との 割合	要支援者	要介護者 要支援者 (92%)		
25/4	35人	58.3%	8人	19人	50.0%	7人	11人
25/5	36	60.0%	8	19	50.0%	7	11
25/6	36	60.0%	8	20	54.0%	8	11
25/7	37	62.5%	8	20	54.0%	10	11
25/8	37	62.5%	8	21	58.0%	10	11
25/9	38	64.0%	8	21	58.0%	10	11
25/10	39	65.0%	8	21	58.0%	10	12
25/11	40	66.0%	9	22	63.0%	11	12
25/12	41	67.5%	9	23	63.0%	11	12
26/1	41	67.5%	10	24	66.0%	12	13
26/2	42	68.0%	10	25	70.0%	12	13
26/3	42	68.0%	10	25	70.0%	12	13

介護サービスの需要の大幅な増大に対応するため、マネージャー常勤1名(ケアマネジャー兼務)、ケアマネジャー常勤4名で専任ケアマネジャー5名体制を整え、地域ニーズや課題にこたえるサービス量の拡大を図ります。また、プラン数(ケアマネ一人当たり)要介護30件・要支援8件+特定事業所加算継続取得による、独立採算性を確保していきます。

ケアマネ増プラン数増を見越して、年間1,900万円の収入を目指します。

2013 ハピネスあだち事業計画

② 訪問介護における利用者数目標推移

月	(人数)		
	要介護	要支援	合計
4月	22	20	42
5月	23	20	43
6月	23	20	43
7月	24	20	44
8月	24	20	44
9月	25	20	45
10月	25	22	47
11月	25	22	47
12月	28	22	50
1月	28	22	50
2月	28	22	50
3月	28	22	50

利用時間目標推移

月	(h)		
	要介護	要支援	合計
4月	250	120	370
5月	265	120	385
6月	265	120	385
7月	280	120	400
8月	280	120	400
9月	280	120	400
10月	320	130	450
11月	320	130	450
12月	320	130	450
1月	320	130	450
2月	320	130	450
3月	320	130	450

年間1,555万円の収入を目指します。

### ③昨年度を踏まえる

年間収入目標はほぼ達成できたが、ケアステーション（居宅介護支援事業所と訪問介護事業所）が一体的に運営できたとは言い難かった。ハピネス訪問介護への昨年度実績依頼率 50%、これを 70%へ向上させ、公平・公正性を維持しながら地域包括支援センター江北との連携を密にしていきます。今後は朝の申し送りの徹底、定期的な会議の開催を行ない、風通しの良い環境作りをマネジメントしていきます。またプラン数による独立採算性を意識した運営をしていきます。その方策は地域ニーズ開拓のため、第一優先エリア第二優先エリアを作り、分け隔てないニーズ開拓をしていきます。そのためには第一優先エリア第二優先エリア地域に明るくなり、その特性を分析していきます。

### ④脳の健康教室への参画

ハピネスあだちでは、2012 年度「学習療法シンポジウム in 足立」を開催し、地域住民向けに「脳の健康教室」を開設しました。ケアステーション部門では二つの側面から参画していきます。第一目標として認知症対策、オレンジプランを考え、医療介護機関の連携などにより、認知症と思われる人を早期に発見し、支援できる環境を整備していきます。具体的には介護保険申請代行、または足立区医師会もの忘れ相談医へ繋いでいきます。第二目標として、ケアマネジャーの認知症対応力の向上、ハピネス脳の健康教室への紹介等、地域へのアプローチを積極的に行っていきます。また予防プランの利用者中心に、脳の健康教室の参画を促し、認知症ケアのサポートをしていきます。

### ⑤地域のケアマネジメント拠点

地域のケアマネジメント拠点としての機能強化を図ります。そのため専門性の高い人材を確保し、質の高いケアマネジメントを実施していきます。具体的には常に地域包括支援センターとの連携を図り、どのような支援困難ケースでも適切に処理できる体制を整えていきます。

### ⑥職員教育

マネージャーを中心として、キャリアシートを活用し職員のスキルアップを図っていきます。また特定事業所加算の要件でもある計画的な研修の確保は、今後も継続していきます。地域の勉強会、自治会の集まり等にも積極的に参加し、地域の情報を収集していきます。特定事業所加算の要件ではさまざまな会議、記録、相談、研修が義務付けられています。加算を取る、そのことは利用者への付加サービス、質の向上に繋がります。今後はケース会議、モニタリング会議等を充実させ、質の高いケアマネジメントを提供できる体制を整えていきます。

2013 ハピネスあだち事業計画

2013 年度 居宅介護支援事業所 ケアステーションハピネスあだち 事業収支

単位:円

(地域区分)11.26	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
居宅ケアプラン数 (要介護1~2)	1000	90	91	92	95	96	96	¥5,974,189
居宅ケアプラン数 (要介護3~5)	1300							
居宅ケアプラン数 (予防)	¥4,097	21	22	22	24	26	26	¥577,677
初回加算	300	0	1	1	3	1	0	¥20,268
認知加算	150	19	19	19	20	20	20	¥197,613
独居加算	150	27	27	27	28	28	28	¥278,685
退院医療連携加算	300	0	0	0	1	0	0	¥3,378
特定事業所加算	300	90	91	92	95	96	96	¥1,891,680
認定調査	¥4,000	3	3	3	3	3	3	¥72,000
合計		250	254	256	269	270	269	¥9,515,490

(地域区分)11.26	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年合計
居宅ケアプラン数 (要介護3~5)	1000	97	99	100	102	105	110	¥6,588,438	¥12,562,627
居宅ケアプラン数 (要介護3~5)	1300								
居宅ケアプラン数 (予防)	¥4,097	27	28	28	29	30	32	¥712,878	¥1,290,555
初回加算	300	1	2	1	2	3	5	¥47,292	¥67,560
認知加算	150	20	20	20	20	20	21	¥204,369	¥401,982
独居加算	150	28	28	28	28	28	29	¥285,441	¥564,126
退院医療連携加算	300	1	0	0	0	0	0	¥3,378	¥6,756
特定事業所加算	300	97	99	100	102	105	110	¥2,070,714	¥3,962,394
認定調査	¥4,000	3	3	3	3	3	3	¥72,000	¥144,000
合計		274	279	280	286	294	310	¥10,484,510	¥19,000,000

2013 ハピネスあだち事業計画

2013 年度 訪問介護事業所 ケアステーションハピネスあだち 事業収支								単位:円
(地域区分)11.26	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	
訪問介護利用者数	22	23	23	24	24	25	141	
予防訪問介護利用者数	20	20	20	20	20	20	120	
人員配置	サービス提供責任者数	2	2	2	2	2	12	
	常勤ヘルパー数	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	9	
	登録ヘルパー実働数	8	8	8	8	9	50	
稼働時間	生活援助	140	145	145	150	150	880h	
	身体介護	50	50	50	50	50	300h	
	身体生活	60	70	70	80	80	440h	
	要支援	120	120	120	120	120	720h	
	合計時間	370	385	385	400	400	2340h	
収入	訪問介護(身体・生活)	¥620,000	¥700,000	¥700,000	¥850,000	¥850,000	¥950,000	¥4,670,000
	予防訪問介護	¥400,000	¥400,000	¥400,000	¥400,000	¥400,000	¥400,000	¥2,400,000
	自費	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥30,000
	合計金額	¥1,025,000	¥1,105,000	¥1,105,000	¥1,255,000	¥1,255,000	¥1,355,000	¥7,100,000

(地域区分)11.26	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年合計	
訪問介護利用者数	25	25	28	28	28	28	162	303	
予防訪問介護利用者数	22	22	22	22	22	22	132	252	
人員配置	サービス提供責任者数	2	2	2	2	2	12	24	
	常勤ヘルパー数	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	9	18	
	登録ヘルパー実働数	9	9	10	10	10	58	108	
稼働時間	生活援助	150	150	150	150	150	900h	1780h	
	身体介護	70	70	70	70	70	420h	720h	
	身体生活	100	100	100	100	100	600h	1040h	
	要支援	130	130	130	130	130	780h	1500h	
	合計時間	450	450	450	450	450	2,700	5040h	
収入	訪問介護(身体・生活)	¥950,000	¥950,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥5,900,000	¥10,570,000
	予防訪問介護	¥420,000	¥420,000	¥420,000	¥420,000	¥420,000	¥420,000	¥2,520,000	¥4,920,000
	自費	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥30,000	¥60,000
	合計金額	¥1,375,000	¥1,375,000	¥1,425,000	¥1,425,000	¥1,425,000	¥1,425,000	¥8,450,000	¥15,550,000

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	ケアステーションハピネスあだち			
作成者	部署名	居宅介護支援	役職名	マネージャー
	氏名	橋本飛鳥		
年度目標 テーマ	在宅生活継続への支援「地域居住を目指して」			
<p>24年4月～25年3年の平均プラン数は、ケアマネ3.5人体制で（ケアマネ一人当たり）要介護29件、要支援7件となりました。今年度も引き続き地域包括支援センターやサービス事業所、病院等へプラン受託可能件数を伝える営業をしていきます。介護保険制度改正二年目となり、また施設方針である在宅重視を受け、制度に即した対応をしていきます。そうすることによって法人内在宅サービスの利用に貢献していきます。現在のハピネス在宅サービス依頼割合は、ハピネス通所介護：58.3% ハピネス訪問介護：50% ハピネスショート：92%となっています。この割合を、ほぼ100%の依頼割合のショートは現状維持を目指し、制度改正が大きかった通所介護、訪問介護の割合をそれぞれ現在の58.3%→68%、50%→70%とし、プラン数（ケアマネ一人当たり）要介護30件・要支援8件+特定事業所加算継続取得により、独立採算性を確保していきます。</p> <p>また、ケアステーションハピネスあだちの管轄エリアである江北・堀之内地区の総人口は約2万人、うち高齢者数約6千人、高齢化率は30%を超えています。地域の実態を踏まえ、高齢者の孤立を防ぎ、地域で安心して生き生きと暮らし続けることができるよう、高齢者と関わる機会を作り、医療と介護の連携を強化し、在宅支援の推進を図ります。</p> <p>また、医療介護サービスの需要の大幅な増大に対応するため、人材の確保や定着、組織マネジメント力の強化に取り組みます。今後は地域包括ケアシステムの中心に、特別養護老人ホームハピネスあだちを拠点としたパッケージプランを確立していきます。</p> <p>利用者が住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるよう、気軽に相談ができる地域居住、エイジング・イン・プレイス in 江北・堀之内を支えることのできるケアステーションハピネスあだちを目指します。</p>				



## ケアプランの目標推移

年/月	CM 人数	要介護件数	要支援件数	合計件数
25/3	3.5 人	90 件	21 件	111 件
25/4	4.5 人	90	21	111
25/5	4.5 人	91	22	113
25/6	4.5 人	92	22	114
25/7	4.5 人	95	24	119
25/8	4.5 人	96	26	122
25/9	4.5 人	96	26	122
25/10	4.5 人	97	27	124
25/11	4.5 人	99	28	127
25/12	4.5 人	100	28	128
26/1	4.5 人	102	29	131
26/2	4.5 人	105	30	135
26/3	4.5 人	110	32	142

エビデンスに基づいた計画実行をしていきます。

## ① ケアマネジャー配置状況

介護サービスの需要の大幅な増大に対応するため、マネージャー常勤1名(ケアマネジャー兼務)、ケアマネジャー常勤4名で専任ケアマネジャー5名体制を整え、地域ニーズや課題にこたえるサービス量の拡大を図ります。また、プラン数(ケアマネ一人当たり)要介護30件・要支援8件+特定事業所加算継続取得による、独立採算性を確保していきます。

## ② ケアステーションハピネス居宅の特徴

- ・利用者家族の気持ちを考慮した丁寧で迅速な対応に努めていきます。
- ・法人内のサービスを最大限に活用して通所介護・訪問介護・ショートステイとの連携を図り、利用者家族の生活の不安が減るように努めていきます。
- ・介護サービスの提供だけにとどまらず、地域社会のインフォーマルな資源を十二分に活用し、利用者を中心にご家族や近隣の人たちが安心安全に暮らせるような提案ができる介護支援専門員を目指していきます。
- ・ケアステーション(居宅介護支援事業所と訪問介護事業所)が一体的に運営できるように、また公平・公正性を維持しながら地域包括支援センター江北との連携を密にしていくために、今後は朝の申し送りの徹底、定期的な会議の開催を行ない、風通しの良い環境作りをマネジメントしていきます。

③ 法人内在宅サービスの利用件数〈割合〉目標

年/月	ハピネス通所介護		ハピネス訪問介護			ハピネス SS	
	要介護者 他事業所との 割合	要支援 者	要介護者 他事業所との 割合	要支援 者	要介護者 要支援者 (92%)		
25/4	35人	58.3%	8人	19人	50.0%	7人	11人
25/5	36	60.0%	8	19	50.0%	7	11
25/6	36	60.0%	8	20	54.0%	8	11
25/7	37	62.5%	8	20	54.0%	10	11
25/8	37	62.5%	8	21	58.0%	10	11
25/9	38	64.0%	8	21	58.0%	10	11
25/10	39	65.0%	8	21	58.0%	10	12
25/11	40	66.0%	9	22	63.0%	11	12
25/12	41	67.5%	9	23	63.0%	11	12
26/1	41	67.5%	10	24	66.0%	12	13
26/2	42	68.0%	10	25	70.0%	12	13
26/3	42	68.0%	10	25	70.0%	12	13

現在のハピネス在宅サービス依頼割合は、ハピネス通所介護：58.3% ハピネス訪問介護：50% ハピネスショート：92%となっている。この割合を、ほぼ100%の依頼割合のショートは現状維持を目指し、制度改正が大きかった通所介護、訪問介護の割合をそれぞれ現在の58.3%→68%、50%→70%とし、プラン数（ケアマネー人当たり）要介護30件・要支援8件達成を目指していきます。

④ 2012年度分析・評価から見た方針

「介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する検討会」の情報収集を積極的に行います。そして次年度以降にある介護保険改正にいち早く対応していきます

⑤ 介護保険制度改正における加算取得の対応

各種加算の取得を積極的にチャレンジしていきます。そうすること自体が利用者への付加サービス、質の向上に繋がります。

⑥ ケアマネジャー研修 職員研修 キャリアシートの確立

特定事業所加算の要件でもある計画的な研修の確保は、今後も継続していきます。地域の勉強会、自治会の集まり等にも積極的に参加し、地域の情報を収集していきます。

- ・ 東京都介護支援専門員現任研修
- ・ 足立区介護支援専門員現任研修
- ・ 足立区事業者連絡会
- ・ 足立区西部ブロック研修
- ・ 足立区居宅介護支援部会
- ・ 足立区けあまね研究会
- ・ 権利擁護センターとの会議
- ・ 介護保険制度の改正に伴う講習や説明会などの研修
- ・ 地域包括支援センター主催の学習会や検討事例会
- ・ その他（認知症に関するセミナーや個人情報保護法についての研修等）
- ・ 介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する検討会への研修

⑦ 地域との連携

- ・ 利用者は、介護の対象なのではなく生活する主体との考えを持っています。地域包括ケアシステム「医療」と「介護」の垣根が取り払われている今、地域との連携を密にしていき、利用者一人ひとりにとって、住み慣れた地域で最期まで暮らせる仕組みを作っていきます。その方策は地域ニーズ開拓のため、第一優先エリア第二優先エリアを作り、分け隔てないニーズ開拓をしていきます。
- ・ また、認知症対策として、オレンジプランを意識し、医療介護機関の連携などにより、認知症と思われる人を早期に発見し、支援できる環境を整備していきます。具体的には介護保険申請代行、または足立区医師会もの忘れ相談医へ繋いでいきます。またケアマネジャーの認知症対応力の向上、ハピネス脳の健康教室への紹介等、地域へのアプローチを積極的に行っていきます。

⑧ 他事業所との連携

地域包括支援センター江北や他事業所との連携はもちろんのこと、地域包括ケアシステムに向けての医療関係や地域との連携を密にしていきます。また、他事業所の高稼働率の手法

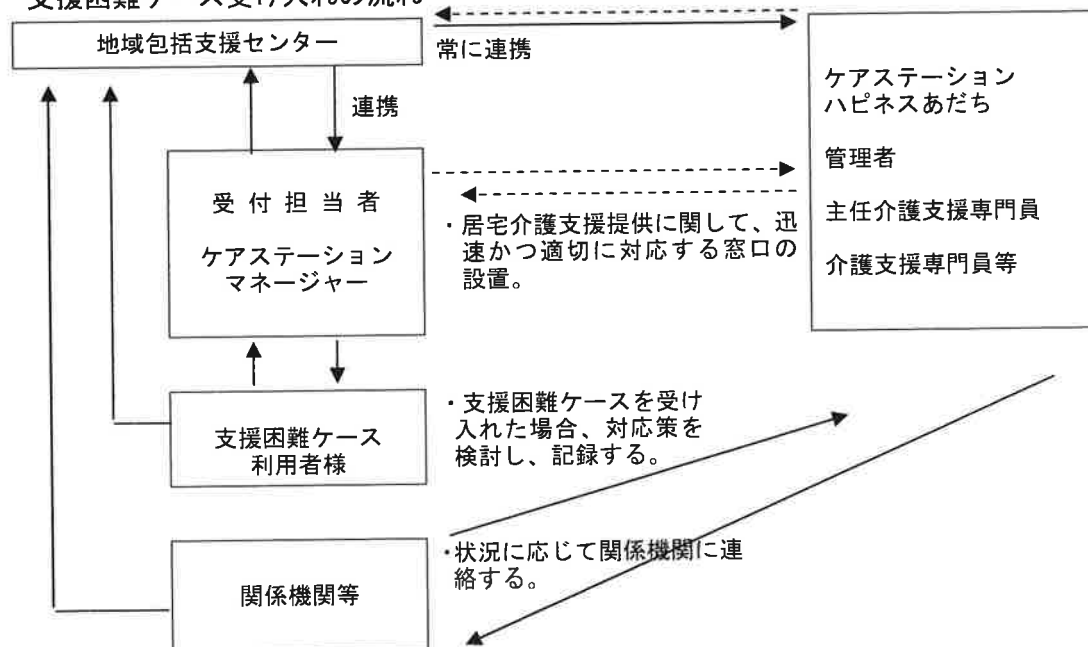
を学ぶべく、定期的な見学依頼等も取り入れていきます。また予防プランの利用者中心に、脳の健康教室の参画を促し、認知症ケアのサポートをしていきます。

⑨ 地域ケアマネジメント拠点

地域のケアマネジメント拠点としての機能強化を図ります。そのため専門性の高い人材を確保し、質の高いケアマネジメントを実施していきます。具体的には常に地域包括支援センターとの連携を図り、どのような支援困難ケースでも適切に処理できる体制を整えていきます。

円滑かつ迅速に支援困難ケースを受け入れるための体制・手順

支援困難ケース受け入れの流れ



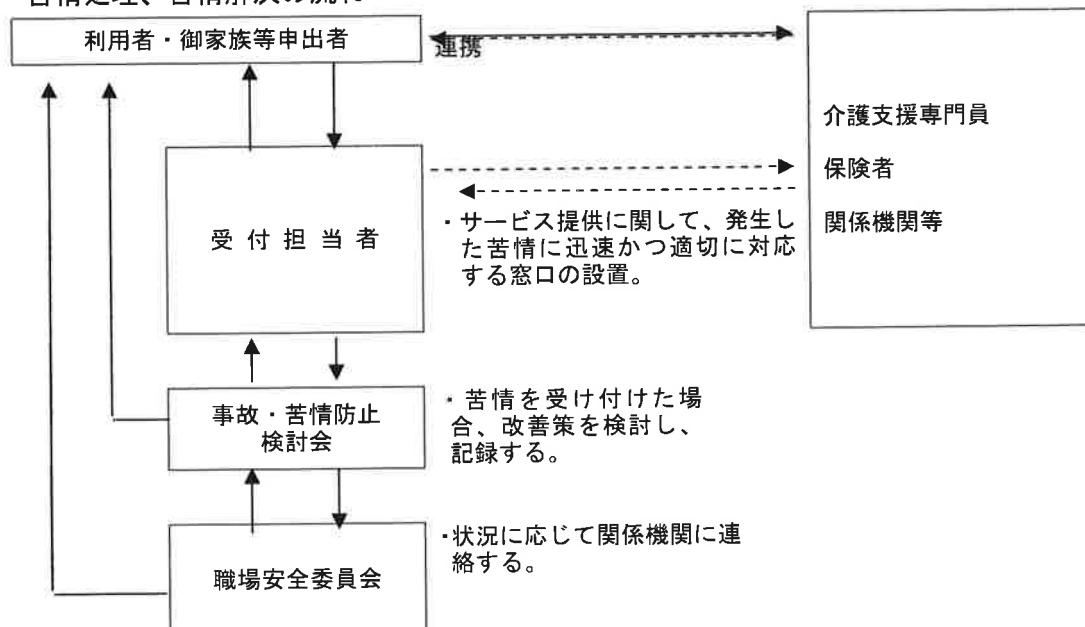
⑩ 苦情

- ・利用者、家族等との信頼関係を普段から心がけ、要望が言いやすい体制づくりに努めていきます。また、訪問時やカンファレンスの場を活用し、要望・苦情を積極的に聴き取り、サービスの向上につなげていきます。
- ・ハピネスあだち苦情対応規定に基づき、苦情解決の手順を守っていきます。苦情を受け付

けた職員は速やかにマネージャーへ報告し、報告を受けたマネージャーは、申し出者へ即日連絡をとり、再度詳しく話しを伺い、1週間を目安に解決・詳細説明に取り組みます。  
 また、職員の基本姿勢として、苦情に対しては全職員が貴重な意見として対応します。  
 ・東京都国民健康保険団体連合会出版の苦情相談白書にも積極的に目を通し、居宅介護支援での苦情の分析をしていきます。

円滑かつ迅速に苦情処理を行うための処理体制・手順

苦情処理、苦情解決の流れ



⑪ 安全管理・防災対策

- ・ 災害発生時のマニュアルを整備し、災害発生時に円滑に行動ができるよう、日頃から職員での共通認識を図っていきます。また、状況が落ち着いた後、居宅介護支援事業所利用者一覧表を基に、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯を優先して安否確認を行います。
- ・ 災害発生直後の第一段階  
 居宅介護支援事業所利用者・職員の安全確保・火の始末・出口確認
- ・ 第二段階

利用者の避難誘導・職員の安否確認・施設の安全確認・危険個所の立ち入り禁止措置・近隣住宅の火災や倒壊の有無確認・区への状況報告（メールや固定電話の活用）

・ 第三段階

優先順位に基づいた高齢者の安否確認

家族や地域から信頼される施設づくりに努めていきます。

⑫コンプライアンス「業務管理（法令順守）体制」への取組み計画

事業の取組みについて確認し、問題点が認められた場合には、自らが業務管理体制改善を図り、法令等の遵守に取り組めるよう意識づけを行っていきます。

2013 ハピネスあだち事業計画

		2013 上半期						2013 下半期					
		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		第1四半期		第2四半期	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程		居宅ミーティング 新人職員研修	居宅ミーティング 職責整理、接客マナー研修	居宅ミーティング	居宅ミーティング	居宅ミーティング リスクマネージメント トラブルシューティング 研修	居宅ミーティング	居宅ミーティング	居宅ミーティング 認知症ケア研修 ボランティア活動の無い オープン講座 延年会	居宅ミーティング	居宅ミーティング	居宅ミーティング	居宅ミーティング
稼働率目標		要介護プラン 90件 要支援プラン 21件	要介護プラン 91件 要支援プラン 22件	要介護プラン 92件 要支援プラン 22件	要介護プラン 95件 要支援プラン 24件	要介護プラン 96件 要支援プラン 26件	要介護プラン 96件 要支援プラン 26件	要介護プラン 97件 要支援プラン 27件	要介護プラン 99件 要支援プラン 28件	要介護プラン 100件 要支援プラン 28件	要介護プラン 102件 要支援プラン 29件	要介護プラン 105件 要支援プラン 30件	要介護プラン 110件 要支援プラン 32件
各種会議・委員会		包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議 職員会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議 職員会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議 職員会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議 職員会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議 職員会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議	包括ケアステ会議 ハビネス訪問会議 ケアステ会議 施設連携会議 在宅連携会議 職員会議
人事管理（採用、研修、評価）		新人職員研修											
その他外部研修等受入れ等			権利保護マネージメント					認知症ケア		リスクマネージメント			感染症について

随時 東京都介護支援専門員研修

随時 足区介護支援専門員研修

2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	ケアステーションハピネスあだち訪問介護			
作成者	部署名	訪問介護	役職名	サービス提供責任者
	氏名	二宮 淑恵		
年度目標 テーマ	笑顔で在宅生活が続けられるお手伝い「地域居住を目指して」			

ケアステーション訪問介護部門では、笑顔で在宅生活が続けられるお手伝い「地域居住を目指して」をテーマに運営していきます。

在宅で最期を迎えたいというニーズが増えつつあり、ニーズに応えるためにも医療機関、ケアマネジャー、地域包括支援センター江北との連携を密にしていき、困難事例にも対応できるよう体制を作っていきます。

ハピネスあだち居宅介護支援事業所からの依頼を重点に置きます。また他事業所からの利用者数を増やし、新規開拓した事業所からの依頼を受けるよう、当事業所の告知営業の活動を継続していきます。その為にサービス提供責任者、常勤ヘルパーの定着、登録ヘルパーの増員等行っていき、地域住民のニーズに応えられるように、月1回のヘルパーミーティング、施設内研修、外部提供責任者研修、機能訓練士からの直接的アドバイスによる介護技術取得等、スキルアップの為の研修を行っていきます。

(1) 利用者数目標

(人数)

月	要介護	要支援	合計
4月	22	20	42
5月	23	20	43
6月	23	20	43
7月	24	20	44
8月	24	20	44
9月	25	20	45
10月	25	22	47
11月	25	22	47
12月	28	22	50
1月	28	22	50
2月	28	22	50
3月	28	22	50

10件の増加を目指します。



2013 ハピネスあだち事業計画

(2) 利用時間目標

(h)

月	要介護	要支援	合計
4月	250	120	370
5月	265	120	385
6月	265	120	385
7月	280	120	400
8月	280	120	400
9月	280	120	400
10月	320	130	450
11月	320	130	450
12月	320	130	450
1月	320	130	450
2月	320	130	450
3月	320	130	450

(3) サービス区分目標

(h)

月	生活援助	身体介護	身体生活	生活支援(予防)
4月	140	50	60	120
5月	145	50	70	120
6月	150	50	70	120
7月	150	50	80	120
8月	150	50	80	120
9月	150	70	100	120
10月	150	70	100	130
11月	150	70	100	130
12月	150	70	100	130
1月	150	70	100	130
2月	150	70	100	130
3月	150	70	100	130

年間1,555万円の収入を目指します。

## 2013 ハピネスあだち事業計画

居宅介護支援事業所からの件数 2013年2月現在 要介護 20件 予防 20件

### ハピネスあだち居宅介護支援事業所

	17件（要介護）	8件（要支援）
八葉会	1件（要介護）	
ケアサービスとも	1件（要介護）	
ゆいま～るつばき	1件（要介護）	
地域包括支援センター江北	9件（要支援）	
ニッセイケア	1件（要支援）	
友興の園	2件（要支援）	

ハピネスあだち居宅介護支援事業所からの依頼の目標  
ケアマネジャー1名に対し10件の依頼を目標とします。

他事業所に関しては毎月の実績を届けるときに、ヘルパーの空き情報や情報誌を持参し、コミュニケーションを取り利用者依頼の獲得に繋げていきます。

### 新規の居宅介護支援事業所に対する営業企画

#### 現状分析

- (1) ケアマネジャーは顔見知りの訪問介護へサービスを依頼する
- (2) 殆どの居宅介護支援事業所に訪問介護支援事業所が併設されている
- (3) 依頼があっても介護保険法に適切でないサービスは受けにくい

課題	訪問件数を増やす
方針	件数を決め営業訪問する
目的	当事業所を認知してもらう・サービスを依頼してもらう
スケジュール	毎月件数を決め訪問する（月末、月初め、悪天候は除く）

計画達成予定日 2014年3月31日

#### (4) 職員配置計画

サービス提供責任者 2名体制

常勤 1.5名配置（サービスを増やしていきます）

登録ヘルパーを随時増員します

#### (5) 研修、会議開催計画

現在行っている月1回のヘルパーミーティングを継続します。またスキルアップのため研修を定期的に行います。

5項目（職業倫理・法令遵守、 接遇、プライバシー保護、リスクマネジメント、認知症ケア）研修随時行っていきます。

足立区訪問介護部会

サービス提供責任者ネットワーク研修参加

外部開催の研修に参加していきます。

#### (6) 苦情対応

利用者からの苦情はマネージャーが対応、

苦情解決は管理者対応となっているが、サービス提供責任者で

解決が出来る苦情の為、今後も適切な対応を心がけていきます。

ヒヤリハットでの気づきを大切にしていき、サービスに勤めていきます。

#### (7) 第三者評価受審事業計画

第三者評価を受審し、指導内容を業務内容向上につなげていきます。

#### (8) コンプライアンス「業務管理（法令遵守）体制」への取り組み計画

- ・ サービス提供責任者、訪問介護員が介護保険法にのっとり在宅で適切に支援できるようサービスの質の向上に努めていきます。
- ・ 職場内ルール、社会的ルールの遵守に努めていきます。



2013 ハピネスあだち事業計画

事業名	2013 年度ハピネスあだち地域包括支援センター事業計画			
作成者	部署名	地域包括支援センター	役職名	相談員
	氏名	津波 幸太		
年度目標 テーマ	「地域を紡ぐ」 ～孤立に寄り添う地域を目指して～			
<p><b>年度方針</b></p> <p>近年、血縁関係の希薄化、地縁の衰退など、人と人とのつながりが薄れたことにより孤立化が社会問題となっています。江北・堀之内地域においても活発に自治会活動に取り組んでいる地域もありますが、その一方で団地の建て替えなどにより地域コミュニティが崩壊している地域もあり、孤立状態に陥ってしまう高齢者が多く存在しています。</p> <p>そこで、2013 年度は「地域を紡ぐ」を年度目標とし、綿や繭を錘にかけて繊維を引き出し、縴りをかけて糸にするように、地域住民の方々や社会資源、介護保険サービス、各関係機関などを紡ぎ、たくさんの糸（ネットワーク）を地域に張り巡らせることにより、誰もが安心して住み続けることのできる地域社会の実現へ向けて支援をしていきます。</p> <p>具体案として「孤立ゼロプロジェクト」を通し、孤立のおそれのある高齢者と地域をつなぎ、地域住民同士が支え合えるよう支援を行い、孤立に寄り添う地域を目指します。</p> <p>そして、2012 年度に行った高齢者見守り支援事業にて構築したネットワークを生かしつつ、まだ介入が進んでいない地域にも自治会行事や役員会への参加、地域のキーとなる人材や人脈を中心に地域開拓活動を積極的に行っていきます。</p> <p>また、江北・堀之内地域は依然として高齢化率が 30%を超え、足立区の中で一番高い数値となっており、困難事例の増加、ケースの重度化が考えられるため、各関係機関やハピネスあだち法人と連携を図りながら地域のニーズに応えていきます。</p> <p> </p> <p>* 以下、高齢サービス課運営方針参照</p> <p>(目的)</p> <p>高齢者が住みなれた地域で安心して尊厳ある生活を続けられるよう、心身の健康維持と生活の安定のために必要な相談、援助を行うことにより保健医療の向上及び福祉の増進を総合的、包括的に支援することを目的とします。</p> <p>さらに、地域や関係機関とのネットワークを構築することにより、地域住民の様々なニーズに応えることができるよう、公的な高齢者福祉の拠点となることを目指します。</p> <p> </p> <p>(基本的な運営方針)</p> <p>1 公的機関として、公正性・中立性を確保します。</p> <p>支援センターは、区の介護、福祉の一翼を担う「公的な機関」として、公正で中立な事業運営を行います。高齢者や介護家族、地域から寄せられる様々な相談に対し、分け隔てなく親切丁寧</p>				

寧に対応します。

- 2 地域のネットワークを活用し、高齢者が安心して生活していけるよう支援します。

高齢者の生活を支えるために、介護保険サービスのみならず、保険、医療、福祉等様々な社会資源を把握し、関係期間と幅広く連携しながら適切に結び付けていきます。

また、「足立あんしんネットワーク」の中核機関として、地域のボランティア、専門相談協力員（民生委員）、各種団体、その他公的機関とのネットワーク作りの推進を、高齢者の異変に速やかに対応するとともに、課題を抱える高齢者を早期に発見し、必要なサービスにつなげていきます。

- 3 高齢者が自分らしい生活を維持することができるよう支援します。

高齢者がいつまでも健康で自分らしい生活を送るため、積極的に介護予防の普及啓発に取り組みます。また、対象者の心身の状況に応じた介護予防事業が効率的に実施されるよう援助を行います。

- 4 チームアプローチにより基本業務を行います。

社会福祉士、保健師（看護師）、主任介護支援専門員の3職種がそれぞれの専門知識を活かして、高齢者に関する様々なニーズに的確に対応していきます。さらに、多様化、複雑化した課題には相互に協力しながら、チームとして多面的な視点から問題の解決を図ります。そして、円滑なチームアプローチのために、日常的な情報共有化に努めます。

（運営事業内容）

- 1 総合相談

- （1）相談業務

多種多様な相談者や相談内容を初期対応の段階で的確に把握し、速やかに適切なサービス利用や制度につなげます。そのために、高齢者にとって信頼のおける身近な公的機関として、公平なサービス利用につなげる環境づくりに継続的に取り組んでいきます。

- （2）実態把握

あんしんネットワーク事業等を通じ、援助が必要な高齢者の情報収集を積極的に行い実態把握に努めます。また、地域に出て実態調査を行い、高齢者の孤立や深刻な事態に発展する危険性を回避します。

- 2 高齢者虐待の防止及び権利擁護

- （1）高齢者虐待の防止及び相談支援

高齢者虐待に関する通報、相談についての初動体制では、深刻な事態になる前に関係機関との連携及び実態把握を行い、早期発見と早期対応をします。また、見守り体制の構築に努めます。困難事例に対しては3職種が専門性を発揮して協働で対応します。また、問題解決を円滑に進めるために、高齢者虐待防止ネットワークにおける関係機関のそれぞれの役割と相互に連携し、適切な介入を行います。

- （2）消費者被害防止の啓発

あんしんネットワーク関係者や介護支援専門員、訪問介護事業者、地域住民等から消費者被害に関する情報が支援センターにもたらされるよう働きかけるとともに、消費者センターと連携し消費者被害防止のための啓発に努めます。

(3) 成年後見制度の周知及び利用支援

認知症高齢者や一人暮らし高齢者の増加に伴い、日常生活での金銭管理に支障をきたす事例が発生しています。このような不安を抱える高齢者の相談に応じ、権利擁護センターあだち等関係機関と連携し、成年後見制度、高齢者あんしん生活支援事業、その他必要なサービスの提供に向けた支援を行います。また、いつまでも人として尊厳ある生活を営むため、権利擁護の側面から早期に老い支度への取り組みが図られるよう周知啓発に努めます。

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

(1) 地域における包括的・継続的マネジメント体制の構築

高齢者が個々の状況や変化に応じ、介護保険を始めとする様々なサービスを適切に利用できるよう、介護支援専門員を中心として、医療、介護、介護予防、その他の生活支援サービス等の社会資源が有効に活用できるよう、地域ケアネットワーク事業を通じ連携体制の構築を目指します。

(2) 介護支援専門員への支援

地域の介護支援専門員が適切なケアマネジメントの実施が阻害されることのないよう支援を行います。

4 介護予防ケアマネジメント

(1) 介護予防事業の推進及び介護予防ケアマネジメントの実施

高齢者が健康で自立した生活を送れるよう、介護予防の考え方や介護予防事業の積極的な活用について、日常的な活動を通じて広く周知・啓発します。また、介護予防基本チェックリストの結果から介護予防が必要と判定された高齢者（以下「二次予防事業対象者」という。）が要介護状態になることを予防するために、対象者一人ひとりの心身の状況にあわせた介護予防ケアマネジメントを行います。

(2) 通所型介護予防事業の実施支援

より多くの二次予防事業対象者に介護予防への取り組みを広げていくため、二次予防事業対象者に区が実施する通所型介護予防事業（らくらく教室）への参加を促します。また約3ヶ月間の事業期間中から終了後まで、参加者が介護予防の取り組みを続けられるよう継続的に支援します。

(3) 介護予防セルフプラン事業の実施

通所型介護予防事業（らくらく教室）の参加につながらない二次予防事業対象者について、対象者本人と相談しながら個別の介護予防ケアプランを作成し、自身の生活状況に応じた介護予防への取り組みを推進します。

(4) 予防給付ケアマネジメントの実施

要支援認定者の予防給付のケアマネジメントにおいて、利用者の状況に応じ自立を促す為の適

切なケアプランの作成、モニタリング、評価を行い効果的なサービス利用と継続した支援を実施します。また業務の一部を居宅介護支援事業所に委託していることから、適正な業務が行われるよう調整を行います。

#### 5 地域におけるネットワーク活動

##### (1) あんしんネットワーク事業の周知・拡充

様々な課題を抱えた高齢者の定期的な見守りや、必要なサービスへ繋げていけるよう、また、異変を早期に発見し対応することができるよう、区と協働してあんしんネットワーク事業について広く周知を行い、あんしん協力員、あんしん協力機関の拡大を図ります。

##### (2) あんしんネットワークの連携強化

あんしんネットワーク関係者と日常的に顔の見える関係作りを心がけ、活動に関わる相談や助言等を適切に行い、信頼関係を築いていくことで連携を強化していきます。また、あんしん関係者との連絡会を定期的開催し、ネットワークづくり、地域の情報交換、課題について話し合い、地域ニーズの把握と課題解決に向けた方向性を検討していきます。

##### (3) 寄り添い支援事業の実施

区民が社会的な孤立状態となることを防止するための孤立ゼロプロジェクト推進事業において、孤立の恐れがある高齢者を対象に、区、地域のボランティアが及び関係団体と連携しながら、必要な支援に繋げていくための寄り添い支援事業を実施します。

#### 6 認知症高齢者及び家族に関する取り組み

##### (1) 認知症の予防

早い段階で、広く地域住民に認知症に関する正しい知識の普及啓発を行うことで、予防について意識の向上に努めます。

##### (2) 認知症の早期発見

認知症の心配を抱えた高齢者や家族の相談に応じ、早期発見に努めます。

##### (3) 認知症高齢者に対する支援

あんしんネットワークを活用し、関係者や関係機関から情報が寄せられやすい環境をつくります。対応にあたっては、介護支援専門員や医療機関等と連携をとりながら積極的に相談・支援を行います。支援困難事例については、抱え込まず関係機関からの支援を得ながら問題解決にあたります。

##### (4) 認知症になっても安心して暮らせる地域づくり

地域全体で見守り支援していく体制作りのために、「認知症サポーター」の養成を推進していきます。

##### (5) 認知症高齢者等の介護者家族に対する支援

認知症高齢者及び寝たきり高齢者などを介護する家族の介護負担を軽減するため、介護の知識やケアの方法、介護者の心身の健康保持に役立つ社会資源の活用について、認知症高齢者本人及び介護者の状況や要望に沿って適切な助言を行います。

#### 7 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築



区及び専門職を交えた地域ケア会議を設置し、多職種と協働することで関係機関とのネットワークを強化し、効果的な課題解決を図り、さらに課題分析を行うことで地域課題を把握していきます。

## 8 運営体制の向上

### (1) 職員の姿勢

地域で暮らす高齢者に最善の利益を図るため業務を遂行します。「公平性・中立性」を第一に考え、利用者本位の視点に立って支援を進めます。

### (2) スキルアップ

相談技術、ケアマネジメント技術の向上、その他地域包括業務に必要な知識や技術の習得を目的とした研修や講演会、各職種別の専門性を高めるための勉強会等に積極的に参加します。

### (3) 区及び他地域包括支援センターとの連携強化

支援困難な事例にも迅速に対応できるよう、区の関係部署や基幹包括支援センターと日常的な連携を進めていきます。また、区が行う高齢者施策に基づく各種事業に協力し、高齢者の保健福祉の向上に努めます。広域的な社会資源の情報共有化、また事業効果を高めるため必要に応じ事業を共催するなど、他の支援センターとの連携を図ります。

## 9 その他

### (1) 個人情報保護

介護保険法、足立区地域包括支援センター事業実施要綱、その他法令に基づく守秘義務を遵守します。また、区との契約条項に示された個人情報の取り扱いに関する事項に留意し、電子データ、紙媒体、その他保有するいかなる個人情報についても、漏洩、盗難、紛失、破損がないよう必要な対策を講じます。

### (2) 災害発生時の対応

災害発生時のマニュアルを整備し、災害発生時に円滑に行動ができるよう、日ごろから職員間での共通認識を図ります。

### (事業別具体策)

#### (1) 高齢者実態把握

「孤立ゼロプロジェクト」実施に伴い、今後相当数の件数が見込まれます。

#### (2) 家族介護者教室（合同含）

年間 6 回

認知症高齢者等の介護者家族に対し、正しい知識と対応等勉強会を実施していきます。

#### (3) 地域ケアネットワーク（合同含）

年間 4 回

地域のケアマネージャーの質の向上のための勉強会を事例検討会含み開催します。

#### (4) 緊急対応

随時対応

(5) 緊急移送対応

随時対応

(6) もの忘れ相談

年間4回

足立区医師会からの派遣による地域の医師と対象者及びその家族が物忘れに関する相談を気軽にできて、且適切な機関へ繋ぐことにより早期発見治療を目標とします。

(加算事業)

二次予防ケアプラン作成

目標数値：事業参加支援30件、セルフプラン30件

元気高齢者を増やす目的として、二次予防者に対する事業に力を注ぐことが急務であると思われまます。

介護予防事業

介護予防教室

年間26回

毎月行っている予防教室の他、地域のニーズにより回数を増やし、自立した生活を営めることを目的とします。

その他

(1) 各種会議

- ・包括支援センター連絡会

行政からの情報提供

- ・ブロック会議

ブロック内合同行事の会議

- ・三職種情報交換会

職種別の知識向上

- ・センター内会議

- ・グループホーム運営推進会議

エリア内2箇所のグループホームと地域との関わり

(2) 各種研修参加

様々なケースに迅速的確な対応ができる人材を育てることを目標とします。また、専門知識を深めるために研修参加を積極的に行います。

- ・東京都包括支援センター職員研修

- ・足立区包括支援センター職員研修

- ・東京都保健局研修

- ・東京都社会福祉協議会研修

- ・足立区保健センター研修

- ・ 成年後見人研修
- ・ 介護支援専門員更新研修
- ・ 東京都介護支援専門員現任・専門研修
- ・ 足立区介護支援専門員現任研修
- ・ ソーシャルワーク実践養成研修
- ・ 在宅環境整備研修等

(3) 苦情

0 件

日ごろの言動に注意をはらい、他機関と連携を図りながら意見統一に努めます。

(4) 地域貢献活動

- ・ 各自治会への（婦人部・老人部）行事参加
- ・ 健康相談

自治会と連携を図るため、役員会や地域行事への参加・健康相談等実施していきます。

(5) 実習生受け入れ

- ・ 西新井看護専門学校
- ・ 埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科
- ・ 帝京大学医療技術学部看護学科

(6) 収支計画

- ・ 介護予防支援費 目標数値 190 件（月）

地域への活動や介護予防事業への活動に重点を置くため、介護予防支援へのプラン数は委託を中心に対応していきます。

- ・ 予算計上計画 \* 別紙資料 I 参照

(7) 年間予定表 \* 別紙

2013 ハピネスあだち事業計画

2013年度【地域包括支援センター】月別年間スケジュール表												
	2013上半期					2013下半期						
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2013年	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2013年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程	介護予防教室×2 地域ケアネットワーク	介護予防教室×2 合同介護者教室	介護予防教室×2 合同介護者教室	介護予防教室×2 地域ケアネットワーク	介護予防教室×2 合同介護者教室	介護予防教室×2 合同介護者教室	介護予防教室×2 合同介護者教室	介護予防教室×2 地域ケアネットワーク	介護予防教室×2	介護予防教室×2 合同介護者教室	介護予防教室×2 地域ケアネットワーク 介護者教室	介護予防教室×2 合同介護者教室
稼働率目標	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     もの忘れ相談 毎4回実施予定                      あんしん暮らし支援事業による行事・健康相談、役員会等出席予定                 </div>											
各種会議・委員会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     支援センター連絡会                      西部ブロック会議                      あんしん連絡会                      地域包括支援センター運営委員会                      主任CM情報交換会                      社会福祉士福祉交換会                      プランナー情報交換会                      自治会役員会や行事への参加予定                 </div>											
人事管理（採用・研修・評価）	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     研修目標については随時予定                 </div>											
その他外部研修等受入れ等	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     西村保健専門学院                      西村保健医療福祉学部                      西村保健福祉学部                      西村保健福祉学部                      より研修生受け入れ予定                 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     介護予防支援費                      360万                 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     加算任意事業請求                      実績                 </div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     支援センター連絡会                      西部ブロック会議                      あんしん連絡会                 </div>											